

成田山事業年報

昭和五年

2582
101

258. 2-101



1200501346605



始

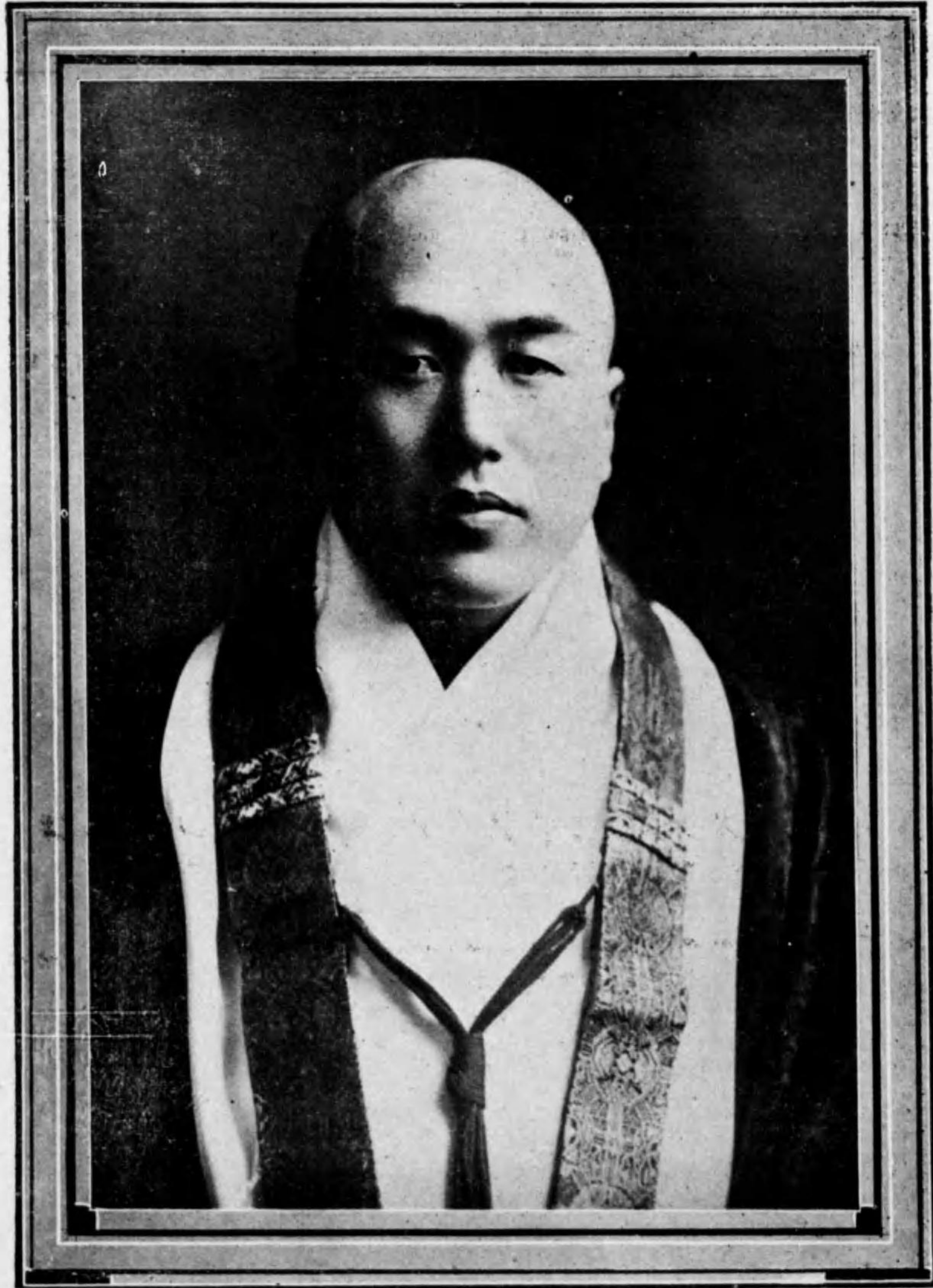


成田山事業年報

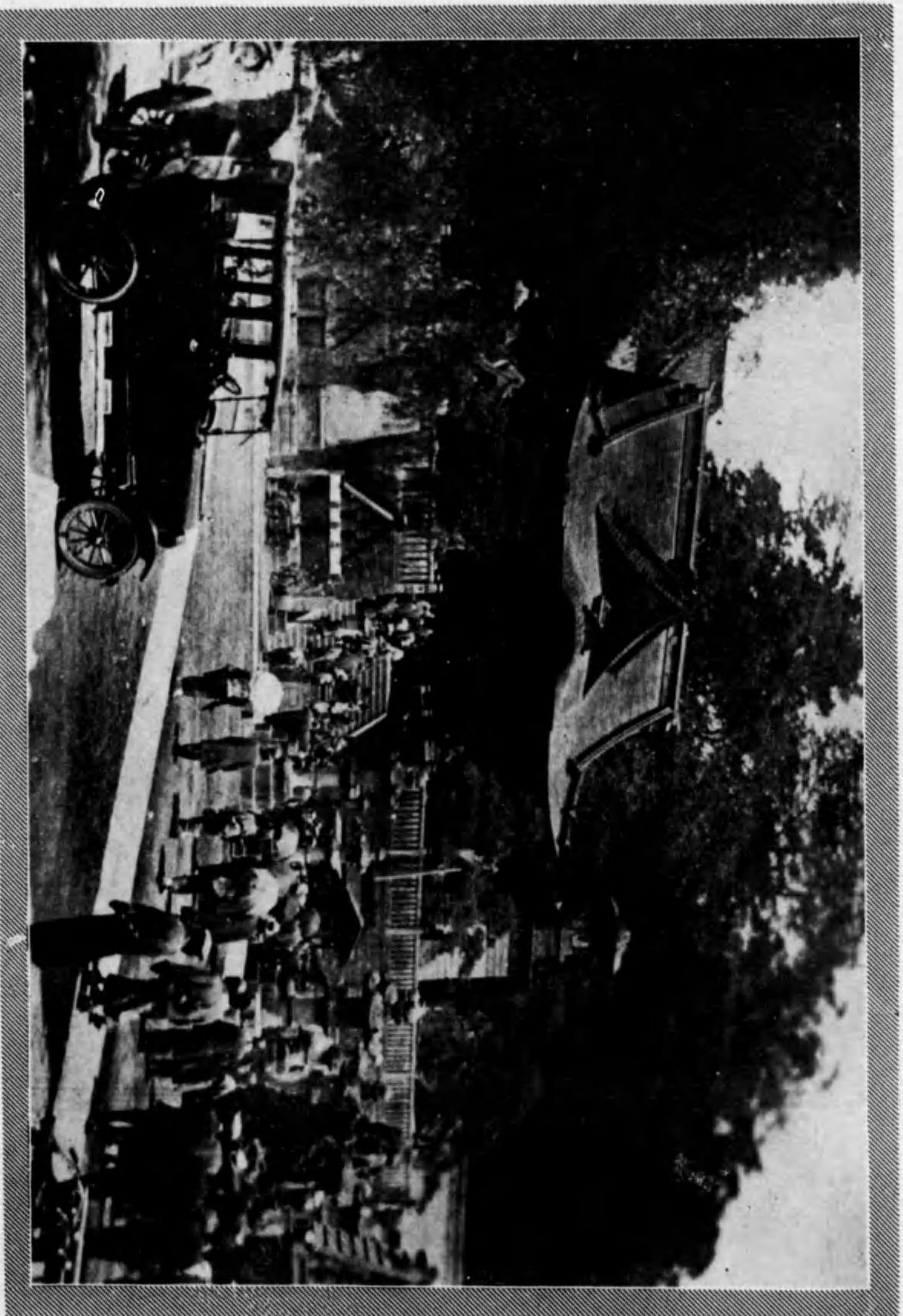
昭和五年

目次

成田中學校一覽	一
成田高等女學校一覽	四九
成田幼稚園一覽	七三
成田學園一覽	八三
成田圖書館一覽	九九
新更會一覽	一一七



主 山 木 荒



門 王 仁 山 田 成



成田中學校一覽

教育方針綱領	一
成田中學校自治會規約	一
沿革大略	七
學 曆	八
成田中學校々則	九
職員表	一四
生徒表	一五
英漢義塾卒業生人名	二二
卒業生人名及現況表	二三
卒業生及生徒郡別表	四七
經 費	四七

成田圖書館寄贈本



東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴尾上八郎氏作歌

學習院 教官
嚴玉 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をとよもす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈域は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗のもとに

つどへつどへ成邱の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたたかひ

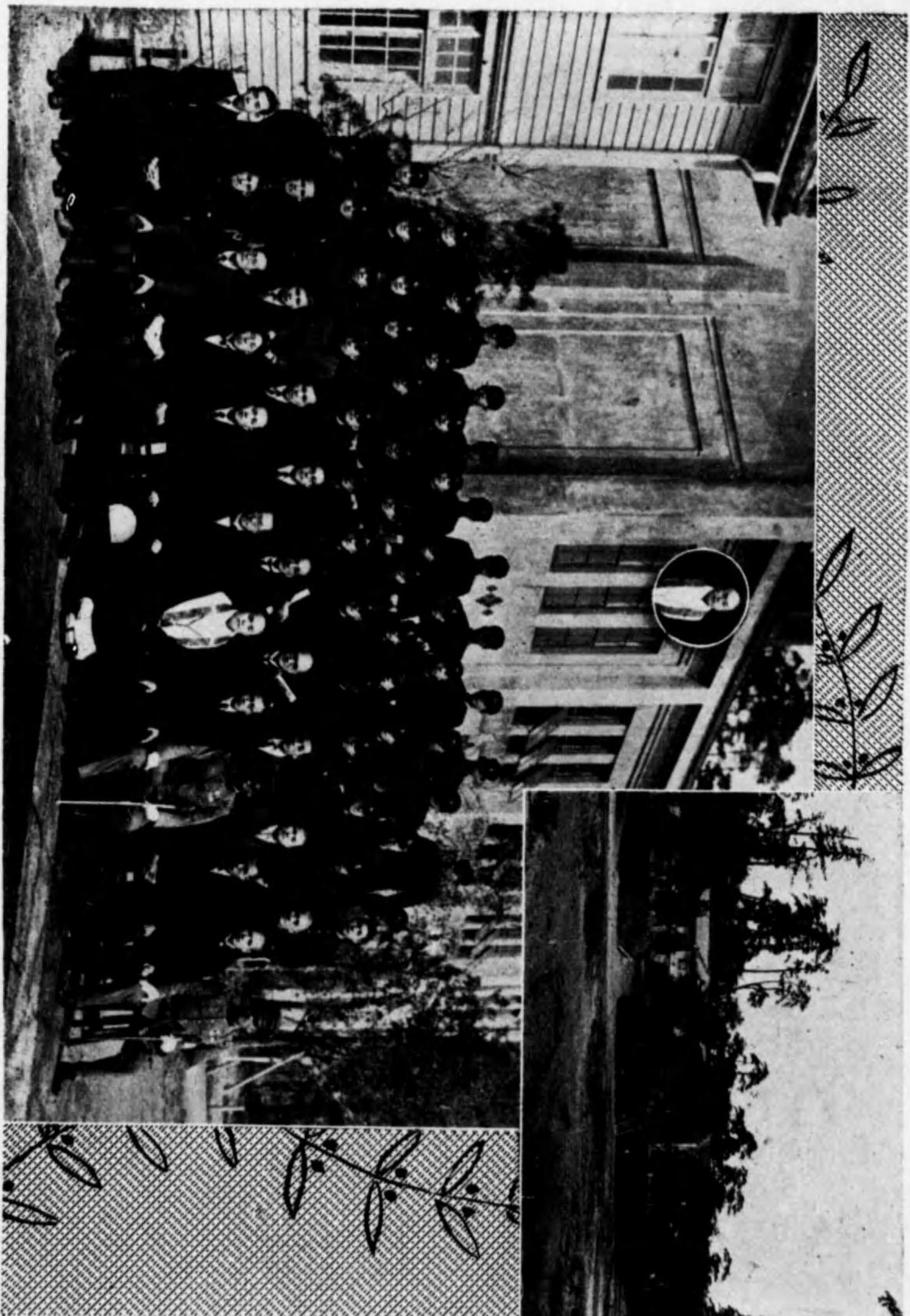
おそろしき智識のいくさ

國のため勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

(備 香城高き時はへ調にて歌ふも可なり)
メトロノオム 184



成田中學校

生業卒回九十二第及員職

252.2-101

私立成田中學校一覽

(昭和五年四月現在)

◎教育方針綱領

一切の人間は、其の個性的發展に伴ふ職業的社會參與によりて、社會の構成と發達とに貢獻する所の本質的任務を有す。本校は、かゝる任務を果すべき基礎として、先づ、紳士たる品性を育成するを以て當面の目的とす。而して紳士教育は、その内容を、皇國固有の民族精神の躍動として現代にまでその精華を發揮せる士道の精神に基きて、特に剛毅と禮節とを重んじ、品性の核心を茲に定むる所の一大校風を樹立せんとするものなり。

惟ふに、勇往果敢に人生の第一義に生きんと熱望する事は、正しき青年の特質にして、青年自身の文化はまたこれによりて純粹道德の建設と維持とをなし得るものなり。

この凜烈にして莊重なる國民的氣魄の下に統一せられざる徳操は、吾等國民としての徳操に非ず。三千年間の吾等民族の中に流動發展せる人間常行の道としての士道の精神は、かくてその國民道德としての意義を發現し得たるものなり。

本校生徒は、自らを磨くに、常にこの精神を自己の内に顯現せん事を力め、精進怠るなかれ。人格の偉大さの第一義は、實

にかゝる精神を發揮せんとして常に自己改善の爲めに邁進する所に存するものにして、單なる世の賞讃非難、若くは人として止むなき過失の有無等には存せざるなり。
 苟も本校生徒にして、遂にこの見易き事理を解する能はず、反省自ら努むる所なきものは、速に夫つて他に適從の處を求むべし。

◎成田中學校自治會規約

(昭和三年九月一日制定)
(昭和四年三月十五日改正)

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ成田中學校自治會ト稱ス
- 第二條 本會ハ本校ノ教育方針ニ基キ生徒各自協力一致シテ風紀ノ振肅及ヒ校内ノ清潔整頓ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ成田中學校全生徒ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ノ目的ヲ遂行スルタメ左ノ部ヲ設ク

成田中學校 全校自治會 計畫部 校外自治會(實行部)
 自治會 學級自治會 計畫部 審判部
 實行部 實行部

第五條

參照舊規約第四條校外自治會及審判部無シ
本會長トシテ學校長ヲ推戴ス
會長ハ本會ヲ統轄シ計畫部及ヒ實行部ノ決議ニ對シ裁
否ヲ決定シ決議ヲ與ヘタルモノハ實行部ヲシテ之カ實
行ヲ督勵セシム

第六條

第七條

本會ノ部長及ヒ副部長ハ會長之ヲ委囑ス
本會員ハ自己ノ意見ヲ學級自治會計畫部ニ提出スルコ
トヲ得尙全校自治會及ヒ校外自治會實行部委員ハ直接
各其部ノ意見ヲ全校自治會計畫部ニ提出スルコトヲ得
本會規約ヲ變更セントスルトキハ會長ノ許可ヲ受ケ全
校自治會計畫部委員及ヒ各學級ヨリ互選ニ依リ選出シ
タル三名ノ委員ニ附托審議シ全校自治會計畫部長ノ承
認ヲ仰キ會長ノ決議ヲ受クルモノトス

參照舊規約 第七條本會員ハ自己ノ意見ヲ學級自治會計畫
部ニ提出スルコトヲ得

第二章 全校自治會

一、計畫部

第九條

本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
1、部長 一名
全校自治會計畫部ヲ統轄シ要スレハ全校自治會計畫部
委員會ニ臨席シ其ノ決議ニ對シ適否ヲ判定シ承認ヲ與

第十條

委員ハ必要ナル記録ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部長
之ヲ定ム

二、實行部

第十一條

本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
1、部長 一名
各委員ヲ指揮監督シ會長ノ決議ヲ得タル事項ヲ實施セ
シム又要スレハ全校自治會實行部委員會ニ臨席シ其ノ
決議ニ對シ適否ヲ判定シ承認ヲ與ヘタル事項ハ會長ノ
決議ヲ仰ク

2、副部長

二名

3、風紀係委員

三名

4、室內係委員

三名

5、室外係委員

(風紀係委員兼任)

教室及ヒ附屬廊下ノ清潔整頓ト放課後行フ各教室ノ掃
除トノ點檢

委員ノ任務ヲ右ノ如ク定ムト雖モ各委員ハ相互ニ密接
ナル連繫ヲ保テ協力一致任務ノ遂行ニ努力スル者トス

ヘタル事項ハ會長ノ決議ヲ仰ク

2、副部長

二名

3、本校自治會計畫部委員

三十名

(1)各學級計畫部委員ヲ以テ全校自治會計畫部委員會ヲ
組織シ各學級自治會ヨリ提出セシ事項ニ就キ首席委員
ニ届告シ適宜ノ時機ニ委員會ヲ開キテ之ヲ審議シ半數
以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ部長ノ承認ヲ仰ク

(2)委員ハ互選ヲ以テ最上級委員中ヨリ首席委員ヲ定メ
部長ニ報告スヘシ該委員ハ各委員ヲ統一シ委員會ヲ開
キ部長トノ連絡ニ任ス

(3)全校自治會及校外自治會實行部委員ニシテ意見アル
場合ハ其時ニ限り計畫部委員ニ臨席提議スルコトヲ得
(4)委員ハ議決決議セラレタル事項ヲ各自ノ學級ニ必ず
發表スベシ

參照舊規約第九條 全校自治會計畫部委員 三十名

各學級ヨリ三名宛ノ委員ヲ選出シ之ヲ以テ全校自治會計畫
部委員會ヲ組織シ各學級自治會ヨリ提出セシ事項ニ就キ部
長ニ届告シ適宜ノ時機ニ委員會ヲ開キテ之ヲ審議シ半數以
上ノ贊同ヲ得タル事項ハ其ノ承認ヲ仰ク。(ハ)(ニ)兩項規
定無シ

委員ハ最上級生ヨリ六名次ノ級ヨリ四名ヲ以テ充テ互
選ニヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スヘシ

參照舊規約第十一條末項 委員ハ最上級生ヲ以テ充テ互選
ニヨリ首席委員ヲ定メ部長ニ報告スヘシ該委員ハ各委員ヲ
統一シ部長トノ連絡ニ任ス又必要ト認ムル時ハ部長ニ届告
シ該委員會ヲ開キ之ヲ決議事項ヲ部長ニ報告シ承認ヲ仰ク

第十二條

委員ハ美事善行ノ助長ヲ主トシ非違ノ發見ヲ從トス
故ニ善行者ヲ認メタルトキハ之ニ賞詞ヲ與ヘ部長ニ報
告スヘシ

又非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノ
ハ部長ニ報告スルト共ニ審判部ニ提出スベシ

參照舊規約第十二條末項 又非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意
スルモ改悛セサルモノハ部長ニ報告スヘシ

第十三條

委員ハ非違ヲ認メタル時ハ之ニ必要ノ注意ト訓誡ト
ヲ與フルコトヲ得然レトモ次ノ事項ヲ嚴守スヘシ

1、絕對ニ暴力ヲ用フルヲ許サス

2、訓誡ニハ役員以外何人ノ參加ヲモ許サス

第十四條

委員ハ必要ナル記録ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部
長之ヲ定ム

第三章 學級自治會

第十五條

學級主任監督ノ下ニ學級自治會ヲ設ケ之ヲ計畫部及

ヒ實行部ニ分ツ

一、計 畫 部

第十六條

本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
學級自治會計畫部委員 三名
每週最終日ニ學級主任臨席ノ下ニ定期委員會ヲ開催シ
テ生徒提出ノ意見ニツキ審議シ出席者半數以上ノ贊同
ヲ得タル事項ハ學級主任ノ決裁ヲ仰グ。要スレバ右決
議事項ヲ全校及校外自治會實行部ニ報告スベシ
但シ全校自治ニ關スルモノハ學級主任ヲ經ルコトナク
全校自治會計畫部ニ提出ス
參照舊規約第十六條 本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等
ヲ次ノ如ク定ム

學校自治會計畫部委員 二名

學級中ノ生徒ヨリ提出セル意見ニ就キ學級主任ノ許可ヲ得
テ適宜ノ時機ニ學級自治會ヲ開キ之ヲ審議シ參會者ノ半數
以上ノ贊同ヲ得タル事項ハ學級主任ニ報告シ決裁ヲ仰グ

第十七條

委員ハ必要ノ記録ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ學級
主任之ヲ定ム

二、實 行 部

第十八條

本部ニ於ケル役員ノ名稱任務人員等ヲ次ノ如ク定ム
學級自治會實行部委員 六名

第廿二條

通學區域ニヨリ之ヲ左ノ若干組ニ分ツ

A組 仲町、砂田、田町、寺臺、東和田方面

B組 本町、上町、花咲町、幸町土屋方面

C組 佐原街道方面

D組 三里塚方面

E組 安食街道方面

F組 上野線方面

G組 佐原線方面

H組 宗吾線方面 七榮方面

I組 多古線方面

J組 關戸方面

第廿三條

本會ハ全校及ビ學級自治會ニ於テ議決シ決裁セラレ
タル事項ヲ實行センガ爲其ノ實行部ヲ置ク

第廿四條

校外自治會實行部ニ於ケル役員、名稱、任務、人員
等ヲ次ノ如ク定ム

1、部 長 一名 全校自治會實行部々長兼任、
任務モ亦同ジ

2、副部長 二名 全校自治會實行部副部長兼任
任務モ亦同ジ

3、實行部委員 三十名

(1)各組ヨリ三名宛ノ委員ヲ選出シ之ヲ以テ校外自治會

學級自治會ノ決議ニヨリ決裁セラレタル事項ヲ監督實
施ス而シテ之ヲ左ノ如ク分ツ

1、風紀係委員 二名(級長、副級長、計畫部係
員ハ風紀係委員ヲ補助ス)

生徒ノ言行及ヒ服裝ノ取締

2、室内係委員 四名
教室及ヒ附屬廊下ノ清潔整頓

參照舊規約第十八條ノ風紀委員二名ノ下括弧内記事無シ

第十九條

委員ハ美事善行ノ助長ヲ主トシ非違ノ發見ヲ從トス
故ニ善行者ヲ認メタルトキハ之ニ賞詞へ與へ學級主任
ニ報告スヘシ

又非違者ヲ認メタルトキハ之ニ對シ必要ノ注意ヲ與フ
ルモノトス

非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意スルモ改悛セサルモノハ
學級主任ニ報告シ要スレバ審判部ニ提出スベシ

參照舊規約第十九條末項 非違ノ重キモノ及ヒ屢々注意ス
ルモ改悛セサルモノハ學級主任ニ報告スヘシ

第二十條

委員ハ必要ノ記録ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ學級
主任之ヲ定ム

第四章 校外自治會

(以下全部昭和四年三月新制定)

第廿一條

特ニ校外ニ於ケル生徒風紀振肅ヲ圖ル爲之ヲ設ク

實行部委員會ヲ組織シ、各學級及ビ全校自治會計畫部
ニ於テ議決セシ事項ノ進行ニ關シテ審議シ部長ニ報告
シテ會長ノ決裁ヲ仰グ

(ロ)委員ハ互選ヲ以テ最上級委員中ヨリ首席委員ヲ定メ
部長ニ報告スベシ、該委員ハ各委員ヲ統一シ委員會ヲ
開キ部長トノ連絡ニ任ズ

(ハ)必要アレバ第七條ニヨリ直接全校自治會計畫部ニ提
案シ其ノ審議ヲ仰グ

(ニ)第十九條ト同様ナル任務ヲ有ス

第二十五條 委員ハ必要ノ記録ヲ作製ス其ノ細部ニ關シテハ部
長之ヲ定ム

第五章 審判部

第二十六條 全校生徒ノ風紀維持上己ムヲ得ザル生徒ヲ反省セシ
ムル爲訓誡スルト共ニ善行者ヲ表彰スルヲ以テ目的ト
ス

第二十七條 自治會員ハ何學年生タルヲ問ハズ必要ニ應ジテ審
判部ニ申告スルコトヲ得但シ各自學級ノ級長ヲ通ズル
モノトス

第二十八條 本部ニ於ケル審判ニ對シテ尙審議ヲ希望スル者ハ
學級主任ヲ通ジ自治會長ニ申出ヅルコトヲ得

第二十九條 本部ニ於ケル役員、名稱、任務、人員ヲ次ノ如ク定ム

1、審判部々長 一名 審判部員ヲ統轄シ要スレバ審判部委員會ニ臨席シ其ノ決議ニ對シ適否ヲ制定シ承認シタル事項ハ會長ノ決裁ヲ仰グ

2、審判部委員 六名(五年 四名 四年 二名)

(1) 審判部委員ハ互選ニヨリテ首席委員ヲ定メ部長ニ報告シ必要ニ應ジテ委員會ヲ開キ原因、證據等ヲ充分調査、審議シタル後決定ヲ下シ又ハ訓誡ヲ與ヘルモノトス。必要ニ應ジテ部長ニ報告シ承認ヲ得テ會長ノ決裁ヲ仰グ

(2) 必要ニ應ジテ部長ニ報告シ承認ヲ得テ會長ノ決裁ヲ仰グ

第三十條 委員ハ美事善行ノ褒賞ヲ以テ主トシ、非違ノ處罰訓誡ヲ從トス故善行者ヲ認メタル時ハ之ガ表彰手續ヲトルニ躊躇セザルベシ。

第卅一條 委員ハ必要ナル記録ヲ作製ス、其ノ細部ニ關シテハ部長之ヲ定ム

第六章 役員ノ任期及ビ選出法

第卅二條 役員ノ任期ヲ次ノ如ク定ム

部長及ビ副部長 一年(但シ重任ヲ妨グズ)

全校自治會計畫部委員 二ヶ月

全校自治會實行部委員 一週間(毎土曜放課後交代ス)

學級自治會實行部委員 (室内係ハ日々交代ス)

校外自治會實行部委員 一年(但シ重任ヲ妨グズ)

審判部委員 一學期(但シ重任ヲ妨グズ)

第卅三條 役員ノ選出法ヲ次ノ如ク定ム

計畫部委員 各學級ヨリ互選ス

實行部委員 級長指名ス

但シ校外自治會實行部委員ハ各組ヨリ互選ス

審判部委員 四五年各級ヨリ互選ス

但シ部長臨席ノ下ニ記名投票ヲ以テス

但シ會長ニ報告シ其ノ承認ヲ得ルモノトス

第卅四條 各部ノ役員ハ己ムヲ得ザル事情ニヨリ其職ニ堪ヘザル時ハ其部長ニ對シ理由ヲ具シ辭職書ヲ提出シ其承認ヲ得ベキモノトス

附 則

- 一、自治會實行部委員ハ右腕ニ腕章ヲ附ス
- 二、本改正規約ハ昭和四年四月八日ヨリ實施ス

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、感化院及び新更會と共に成田山新勝寺の施設せる社會奉仕事業の一に屬す。

(一) 英漢義塾時代

明治二十一年八月勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎し、有志石川甚兵衛(先代)諸國勝太郎(先代)其他の諸氏と謀りて設立せる、山學程度の學塾にして、修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することとせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむること貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和氏は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事安部浩氏の實地視察となり。遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ヶ月。此間塾長の交代は宮村三多以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及び。當時塾舎は成田町字東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二) 現中學校時代

明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舎の新築土工を起し、三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徵兵猶豫の特典を附與せられ。又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらるゝあり。遂に六月二十七日をトして落成式を舉行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、二十七回卒業生を送り。其數八百十四名に及び此間文部次官奥田義人、商工局長木内重四郎、板垣退助伯文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原巳一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會奉仕の努力に深甚の同情且つは贊辭を寄せらる。回顧すれば二十一年英漢義塾創立以來年を閲すること實に四十一其中學と改稱せしより、三十一年に及び。

英漢義塾第一回の卒業なる三橋金太郎氏が本校創立以前より今尚ほ引續き、理事として勤務せらるゝは多とすべし。石川甚兵衛氏亦本校理事として常に本校の爲めに盡瘁せらる今次の校舎増築校庭擴張の爲めには兩氏の盡力に負ふこと多大なり。校長及び校務主監の夫就に左の如き記録を有す。

喜田 貞吉 明治三十一年十一月校長就任

學科課程每週教授時數表

科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一 生徒心得、教育ニ關スル勅語、作法	一 道德の要領	一 同上	一 戊申詔書、道德ノ特質、作法	一 同上
國語及漢文	八 國語講讀、漢文講讀、作文、習字	九 同上	六 國語講讀、漢文講讀、作文、文法、習字	五 國語講讀、漢文講讀、作文、文法	五 國語講讀、漢文講讀、作文
外國語	七 發音練習、讀方及譯解、讀方及作文書取、習字	七 讀方及譯解、讀方及作文書取、習字	七 讀方及譯解、讀方及作文書取、文法	六 同上	六 讀方及譯解、讀方及作文、書取
歷史	三 日本地理史	三 日本地理史	三 世界地理史	三 同上	三 日本歷史、外國歷史、自然地理概説
地理	三 日本地理史	三 世界地理史	三 世界地理史	三 同上	三 人文地理概説
數學	四 算術	四 代數	五 代數、幾何	五 同上	五 代數、幾何、三角法
博物	二 植物、動物	二 同上	二 動物、生理及衛生	二 礦物、博物	四 同上
物理及化學			二 物理、化學	四 同上	四 同上
法制及經濟				二 法制、經濟	二 同上
圖畫	一 自在畫	一 同上	一 同上	一 同上	一 用器畫
唱歌					
體操	五 體操教練及遊戲(學劍及柔術)	五 同上	五 同上	五 同上	五 同上
計	三	三	三	三	三

第三章 考査

- 第一條 考査を分ちて學期考査學年考査の二種とす
 - 第二條 學期考査は其學期間に授業せし科目に付之れを行ふ
 - 第三條 學年考査は學年の終りに於て該學年間に授業せし全學科に付之れを行ふものとす
 - 第四條 各學年の課程の修了又は全學年の卒業は平素の學業成績を考査して之れを定む
 - 第五條 各教員は其の受持學科に就き平素の學業成績を考査す
- 第四章 入學及退學
- 第一條 生徒の入學は毎學年の始とす但缺員あるときは學期の始めに於て募集することあるべし
 - 第二條 本校第一學年級に入學を許すべしものは尋常小學校第六學年卒業のものは其卒業證により其他の志願者は入學檢定に合格せるものを取る但尋常小學校第六學年卒業の者と雖も志願者の募集人員に超過するときは入學考査を執行すべし
 - 第三條 尋常小學校第六學年々卒業せざるもの、第一學年級の入學檢定は國語算術國史地理理科に就き尋常小學校卒業程度に依りて之を行ふ
 - 第四條 第二學年級以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達し其學級に相當する學力檢定に合格したるものに限る
 - 第五條 他の中學校より轉學せんと欲する者ある時は缺員ある

- 場合に限り入學を許可することあるべし但前學校と學科の配當に差異あるときは其學科に限り檢定を行ひ前學校と同年級或は一級下に編入す
- 第六條 凡て本校に入學せんと欲するものは體格檢査を施し合格せざるものは入學を許可せず
- 第七條 入學志願者は左の書式に依り入學願書に履歷書を差出すべし但尋常小學校六學年以上の課程を了へたる入學志願者は更に修業證書又は卒業證書を添へ該書なき者は校長又は首席訓導の證明書を添ふべし
- 第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍抄本を差出すべし
- 第九條 保證人は父兄親戚又は後見人中丁年以上の男子にして一家計を立つる者に限る
- 第十條 保證人は豫め本校長の承諾を得たるものたるべし

在學證書(川紙半紙二ツ折)

保證人の印

印 參入錢 紙入錢

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令

加瀬 允雄 香取多古一 多田 政司 印旆中郷一 △土肥 輝雄 同 公津

△清宮 信之 助印旆八生 萩原 貢 印旆成田 丸井 寬二 印旆公津

松田 保稻 數長 卒 小川 三 萩原 公津 三好 義政 同 公津

山田 文太 一郎 印旆 成田 相田 秀三 夫 同 公津 石原 文雄 同 公津

山田 章 同 八生 山井 秀 衛 同 布 須賀 山口 榮一 同 公津

成田 敏雄 香取 高岡 小川 信雄 同 布 生 石川 榮一 同 公津

池田 五郎 印旆 富里 小川 信雄 同 布 生 竹村 安央 同 公津

藤倉 靜男 同 成田 鹽田 重雄 同 布 藤村 秋次 同 公津

藤崎 忠一 同 安食 三枝 清亮 同 成田 齋藤 秋次 同 公津

村島 久四 同 公津 杉田 清 匣 八日市場 齋藤 秋次 同 公津

△湯淺 重雄 印旆 八生 日暮 靜 印旆 成田 武田 建 印旆 八生

諸岡 新吾 同 成田 加藤 傳 同 中郷 篠原文 太郎 同 富里

野々宮 茂毅 同 成田 小倉 祥男 同 久住 後藤 敬止 同 八生

藤崎 昌良 同 富里 武田 武雄 同 布 長谷川 勝司 同 成田

石井 富明 同 千代田 大久保 喜八郎 同 布 櫻井 芳雄 同 小御門

小川 仁 同 富里 萩原 孝香 同 成田 大木 勝 同 中郷

菅澤 忠彰 同 遠山 三池 豐 同 成田 清水 文 康 山梨縣 北巨摩

伊藤 忠彰 同 富里 内田 啓二 郎 同 富里 清水 文 康 山梨縣 北巨摩

長谷川 能通 印旆 成田 椎名 利夫 印旆 成田 小川 秀吉 同 成田

金子 仁 同 中郷 原正 計 同 富里 長谷川 實 同 公津

岩館 三郎 同 中郷 鈴木 慶三 同 成田 小川 實 同 公津

寺内 三郎 同 中郷 鈴木 慶三 同 成田 小川 實 同 公津

△土井 義邦 印旆 成田 川崎 三彌 同 公津 岩館 正二 同 遠山

三橋 清 同 富里 稻葉 宗雄 同 布 鎌 萩原 儀助 同 千代田

飯田 作藏 同 安食 小出 茂雄 同 根 郷 岩澤 三男 同 千代田

石井 茂雄 同 遠山 坂田 清一 同 富里 藤 清一 同 成田

小泉 伊之亮 同 久住 坂田 清一 同 富里 藤 清一 同 成田

山崎 昇平 同 公津 林田 實 同 富里 高木 善明 同 公津

藤田 知義 同 公津 石井 文雄 同 千代田 國本 明 同 公津

小倉 八郎 印旆 成田 鈴木 光夫 同 成田 鈴木 正 同 公津

加藤 昌美 同 中郷 松田 正夫 同 高岡 小川 正 同 公津

郡司 佐兵衛 同 多古 鈴木 福雄 同 高岡 石井 芳雄 同 公津

矢村 文雄 同 古津 田中 照完 同 志津 鹽田 太郎 同 公津

△藤田 勇 印旆 豐住 川島 五三郎 同 武 成東 根本 正 同 公津

鹽田 俊夫 同 布 鎌 幡谷 千尋 同 印旆 八生 三橋 正 同 公津

吉岡 巖 同 同 豐住 菅沼 仁兵衛 同 同 富里 林田 英 同 同 富里

伊藤 市郎 同 同 成田 荒木 武雄 同 同 武 成東 佐久間 榮一 同 同 成田

私立成田中學校一覽

一七

第三學年A組

(三十六名)

第四學年B組

(三十三名)

第四學年A組

(三十四名)

石井勝	富澤	谷崎	豐田	五十嵐	石井	大口	小川	荻原	青柳	石井	石川	大澤	日暮	潮田	日暮	藤原	藤原	藤原	伊藤	諸岡	橫田	根本	丸修	河合
衛同	吳山	滿印	三同	治香	寶印	次東	夫印	郎印	正香	良山	成稻	襄印	一市	一市	一市	一市	一市	一市	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	次同
富里	成田	成田	成田	古田	津田	龜戶	中郷	豐住	滑河	千代田	金江津	八生	安食	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
佐久間	鈴木	川口	加藤	石橋	山本	木内	木川	藤八郎	青野	加藤	篠原	瀧澤	成毛	小川	鈴木	小泉	伊藤	山下	土井	佐久間	鈴木	川口	加藤	石橋
三郎	一郎	次郎	信太郎	太郎	喜一郎	武助	之助	右衛門	健良	健良	三郎	新介	雄司	健司	健司	健司	健司	健司	健司	健司	健司	健司	健司	健司
稻敷	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
塚谷	吉岡	島岡	山口	遠藤	澤田	吉岡	谷岡	池田	一田	大田	鈴木	加藤	小川	岩澤	宮内	小川	加藤	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井
正能	新三	照天	宏明	武男	演男	茂男	藏男	豐已	芳郎	好之	祐之	弘之	雄之	良之	實之	一之	秀之	秀之	秀之	秀之	秀之	秀之	秀之	秀之
夫印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印	同印
成田	富里	柳島	遠山	公津	中郷	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

海保活	野島武	石井俊	橫尾市	小林市	荻原英	石橋豐	加藤芳	六角精	新倉隆	寺島誠	櫻井定	藤崎三	伊藤正	諸岡三	橫田二	根本至	丸修三	河合定
郎同	夫同	次同	優同	郎同	男同	二同	芳同	一同	雄同	一東	一香	一香	三香	三香	三香	三香	三香	次同
久住	豐住	豐住	富里	遠山	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
山田	香取	行方	湯淺	岩澤	澤田	宮本	小倉	貝原	山田	湯淺	高川	糸賀	村島	根本	橋本	三橋	安達	安達
武雄	茂印	巳同	一助	助同	榮同	雄同	三同	十同	一郎	忠同	男同	正同	正同	寬同	受同	郎同	郎同	郎同
富里	久住	川食	遠山	遠山	中郷	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
加藤	松岡	藤崎	平山	小關	谷崎	江森	矢野	五木	澤田	柏木	淺井	神崎	村山	伊豆	石橋	石橋	石橋	石橋
晴巳	顯同	春男	夫同	信同	龍二	之助	三郎	紀一郎	吉藏	博同	武男	二同	助同	助同	助同	助同	助同	助同
中郷	遠山	安食	千代田	富里	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

青木幸太郎	成毛鐵二	藤崎義男	石井勝正	成瀨仁同	野平靖夫	竹本信	齋藤八郎	平野照七	出山	渡邊	稻葉精	大木	山本信	吉田	野平	菅澤	小倉善一	相京	牧野	
本塾	安食	遠山	酒井	成田	八都	安食	遠山	成田	豐田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

出山	小林重一	久保庭俊	加藤正	矢萩重	生駒	萩原友三	南井	鈴木	山田	根本	川崎	寺內	渡邊	石井	岩館	郡司	川村	山口	齋藤	
公津	本塾	成田	中郷	安食	二川	多古	成田	遠山	八生	八生	八生	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

小高辰雄	河合訓	山口章	田中郭	萩原介	桑原喜久	大見川	竹村	木川	大木	吉岡	吉岡	鶴岡	三須	石井	古手	山田	工藤	武智	
富里	成田	八生	銚子	千代田	成田	中郷	富里	滑河	八生	中郷	中郷	成田	八生	成田	成田	成田	成田	成田	成田

△石井 第一學年B組 (四十名)

顯同	武印	璋一	吉同	利同	一利	末昌	齊藤	淺岡	湯淺	△遠藤
豐住	八生	八生	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

大野正徳	野口次郎	渡邊通雄	加藤邦一	田代一	柴橋也	龍崎浩	成毛平	相川義房	小川喜	櫻井	淺井	渡邊	齋藤
安食	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

石井健二	島崎幸造	川崎吉哉	三橋二	芝野國男	渡邊朝吉	加藤三郎	伊藤善治	城光寺	加藤孫	石原	米山
豐住	平戶	安食	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

◎成田英漢義塾卒業生人名 (×死亡)

第一回卒業生 (明治二十三年三月)

法學士 北田彦三郎 三橋金太郎 高安元三郎

第二回卒業生 (明治二十五年三月)

× 山田兵治 吉川松太郎

第三回卒業生 (明治二十六年三月)

法學士 石井佐次馬 穴倉高次郎 山田市太郎 石川英之助 岡本幸造 山田要之助

第四回卒業生 (明治二十七年三月)

砲兵大佐 林政次郎 大野市太郎 湯淺眞二郎 藤崎仁三郎

第五回卒業生 (明治二十八年三月)

伊藤幸次郎 林田恒藏 篠崎幸吉 惠口忠治

第六回卒業生 (明治二十九年三月)

山崎傳七 根本太一 高梨盛太郎 石川昌三 太田家續 山本喜助 多田寧 藤崎欽哉 森原友之助 篠原友之助 林田政吉 赤谷由助

第七回卒業生 (明治三十年三月)

第八回卒業生 (明治三十一年三月)

木内民雄 米津重次郎 湯淺暉 石渡恒 林田恒三郎 × 郡司喜太郎 並木弘 (山本改) 河津金四郎 岡本保 山野制 堀井富五郎

選科履修生 (明治三十一年三月)

石井喜一 長谷川慶 小野寺弘 × 木内啓司 玉造泰助 細田孝司 原久藏 山口要太郎 戸村喜助 香取友吉 唯謹吾

第九回卒業生 (明治三十二年三月)

◎中學校卒業生人名及現況表 (×死亡)

第一回卒業生 (六名) (明治三十五年三月)

千葉縣立安房中學校長 文學士 小野精一郎 印旛成田 朝鮮總督府遞信局工務課長 工學士 飯倉文市 同成田 × 三橋信吉 同成田 × 竹尾丑之助 同成田 弘前中學校教諭 秋山篤英 同富里

日本石油會社東京本社(早大商科卒業)

第二回卒業生 (八名) (明治三十六年三月)

黑田政吉 印旛成田 × 京須幸 印旛成田 日本興業會社社員(早大卒業) 神崎義俱 印旛成田 日本大學理事(商工學校長) (藤崎改) 加納金助 同遠山 山口縣技師(水産講習所卒業) 高橋照文 山武南郷

私立成田中學校一覽

小御門農學校教諭(松戸高等園藝學校卒業) 小倉 英次 印旛八生
 實業 吉岡 米吉 同酒々井
 齒科醫 宮島 昇 同成田
 東京日々新聞社販賣部長 下村 保 同八生
 (渡邊改) 櫻井 昇 同成田
 × 黒川 幹 同成田
 × 澤邊 保 同八生

第十回卒業生(廿三名)(明治四十四年三月)

千葉推名病院(千葉醫專卒業) 醫學博士 椎名 泰三 印旛久住
 法學士 石原 貞三 同成田
 日本鋼管株式會社在勤(千葉醫專卒業) 山口 清 同八生
 醫師(千葉醫專卒業)醫學博士(平三郎改) 藤崎 公道 同遠山
 海軍機關大尉(呂號潜水艦乘組) 藤田 精一 同八生
 醫師(千葉醫專卒業) 織田 貞 市原菊間
 實業 (丸改) 内田 省吾 印旛公津
 商船學校機關科卒業 小倉 壯九郎 同中郷
 林松之助 同八生
 × 鈴木 雄一 山武山邊
 × 川島 勝信 印旛富里
 × 三橋 衛 同成田
 大阪商船會社在職(商船學校機關科卒業) 川島 勝信 印旛富里
 × 三橋 衛 同成田

小學校教師 額賀 誠司 茨城白鳥
 朝鮮銀行浦號支店在職 小川 清 山武二川
 (東洋協會專門學校朝鮮語科卒業) 河野 毅一 長生東郷
 實業 臺灣臺南大倉組合在職 (阿部改) 吉武 秀澄 印旛遠山
 實業 (石井改) 小出 清 同富里
 × 野平 四郎次 同豊住
 東京市道路橋梁課在職 (右馬助之改) 秋葉 昌已 同富里
 (政玉社工學校高等研究科卒業) × 額賀 忠孝 茨城白鳥
 小學校教師 (衛改) 蛭田 眞民 印旛豊住
 實業 東洋拓殖會社朝鮮大邱支店在職 小川 新 同成田

第十一回卒業生(卅二名)(明治四十五年三月)

朝鮮總督府警務局警務課長 法學士 三橋 孝一郎 印旛成田
 齒科醫(日本齒科醫專卒業) (秋山改) 鈴木 靜 同中郷
 成田學園主任(東洋大學文學士) (本宮改) 大友 惟誠 宮城志田
 實業 (稻一改) 梶谷 光之助 印旛安食
 大阪市技師 工學士(小野寺改) 瀧川 俊雄 同成田
 實業(歩兵少尉) 渡邊 和一 同成田
 醫師(新潟醫專卒業) 渡邊 由松 同成田

實業

河合 清 印旛成田
 × 藤田 保 茨城稻敷
 小池 嘉之 千葉萬壽
 池田 榮助 山武千代田
 染谷 恒次郎 印旛成田
 石橋 稔 香取滑川
 稻垣 恒藏 印旛成田
 長谷川 桂 印旛成田
 新橋 旭 同豊住
 × 江副 節藏 東京京橋
 (須田改) 長谷川 興仁 安房田原
 河野 和起 長生東郷
 × 日暮 太一郎 印旛中郷
 岩館 昌美 香取滑川
 山崎 秋平 印旛飯高
 × 綿貫 新作 同酒々井
 × 大塚 七郎 同成田
 × 青柳 公 同公津

(外國語學校支那語科卒業) 僧侶 織田 順 印旛成田
 國際汽船株式會社ケ1ブタウン號機關長 小池 嘉之 千葉萬壽
 仙臺稅務署監督局技師 (大阪高等工業學校卒業)

實業 實業 實業 實業
 東京信託所在 新橋 旭 同豊住
 小學校教師 (須田改) 長谷川 興仁 安房田原
 東京瓦斯會社社員 河野 和起 長生東郷
 實業 日本畜産株式會社岩瀬牧場在職

第十二回卒業生(廿八名)(大正二年三月)

實業 山田 章吾 印旛安食
 東京赤坂區役所在勤 (中村改) 萩原 廣 同宗像
 僧侶 栗原 照宣 東京八王寺
 實業 鈴木 廣雄 東京品川
 齋藤 義秀 印旛遠山
 澤崎 英一郎 同成田
 石井 鼎 同遠山
 鈴木 佐太郎 同富里
 小川 浩平 山武千代田
 内田 毅 茨城行方
 瀧澤 榮亮 印旛成田
 × 東美 義照 東京淺草
 鈴木 明 印旛富里
 × 辻 愛吉 同遠山
 内海 嘉男 同八生
 葛生 清三郎 香取滑川
 三橋 有方 印旛富里
 × 小柳 秀吉 同成田
 岩澤 忠二 山武二川
 (塚本改)

私立成田中學校一覽

實業 塚本憲一郎 香取滑河
 僧侶(智山大學卒業) 青木榮俊 區藤八日市場
 早稻田大學專門部在學 新橋榮 印旛豊住
 實業 (並木改) 櫻井和 同 富里
 實業 池田一介 東京日本橋
 小學校教師 大木喜三郎 區塚野田
 小學校教師 竹村和 印旛富里
 實業 飯塚英夫 香取多古
 北海道函館市病院 醫學博士 淺岡惠太郎 印旛成田
 實業 鈴木高治 同 公津
 實業 菅澤忠爲 同 遠山
 實業 三橋仙次 印旛富里
 實業 戶村正夫 同 川上
 第十三回卒業生(廿七名)(大正三年三月)
 鹽水港製糖株式會社在職(東京高商卒業) 早川重雄 印旛成田
 實業(東京帝大農科卒業) 藤崎源之助 同 富里
 警視廳保安部建築課內 (蛭田改) 平松白民 同 豊住
 實業(步兵少尉) 山田要 同 八生
 東京地方裁判所檢事 法學士 丸才司 同 公津
 實業(東亞同文書院工科卒業) 清水長陽 高知高知
 報知新聞社在職 (東京外國語學校露語科卒業) 竹尾式 印旛八生
 實業 山田進 同 公津
 僧侶(智山大學卒業) (石崎改) 三枝照光 君津中郷
 千葉農事試驗場技師 福島照瑞 同 中郷
 (東京帝大農科卒業) 日暮與一 印旛中郷
 實業 大木顯一郎 同 中郷
 (上田蠶糸專門學校卒業) 藤崎鑽 同 遠山
 朝鮮全羅南道光州原蠶種試驗所在職 齒科醫(東京齒科醫專卒業) 稻川義雄 愛媛松山
 東京不動銀行在職(早大商科卒業) 長竹彦次郎 印旛成田
 實業 大木健 同 成田
 實業 椿利一 香取滑川
 出山博 印旛成田
 實業 貝原塚豊 同 八生
 瀧澤誠 同 成田
 瓜生勘之丞 香取多古
 佐瀬旭 印旛八生
 田島俊一 埼玉北足立
 平澤道雄 茨城鹿島
 椎名勝美 印旛富里
 多田喜平 同 公津

實業 (宮内改) 清宮忠雄 印旛八生
 實業 石川順 同 成田
 第十四回卒業生(卅二名)(大正四年三月)
 海軍經理學校高等科學生(海軍主計大尉) 岡部美磨 印旛遠山
 宇都宮工業學校教諭 工學士 三橋藤太郎 同 成田
 千葉醫專卒業 醫學博士 木川浩逸 香取東條
 東京商船株式會社在勤(拓殖大學卒業) 藤崎總三郎 印旛遠山
 公吏 小倉要 同 成田
 帝國電燈株式會社員 石井操 同 遠山
 齒科醫(步兵少尉) 戶村晋 山武千代田
 實業 大木嘉平 印旛中郷
 小學校教師 茂手木篤三郎 同 遠山
 僧侶(智山大學卒業) (齋藤改) 黒羽順教 栃木那須
 小學校教師 丸善一 印旛公津
 (吉岡改) 大須賀清光 同 酒々井
 實業 萩原正雄 香取多古
 東北帝大農科大學卒業 農學士 吉岡博 印旛中郷
 東北帝大農學部 農學士 加藤浩 同 八生
 畜産教室助平 藤崎源一郎 同 遠山
 實業 藤崎源一郎 同 遠山
 小學校教師 所晃一 香取多古
 小學校教師 石井與四郎 印旛成田
 實業 (石橋改) 長谷川英一 印旛成田
 加藤暢 同 公津
 齋藤健雄 同 公津
 京須芳雄 同 成田
 高柳榮三郎 同 豊住
 鈴木金候 山武二川
 岩井儀太郎 印旛富里
 片野純三 岐阜大垣
 鈴木秀之輔 印旛成田
 柳澤吉藏 同 成田
 榎田正巳 同 成田
 高安盈仁 同 成田
 藤波潔 同 成田
 若月義宏 安房西條
 第十五回卒業生(卅五名)(大正五年三月)
 醫學博士 伊藤茂 香取飯高
 (東北帝大醫學部卒業) (大木改) 藤澤武雄 印旛成田
 櫻林商船株式會社在勤(小樽高商卒業) 醫學士 坂倉誠 長生茂原
 小學校教師 (石井改) 木村亮都 印旛遠原
 佐倉中學校教諭(步兵少尉) (大三川改) 小川團次 同 安食
 東洋大學卒業)

實業 (步兵少尉)	湯淺 健一	印旛 八生	實業	伊藤 保次	印旛 成田
醫師 (日本醫專卒業)	戶村 達郎	山武 二川	實業	紺谷 旭	同 遠山
佐倉川崎第百銀行支店在職	藤崎 穰	印旛 遠山	實業	小川 吉之助	同 成田
醫師 (千葉醫專卒業)	本多 傳	同 遠山	實業	鈴木 治郎	同 公津
實業	內田 信一	山武 二川	實業	池田 喜一	同 富里
商船學校機關科卒業	柏原 富吉	印旛 成田	實業	萩原 賢治	同 富里
富山房編輯部在職 (國學院大學卒業)	石川 富士雄	同 成田	官吏	宇賀 近治	同 白井
小學校教師	安達 國一	埼玉 大宮	實業	岩井 平男	同 大森
實業	八角 彌	山武 千代田	實業	平山 久一郎	同 成田
實業	手島 徹	同 千代田	實業	飯高 多一郎	香取 大須賀
小學校教師	大竹 茂	香取 滑川	實業	第 十六 回 卒業 生 (卅六名) (大正六年三月)	
古河電氣工業會社在職	瀧澤 榮一	印旛 成田	千葉醫科大學附屬病院醫員	醫學博士 秋山 寅雄	香取 多古
(外國語學校支那語科卒業)	河野 八郎	同 八生	(千葉醫專卒業)	堀田 彌太郎	印旛 久住
都留中學校教諭 (早稻田大學卒業)	秋葉 一吉	山武 蓮沼	實業	諸岡 市郎左工門	同 成田
實業	熊切 儀一	夷隅 古澤	東京蠶絲專門學校卒業	(仲改) 秋葉 英世	同 富里
醫學研究中	片野 春吉	岐阜 大垣	實業	齋藤 陽一	同 成田
(京都醫專專門學校卒業)	齋藤 七司	印旛 公津	大日本赤十字社病院產婦人科醫局在職	深山 浩一	同 旭
千葉縣道路技手 土木技手	阿部 良策	同 費住	(新潟醫專卒業)	長竹 達三	同 成田
實業	伊藤 功	同 富里	鐵道省東部經理局員	鶴澤 邦藏	千葉 檜橋
小學校教師	山内 誠	同 成田	實業 (步兵大尉)	(能勢改) 鶴澤 邦藏	千葉 檜橋
			明治生命保險株式會社在職	神山 雅一	印旛 成田
			(早稻田大學卒業)		

日本電線株式會社在職 (早稻田大學卒業)	竹尾 剛	印旛 八生	小學校教師	篠田 欣吾	印旛 費住
匯盛中學校教諭	內藤 達夫	茨城 稻敷	實業	石橋 健二	同 費住
(東京物理學校卒業)	渡邊 陸三	印旛 成田	實業	土肥 卓	同 公津
小學校教師	池田 義夫	同 富里	早大政治科卒業	方波 見仲男	茨城 鹿島
實業	大島 文吉	同 八生	實業	秋葉 三省	市原 市東
實業	堀越 誠	山武 二川	實業	櫻井 斌敏	印旛 公津
(拓殖大學卒業)	池田 伊重郎	同 千代田	實業	櫻井 一郎	香取 小門
齒科醫 (東京齒科醫專卒業)	永田 令藏	山形 新庄	實業	宇井 龍雄	印旛 成田
小學校教師	石橋 保	印旛 富里	第十七回卒業生 (卅五名) (大正七年三月)		
小學校教師	小川 斌	同 公津	(安倉改) 木内 貫一	印旛 久住	
	加藤 久次郎	香取 大須賀	工學士 野平 忠	同 費住	
	大木 康	印旛 成田	櫻井製靴會社在職	西谷 謙堂	同 費住
三井鐵山株式會社東京本店勤務 (日暮改)	湯淺 彦治	同 成田	慶應義塾大學卒業	吉田 善四郎	東京 神田
南滿鐵道株式會社在職 (中央大學卒業)	檜垣 達也	同 久住	熊本縣立大津中學校教諭	飯塚 忠	香取 多古
實業	本多 義	同 遠山	遞信省遞信技手	中野 圭曠	東京 豊多摩
實業	土井 平重	同 公津	醫師 (千葉醫專卒業)	山内 卯之助	印旛 成田
實業	青柳 忍	同 公津	實業	鈴木 豐	同 成田
僧侶	長谷川 祐元	安房 西條	奈良縣飯傍中學校教諭	清水 東四郎	同 成田
實業 (步兵少尉)	森田 元二	印旛 公津	東神倉庫株式會社在職	鈴木 德治	同 成田
小學校教師	根本 東海男	同 公津	(慶應義塾大學卒業)	日色 四郎	香取 滑川
				神戸 隆太郎	印旛 成田

私立成田中學校一覽

實業 山田 忍 印旛公津
 朝鮮水原高等農林學校卒業
 實業 加藤北二郎 同 八生
 實業 伊能春夫 山武二川
 實業 吉岡 順 印旛中郷
 小學校教師 吉田 義法 安房田原
 實業 竹田 正吉 印旛成田

第二十二回卒業生(卅八名)(大正十二年三月)

東京帝國大學醫科在學 熊切 修二 夷隅古澤
 東京農業大學在學 檜垣 兼二 印旛久住
 小學校教師 戶村 照學 八日市場
 成田中學校教諭 齋藤 操 印旛公津
 (國學院大學卒業) 三門 健一 同 木下
 慶應義塾卒業 小泉 國衛 同 成田
 東京帝國大學在學 三橋 監物 同 成田
 東京帝國大學在學 大澤 麟太郎 同 八生
 慶應義塾大學在學 大塚 謹三 同 成田
 實業 石井 俣男 山武千代田
 東京市役所在職 山口 忠 印旛八生
 南興業株式會社在職 大須賀 誠 同 安食
 (大倉高等商業卒業) 香取 忠裕 山武千代田
 實業 (小川改)

小學校教師 香取利雄 印旛久住
 實業 加藤文一 同 成田
 實業 石橋三郎 同 安食
 實業 多田 清 同 公津
 實業 長澤 博 同 布鎌
 小學校教師 鈴木 三郎 同 公津
 安田銀行在職 松崎 正重 同 八生
 實業 篠崎 操 同 遠山
 中央大學在學 平山 正夫 香取多古
 小學校教師 新村 新助 山武二川
 (東洋大學卒業)智山大學在學 原 公 印旛富里
 小學校教師 島 照康 東京市本所
 (青柳改) 大木 信雄 印旛公津
 小學校教師 篠原 幸次郎 同 成田
 飯塚 泰亮 印旛成田
 (渡邊改) 平山 幸一 香取多古
 片岡 勇 印旛遠山
 柔名 善雄 茨城郡
 小川 重雄 印旛中郷
 石川 明 同 遠山

實業 竹尾 隆 印旛山井
 遞信省官吏 石渡 四郎 山武南郷
 實業 石山 堯 山武二川
 實業 鈴木 平 印旛公津

第二十三回卒業生(卅三名)(大正十三年三月)

三井銀行名古屋支店在職 藤崎 浦治 印旛遠山
 (明治大學卒業) 水野 岩雄 同 成田
 東京帝國大學法科在學 牧野 佐次郎 同 成田
 北海道大學農學部在學 遠藤 與惣次 同 公津
 日露漁業株式會社在職(日露協會學校卒業) 加藤 韓三 同 八生
 平壤電氣會社在職(北海道大學農學部卒業)農學士) 立花 四郎 同 八生
 東京水道局在職(諏訪原改) 渡邊 進一 同 成田
 日本郵船在職(神戸商船學校卒業) 山内 康夫 同 成田
 日本大學豫科 土屋 清 山武二川
 小學校教師 篠田 光治 茨城金江
 實業 神崎 謙三 印旛遠山
 海軍兵役 岩内 貢 同 遠山
 日本大學在學 加藤 岡武 同 成田
 東京鐵道局千葉運輸事務所在職 谷上 勝太郎 同 成田
 國學院大學卒業 三橋 新 同 成田
 新勝寺事務員(東京主計學校卒業) 行方 喜一 山武大總

實業 木内 基治 香取滑河
 實業 林 貞一 山武日向
 實業 高橋 忠司 印旛公津
 中央大學卒業 佐藤 寬 香取大須賀
 東京鐵道局千葉運輸事務所在職 武田 有信 印旛八生
 川崎銀行佐原支店在職 鳴田 滿 同 富里
 南洋瓜哇島マラン市佐伯商會在職 藤崎 正義 同 遠山
 富山縣高岡高等商業學校在學 吉川 克己 同 中郷
 實業 手島 寬 山武千代田
 大阪合同紡績株式會社天滿支店在職 日暮 秀明 印旛本郷
 米澤高等工業卒業 小川 貞助 同 豊住
 小學校教師 伊藤 清 同 富里
 實業 青柳 晴美 香取滑河
 實業 佐伯 忠夫 長生土睡
 實業 大川 雄啓 香取多古
 日大商學部在學 湯淺 義雄 印旛公津
 (四年終了者) 黒川 富夫 同 成田
 安達 次郎
 第二拾四回卒業生(四拾九名)(大正十四年三月)
 實業 生駒 靜雄 山武二川
 小學校教師 伊藤 馨 印旛久住

私立成田中學校一覽

早稻田高等學院在學	平山 岩雄	香取多古	實業	小川 德英	山武千代田
京都智山大學在學	森谷 義正	山縣東郷	四日市築港事務所(山梨高等工業學校卒業)	大三川 正	印旛中郷
實業	諸岡 薰	印旛成田	實業	小川 政巳	同 中郷
京都智山大學在學	鈴木 照澄	同 志津	明治大學卒業	渡邊 操	同 成田
中央大學在學	諏訪原 貞夫	同 成田	實業	渡邊 昇司	香取滑河
四年終了者	三橋 誠一	同 成田	小學校教師	吉岡 一二	印旛中郷
(水戸高等學校卒業)			鐵道從業員	橫田 四郎	同 久住
第二拾六回卒業生(四拾八名)(昭和二年三月)			小學校教師	吉岡 俊男	同 中郷
小學校教師	石井 竹松	印旛遠山	小學校教師	多田 實	同 公津
攻玉社高等工業學校在學	石井 章	同 富里	法政大學在學	高橋 忠	同 成田
實業	今關 忠三	香取多古	臺灣高等學校在學	高橋 健吉	同 成田
神戸商船學校在學	伊藤 倉三	印旛遠山	法政大學豫科在學	高橋 重雄	同 成田
實業	伊井 與助	同 富里	實業	武田 利良	同 成田
小學校教師	石井 三郎	同 豊住	實業	武田 利豐	同 八生
米澤高等工業學校卒業	石橋 瑞穂	同 成田	京都智山大學在學	瀧澤 利一	同 成田
實業	萩原 治房	香取多古	京都智山大學在學	村田 榮量	安房豊房
鐵道從業員	萬來 親	印旛八街	慶應義塾文科在學	上野 頼榮	同 劉野
成田役場吏員	大木 賢三	同 成田	日本商科醫學專門學校在學	鶴澤 廣吉	印旛公津
實業	小倉 敏夫	同 中郷	兵 役	葛生 幸常	同 安食
早稻田高等學院在學	大野 正	同 豊住		郡司 辰二	香取日吉
				山室 勝身	山武千代田

實業	山崎 巖	香取飯高	實業	堀井 克巳	香取小部田
實業	福田 茂重郎	群馬日野	青山學院在學	堀川 和	同 滑河
實業	後藤 愛	印旛八生	實業	富澤 章治	同 滑河
實業	後藤 重司	同 安食	實業	戸村 正作	印旛遠山
實業	芦田 菊治郎	同 成田	實業	小川 貢	同 公津
小學校教師	秋山 禎康	同 中郷	實業	小川 英一	同 中郷
	秋山 正	同 中郷	實業	小川 晃	同 中郷
東洋大學卒業	南井 重	同 成田	橫河高等工業學校在學	小倉 信輔	同 成田
東京高等工業專門部在學	實川 賢雄	同 成田	東京高等蠶絲學校在學	大須賀 仁	同 安食
日本商科醫學專門學校在學	清水 定雄	香取多古	京成電車事務所在職	大竹 久直	香取本六須賀
東京安田銀行在職	平野 新藏	香取神崎	東京外國語學校在學	大野 政治	印旛成田
東洋大學在學	泉水 淳	同 公津	實業	大竹 惠司	同 富里
第一高等學校在學	清宮 清介	同 八生	實業	川村 三郎	同 木下
	鈴木 善照	同 中郷	實業	香取不二夫	同 久住
第二拾七回卒業生(參拾九名)(昭和三年三月)			小學校教師	根本 甚三	同 豊住
實業	石井 保	印旛遠山	實業	中村 三樹	同 白井
實業	石川 薫	同 遠山	實業	武藤 文哉	同 永治
實業	飯田 清太郎	香取滑河	實業	黑川 正雄	同 成田
實業	磯山 茂	印旛公津	實業	矢萩 俊一郎	同 安食
實業	岩館 英亮	同 遠山	×	山田 勳	同 八生
實業	林 俊吾	同 八生	×	福田 一太郎	稻敷金江津

小學校教師

實業

小學校教師

大阪高等學校在學

實業

實業

關西學院在學

法政大學在學

實業

第二十八回卒業生(六拾貳名)

(昭和四年三月)

南洋渡航中

日本大學齒科在學

東京齒科醫專在學

藤崎	光治	印旛遠山
小窪	仁	同本埜
寺内	賢治	同成田
秋葉	武夫	同富里
青柳	亮	同公津
齋藤	吉三	同成田
佐藤	芳雄	同成田
木川	忠	同武二川
日暮	眞	同印旛本埜
平間	輝男	同宮崎本埜
砂山	謙一	同石川植川
鈴木	準一	同栃木縣内大前
伊藤	武雄	同印旛遠山
伊藤	久四郎	同安食
池田	大輔	同山武千代田
石橋	白	同印旛公津
飯塚	金次	同香取多古
羽入	一男	同印旛成田
萩本	和	同茨城金江津
細野	彰	同印旛富里

千葉鐵道運輸事務所從業員養成所

日大豫科在學

鐵道省千葉運輸事務所在職

實業

電氣學校内
高等工業學校在學

細矢	三郎	同印旛成田
戸塚	四一郎	同東京麴町
戸村	一作	同印旛遠山
士井	平治	同公津
小川	利明	同中郷
小川	貞雄	同成田
小川	茂	同成田
小倉	格司	同成田
小澤	文治郎	同成田
若海	登	同遠山
川崎	茂	同公津
金子	孝道	同中郷
吉田	松年	同成田
谷	貞悟	同公津
高橋	薰	同公津
高橋	亥年生	同成田
瀧澤	昇	同成田
高橋	仁	同公津
高橋	浩	同千葉更科
根本	誠	同印旛成田
鶴澤	幸雄	同山武千代田

早大高師在學

法政大學豫科在學

農業大學在學

東京藥學專門學校在學

兵役

大野	孝	同印旛安食
大澤	新吾	同八生
大木	春基	同中郷
大木	一夫	同中郷
大木	勤吾	同成田
大島	卓	同成田
山田	保	同成田
山田	正美	同八生
山崎	要	同公津
丸	盛一	同公津
松田	晴源	同成田
藤崎	末夫	同遠山
古郷	清	同匣瑠南篠
小柳	謙治	同永治
寺内	良則	同成田
笹川	克己	同山武千代田
木村	秀明	同香取小御門
木内	憲一	同印旛成田
木内	喜久雄	同成田
木内	季男	同香取滑川
宮内	徳次郎	同茨城鹿島

盛岡高等農林學校在學
早稻田大學高等學院在學
弘前高等學校在學

三越株式會社在職

實業

第二十九回卒業生(四十八名)

(昭和五年三月)

千葉師範二部在學

日本大學在學

宮本	庫二	同印旛富里
篠田	惣壽	同豊住
平野	晴次	同八生
諸岡	胖	同成田
諸岡	新一	同成田
關川	順道	同成田
諏訪原	民雄	同八生
菅	孝一	同遠山
菅谷	嘉夫	同成田
鈴木	覺	同遠山
鈴木	順吉	同成田
鈴木	照汎	同公津
飯田	四郎三郎	同香取滑川
伊藤	正治	同印旛中郷
岩館	正美	同中郷
岩澤	美一郎	同中郷
稻垣	昌則	同成田
石原	登	同公津
石橋	芳郎	同稻敷金江津
石橋	武四郎	同印旛成田

國士館專門學校在學
朝鮮總督府

埼玉師範在學
日本大學在學

東京高等工業在學
新更會館在職
日本大學在學

千葉師範二部在學
日本大學在學

堀井信義 香取小郡門
豐田利郎 印旛成田
小野幸 同成田
加藤進 同豐住
加勢和 愛媛縣宇和島
勝又康 印旛成田
高橋孝 同公津
田中昇 同成田
根本正二 同豊住
根本寬 同久住
成瀬和 同成田
中路敬一 同成田
中山芳久 千葉寒川
武藤時哉 印旛永治
大木忠七 同中郷
大木市正 同中郷
大木七繼 同中郷
大島良一 同八生
山田勇 同八生
山田武夫 同成田
山田正元 同八生

日本大學在學
日本大學在學
實業
日本大學在學

山岸林三郎 同木下
丸健 同公津
藤崎健造 同山遠
福田茂 稻敷江津
手島正爾 山武千代田
出山誠一 印旛豊住
相川長 香取高岡
秋葉忠 同多古
秋山健夫 印旛遠山
齋藤一郎 東京下谷
佐藤寅吉 印旛成田
佐瀬卓 同八生
三廣 同富里
光本照元 神奈川川崎
椎名勤 香取木大倉貫
椎野齋 稻敷富田
篠原重明 印旛富里
諸岡武 同成田
森田敏雄 同八生

卒業生及生徒別表

(昭和五年五月現在)

卒業生	計	一學年		二學年		三學年		四學年		五學年		區別	郡別
		B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組		
		生											
六〇〇	三二	七	六	六	五	六	六	六	六	三	二〇	印旛	香取
七〇	二二		二	二	四	二	一	二	二	三	五	山武	千葉
六	二〇	一		四		五	四	四	二			市原	東葛
五												飾	匝瑳
四	二	一			一						一	海上	長生
二	一			一								夷隅	君津
三	三											安房	他府
三	七				一							縣	計
三	八				四		二	三	一	一	二		
三	二				三		三	三	一	一	二		
三	七				三		三	三	一	一	二		
三	九				三		三	三	一	一	二		

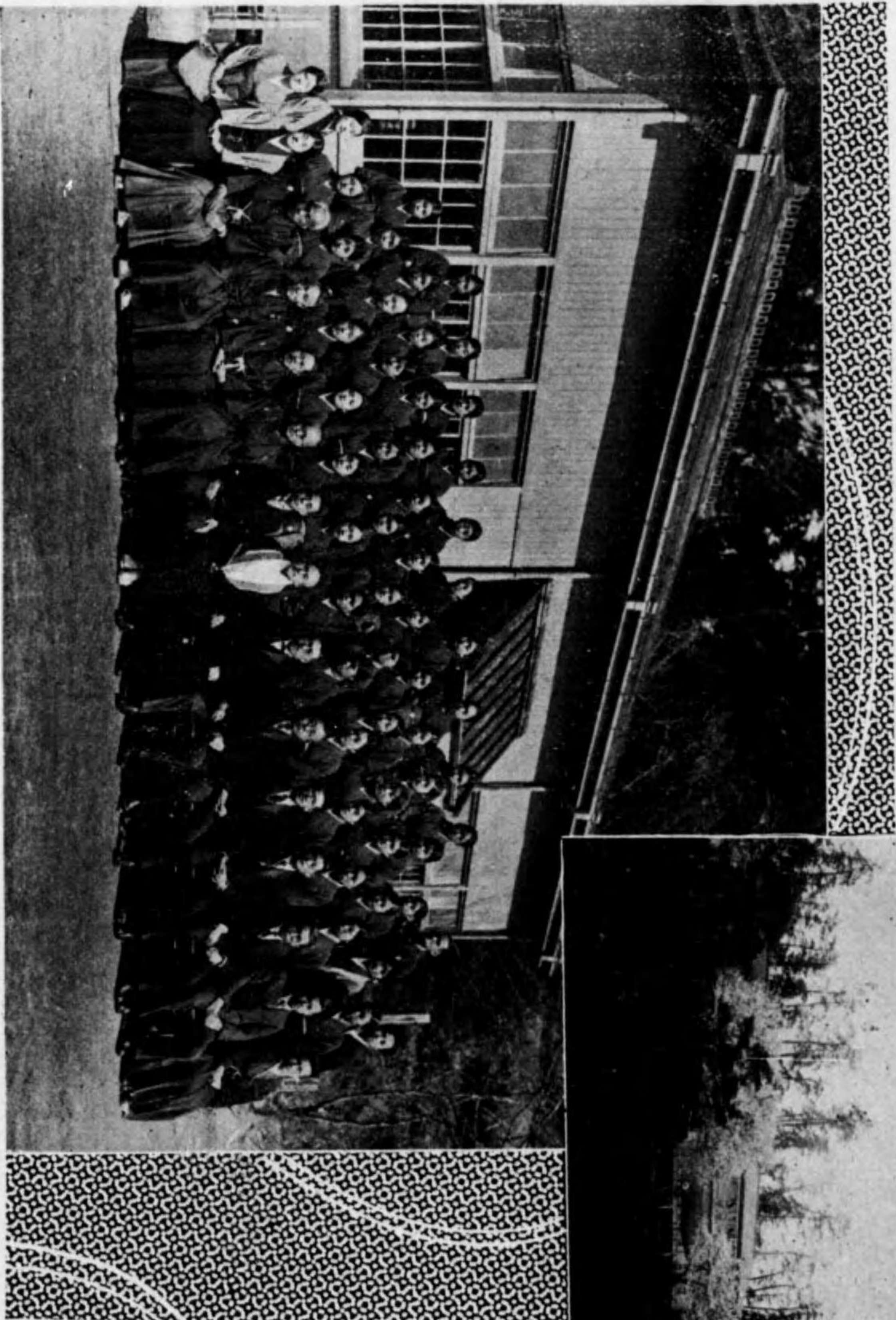
年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞與	管轄費	手當金	豫備金	合計
昭和四年決算	二六,五八〇,〇〇〇	二,三四八,八〇〇	一,四八一,九〇〇	二,四九七,〇〇〇	四,一〇四,三〇〇	二,一六五,三〇〇	—	—	三三,〇九七,九〇〇

成田高等女學校一覽

學 曆	四九
教育方針及施設概要	四九
沿革略	四九
昭和四年度重要記事	五一
學 則	五一
職員表	五四
成田山女學校卒業生人名	五五
卒業生人名及現況	五六
經費統計概表	七二

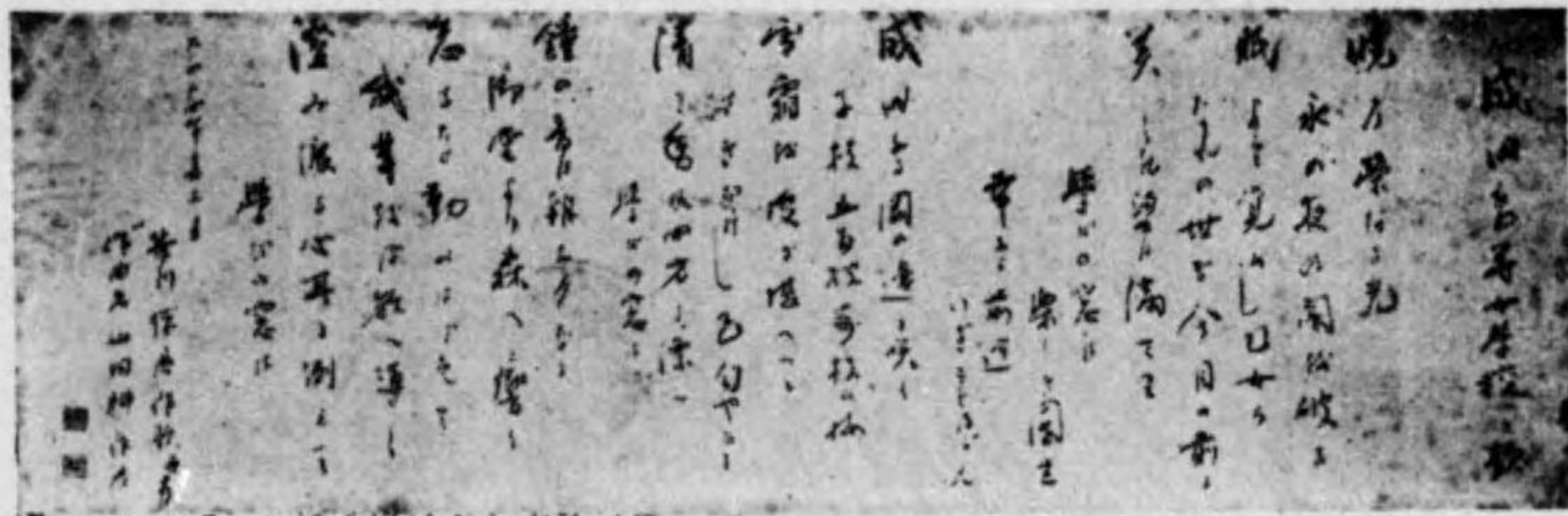
昭 和 五 年 度 學 曆

第一學期 自四月一日至八月三十一日	十七日 第一期授業終	一月 新年祝賀式
第二學期 自九月一日至十二月三十一日	十九日 成績發表、終業式	八日 始業式
第三學期 自一月一日至三月三十一日	九日 授業式	中旬 教授豫定記入
每月 第二、四、土曜日大掃除	十一日 始業式	中旬 來學年度教科書選定
四月	十一日 授業豫定記入	二月
五日 始業式、入學式、新入生父兄會	下旬 四學年志望調査	十一日 紀元節祝賀式
七日 午前八時十分始業	十月	十三日 創立記念祝賀式
中旬 教授豫定記入	中旬 校友會學藝部會	同日 校友會學藝部會
廿九日 天長節祝賀式	十一月	三月
下旬 身體検査	三 日 明治節體育ア	六 日 地久節祝賀式
五月	上 旬 縣下中等學校女子競技會	十日 陸軍記念日
中旬 遠足修學旅行四、三、二、一學年	十二月	十二日 第三學期授業終
廿七日 海軍記念日	廿 日 第二學期授業終	十五日 成績發表、終業式
六月	廿四日 成績發表終業式	十八日 證書授與式
上 旬 口腔検査	同 校友會雜誌原稿募集	未 定 入學考査及成績發表
七月	廿五日 大正天皇祭	



成田女學校

生業卒回九十第及員職



第十回卒業生寄贈
 成田高等女學校校歌

菅川臨風作歌
 山田耕作作曲

得るにやあかひに
 1. 朝の光に
 2. 朝の光に
 3. 朝の光に

mf *mf* *mf*

Kosçak Varado

Soprano
 1 あかひの光にあはれ
 2 あかひの光にあはれ
 3 あかひの光にあはれ

Alto
 1 あかひの光にあはれ
 2 あかひの光にあはれ
 3 あかひの光にあはれ

Piano-Forte
mf

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ
 あかひの光にあはれ

*sempre
 maestrosissimo*

成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作曲

曉の榮ある光

永の夜の闇を破る

眠より覺めし乙女ら

なれの川ぞ今日の前に

美しき望は満てり

學びの窓は樂しき園生

幸ある前途いざことほがん

さきがけし色匂やかに

清き香は四方に漂ふ

學びの窓は……

幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに

御堂より森へと響く

怠るな勤めはけめと

我等をば教へ導く

澄み渡る心耳に冴えて

學びの窓は……

幸ある前途

成田なる岡の邊に咲く

千枝五百枝萬枝の梅

雪霜を凌ぎ堪へつゝ

私立成田高等女學校一覽

(昭和五年四月現在)

◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すと雖も確實に高等女學校令に準據し、絶対に宗教的布教宣傳の機關に供せず。専ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し。學業を勵み、淑徳を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山事業の精神に鑑み質實勤儉を旨として心身の鍛錬を怠らず、以て他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を軽減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、獎學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として手藝挿花、茶の湯、按摩を課し、體操科には薙刀を加へ形式を通じて武士道の精神を體得せしめ。音楽科にもオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、創立記念日唱歌及校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに勉む。

◎沿革略

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山事業の一にして校主兼校長たりし故成田山眞首石川僧正の慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大略左の如し

- 一 明治四十四年三月廿一日本校々則を制定す
- 一 同 四月一日成田中學校教諭中島喜一(高等師範 學校出身) 校務主 監兼教諭に任ぜらる。
- 一 同 四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入 試験を行ふ。
- 一 同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四 學年以下の各學年に分編し、同日始業式を行ふ。
- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席

- 一 明治四十四年十二月増築に着手せし雨中體操場、理科教室及普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用した
- 一 大正二年三月第二回卒業生出づ
- 一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一 同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一 大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一 同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一 同 十一月文藝士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正七年第七回卒業生を出せり
- 一 大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一 大正八年十月中村校務主監死去
- 一 大正八年十二月文藝士矢野太郎校務主監に任ぜらる
- 一 大正九年三月第九回卒業生を出し
- 一 大正十年三月第十回卒業生を出せり
- 一 大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
- 一 大正十二年三月第十二回卒業生を出す
- 一 大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命

- 一 大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
- 一 大正十三年二月成田山貫首荒木僧正校長の認可を受く
- 一 大正十三年二月文藝士笹川種郎校長に任ぜらる
- 一 大正十三年三月第十三回卒業生を出す
- 一 大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正十四年三月第十四回卒業生を出す
- 一 大正十四年三月笹川文學士校長辭任
- 一 大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
- 一 大正十四年四月校務主監佐藤國二校長に任ぜらる
- 一 大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
- 一 大正十五年三月第十五回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月第十六回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
- 一 昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隠退す
- 一 昭和三年三月第十七回卒業生を出す
- 一 昭和四年三月第十八回卒業生を出す
- 一 昭和五年三月第十九回卒業生を出す

昭和四年度重要記事

- 四月五日 入學式、始業式、及林教師の新任披露式舉行
- 四月八日 小山教師の新任披露
- 四月廿九日 天長節祝賀式舉行
- 五月九日 生徒身體檢査
- 五月十二日 山内學級主任及山内教諭日暮教諭心得引率の下に四學年四拾名關西旅行
- 五月十六日 佐藤校長、白鳥、小倉兩教諭、林教師引率第三學年箱根方面に、小川、武、青木三教諭引率第二學年日光方面に旅行
- 六月十日 佐藤校長全國高等女學校會議の爲め東京に出張
- 六月十五日 佐藤校長青木山内兩教諭安房中學校に出張
- 九月二日 第二學期始業式、及震災記念講話、並木教諭の新任披露
- 九月九日 平學務部長、岡社會課長、増田屬、來校
- 十月二日 御遷宮祭遙拜式舉行
- 十月八日 佐藤校長中等學校長會義の爲め千葉師範學校に出張
- 十月十七日 職員生徒全部競技大會に出場

- 十一月三日 明治節祝賀式舉行
- 十一月十六日 佐藤校長、武、小倉兩教諭引率第一學年筑波に、島田、青木兩教諭引率第二學年東京動物園に見學
- 十二月十一日 佐藤校長縣下高等女學校長會議の爲め佐倉高等女學校に出張
- 一月一日 四方拜祝賀式舉行
- 二月九日 前の校主故石川親下七回忌法事に一同參拜
- 二月十一日 紀元節祝賀式舉行
- 二月十三日 創立記念式、學藝部大會開催
- 三月六日 地久節祝賀式舉行
- 三月十八日 第十九回卒業式舉行
- 三月廿二日 入學考査五十三名に對し入學を許可す
- 三月廿三日

●學 則

- 第一章 總 則
- 第一條 本校の修業年限は本科四箇年とす
- 第二條 生徒定員は二百人とす
- 第三條 休業日左の如し
- 一、祝日、大祭日

- 二、日曜日
- 三、皇后陛下御誕辰
- 四、記念日、二月十三日
- 五、夏季休業七月廿一日より八月卅一日に至る
- 六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

第一章 學科課程教授時數

第四條 本校の學科目に編物袋物插花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす

第五條 學科課程及び教授時數は左の如し

學科	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	時數	週時	時數	週時	時數	週時	時數	週時
修身	二	二	一	一	一	一	一	一
國語	六	六	五	五	五	五	五	五
英語	三	三	三	三	三	三	三	三
歴史	三	三	三	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	三	三	三	三	三
數學	二	二	二	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一
家事	一	一	一	一	一	一	一	一

科目	時數	週時	備考
裁縫	四	四	同上、繕方
音樂	二	二	同上、複音
體操	三	三	同上、複音
教育	一	一	同上、複音
計	一	一	同上、複音
茶湯	一	一	同上、複音
插花	一	一	同上、複音
袋物	一	一	同上、複音
編物	一	一	同上、複音
按摩	一	一	同上、複音

備考 編物袋物插花茶湯按摩ハ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章 入學及退學

- 第六條 生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし
- 第七條 入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし
- 第八條 第一學年入學志願者に就きては小學校長の内申に基つき試問及身體検査に依りて之を檢定す
- 第九條 前條の試問は尋常小學校卒業程度に依り之を行ふ
- 第十條 第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力檢定に合格したるものたるべし

第十一條 入學を許可せられたる者は在學證書に戶籍謄本を添へて差出すべし

(在學證書は別に印刷しあるを以て省略す)

第十二條 保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし

第十三條 保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるときは一里以内に在所を有し一家計を立つるものを以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に届出づべし

第十四條 學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし

第十五條 保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に届出づべし

第十六條 生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出づべし

第十七條 生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難きときは期間を定め休學を願出づることを得但し期間は一ケ年間を超ゆることを得ず

第四章 修了及卒業

第十八條 各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學

第十九條 卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章 授業料及入學料

第二十條 一、授業料は月額金三圓とし毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したるときは其當日之を納むべし但毎年八月は之を徴收せず

第二十一條 入學料は金一圓とし入學許可の際之を徴收す

第六章 賞 罰

第二十二條 品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒狀を與ふ

第二十三條 學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず

- 一、品行不良にして改善の見込なしと認めたる者
- 二、成業の見込なしと認めたる者
- 三、出席常ならざる者

第二十四條 規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第七章 寄宿舎及生徒取締

第二十五條 生徒は自宅より通學する者及び學校長の許可を受けたる者の外總て學校の指定する場所に寄宿せしむ

第二十六條 寄宿は自治自炊制とし舎生をして輪番に之を處理せ

第廿七條 生徒取締に關する規程は學校長之を定む
しむ
第八章 附 則

第廿八條 本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は
學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
修身、國語、歴史	校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
化學、博物、地理、歴史、雜刀	顧問	笹川種郎	東京府	大正十三年二月
英語、歴史	文藝	佐藤國二	新潟縣	大正十三年五月
數學、物理	校長兼教諭	島田正香	長崎縣	大正十四年五月
國語、習字	教諭	武田仙嶺	千葉縣	大正十三年四月
國語、習字、國語	教諭	並木三井	滋賀縣	昭和四年九月
教育、家事	教諭	岡内しづ	千葉縣	大正七年一月
裁縫、編物、作法	教諭	大木と	山梨縣	昭和二年四月
裁縫	教諭	小倉治	千葉縣	昭和四年一月
體操	教諭	三池幸	福岡縣	昭和五年四月
地理	教諭	日暮充之助	千葉縣	昭和三年二月
音樂	囑託教師	小山滿壽	東京府	昭和四年四月

插花 按摩

同 同	同 記	櫻井文吉	千葉縣	大正十五年四月
酒井泰作 <td>伊藤總平 <td>福島縣 <td>大正十四年三月 </td></td></td>	伊藤總平 <td>福島縣 <td>大正十四年三月 </td></td>	福島縣 <td>大正十四年三月 </td>	大正十四年三月	
伊藤總平 <td>山内平治郎 <td>千葉縣 <td>明治四十五年四月 </td></td></td>	山内平治郎 <td>千葉縣 <td>明治四十五年四月 </td></td>	千葉縣 <td>明治四十五年四月 </td>	明治四十五年四月	
山内平治郎 <td></td> <td>千葉縣 <td>明治四十四年四月 </td></td>		千葉縣 <td>明治四十四年四月 </td>	明治四十四年四月	

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月順) (〇ハ結婚ノ印)

(舊岩瀨)	(舊吉岡)	(舊上原)
藤崎好	伊藤みよ	石原もよ
幡谷と	幡谷きり	長谷川さみ
長谷川さみ	長谷川さみ	長谷川さみ
戸塚ひさ	戸塚ひさ	戸塚ひさ
小川と	小川と	小川と
小田垣	小田垣	小田垣
泉と	泉と	泉と
吉田と	吉田と	吉田と
田中あ	田中あ	田中あ
山あ	山あ	山あ
杉山あ	杉山あ	杉山あ
大塚と	大塚と	大塚と
大木か	大木か	大木か
山野き	山野き	山野き
若林よ	若林よ	若林よ
香取久	香取久	香取久
深栖喜	深栖喜	深栖喜
秋葉ふ	秋葉ふ	秋葉ふ
櫻井ハ	櫻井ハ	櫻井ハ
木内ナ	木内ナ	木内ナ
本内ナ	本内ナ	本内ナ
三橋タ	三橋タ	三橋タ
菅澤タ	菅澤タ	菅澤タ
鈴木キ	鈴木キ	鈴木キ

◎卒業生人名現況表

(イロハ順) ○ハ結婚ノ印 ×ハ死亡ノ印

第一回卒業生 (明治四十五年三月) (一〇)

小學校教員 (岩瀬改) 藤崎好 印幡成田
 (幡谷改) 平井もと 同 成田
 × 田中あい 同 成田
 (上原改) 杉山かね 同 成田
 大木りう 同 中郷
 (丸改) 香取てい 同 公津
 山野か 代 同 成田
 (木内改) 生田欣 同 成田
 × 木内けい 同 成田
 三橋たい 同 中郷

小學校教員

第三回卒業生 (大正三年三月) (二一)

(田中改) 横山菊子 同 成田
 竹村きく 同 富里
 (中島改) 齋藤朝 同 富里
 (大友改) 石井光子 同 富里
 (小林改) 武津キン 同 富里
 (秋葉改) 土屋ふて 同 富里
 (大正三年三月) (二一)
 (伊藤改) 澤田ひさ 同 成田
 × 飯泉しけ 同 成田
 石原ひろ 同 成田
 (林改) 谷田部ゆき 同 成田
 (幡谷改) 師岡幸 同 成田
 (土井改) 永塚わき 同 成田
 加藤あい 同 成田
 (吉岡改) 鈴木てい 同 成田
 (吉岡改) 鈴木とし 同 成田
 (谷平改) 平山かね 同 成田
 (露崎改) 荒木キク子 同 成田

第二回卒業生 (大正二年三月) (一一)

松戸高等女學校教諭 (池田改) 勝田ゆき 同 成田
 池田みち 同 成田
 石原静 同 成田
 (林改) 川村くに 同 成田
 (渡邊改) 林清喜 同 成田
 (加藤改) 竹村きん 同 成田

小學校教員

小學校教員

東京和洋裁縫學校卒業

小學校教員

第四回卒業生 (大正四年三月) (二八)

(成田改) 綿貫きよ 同 成田
 (武藤改) 渡邊さだ 同 成田
 (大島改) 石橋のぶ 同 成田
 大須賀ゆう 同 成田
 (桑原改) 加藤くに 同 成田
 (山下改) 藤崎たか 同 成田
 (藤崎改) 茂木包 同 成田
 佐竹和歌子 同 成田
 (宮崎改) 土屋けい 同 成田
 (豊田改) 北村菊代 同 成田
 (大正四年三月) (二八)
 (岩井改) 大木美津 同 成田
 × 土井わか 同 成田
 × 藤く 同 成田
 (綿貫改) 青柳うめ 同 成田
 (加藤改) 安田もと 同 成田
 神戸もと 同 成田
 × 川島フサ 同 成田
 (竹村改) 鈴木しけ 同 成田
 (根本改) 古川菊 同 成田
 (並木改) 打木すづ 同 成田

小學校教員

戸板裁縫女學校卒業

小學校教員

小學校教員

東京高等師範學校保育科卒業

小學校教員

第五回卒業生 (大正五年三月) (二六)

武藤さみ 同 成田
 松戸その 同 成田
 (平山改) 伊藤るい 同 成田
 大竹たい香 同 成田
 (大木改) 鈴木あやめ 同 成田
 (黒川改) 行方りき 同 成田
 (桑原改) 岩井なみ 同 成田
 山野いく 同 成田
 (山田改) 土井満喜 同 成田
 (山田改) 柴宮よし 同 成田
 (山田改) 齋藤わか 同 成田
 増岡りき 同 成田
 秋山うめ 同 成田
 天野眞知 同 成田
 × 浅倉みつ 同 成田
 湯村とよ 同 成田
 (宮内改) 篠原みや 同 成田
 谷とく 同 成田
 (磯部改) 大野イク 同 成田

石原 ゆう 同 成田
 飯倉 きく 同 成田
 馬場 ちよ 同 宗像
 (土井改) 佐羽内とし 同 六合
 小川 敬 同 志津
 高橋 きく 香取滑河
 × 上原 こう 印旛成田
 野平 吉野 同 豊住
 (野平改) 横堀 ゆき 同 豊住
 (大三川改) 尾形 本子 香取多古
 (大木改) 廣澤 てい 印旛成田
 (奥澤改) 染谷 春野 同 白井
 (山内改) 土肥 徳子 同 成田
 山本 くに 同 安食
 京増 たか 同 酒々井
 (藤崎改) 相京 くに 同 遠山
 小坂 ひめ 同 酒々井
 圓城 寺てい 同 公津
 齋藤 こう 同 成田
 湯淺 うら 同 八生
 三橋 みち 同 富里

小學校教員
 東京裁縫女學校卒業
 和洋裁縫女學校卒業
 日本女子大學卒業

戸板裁縫女學校卒業
 東京女子高等師範學校保育科卒業
 成田幼稚園保母
 (山本改) 鈴木 せき 同 豊住
 山本 米 同 成田
 山崎 たけ 同 阿蘇
 瀧澤 よし 同 成田
 相京 ひな 同 公津
 齋藤 ヨシ 同 遠山
 京須 菊江 同 成田
 水野 しま 印旛成田
 (宮川改) 寺口 きよ 新潟 源
 (篠田改) 石井 喜久 重茨城 江津
 廣瀬 てい 印旛成田
 諸岡 米 同 成田
 (須藤改) 五十嵐 けい 同 六合
 (岩井改) 石野 ふぢ 印旛本埜
 (岩井改) 近藤 こう 同 大森
 (石井改) 杉野 忍い 同 豊住
 石川 てい 同 成田
 土井 きく 千葉大和田
 (土肥改) × 鈴木 はな 印旛公津
 土肥 なつ 同 公津

東京共立女子職業學校卒業
 第六回卒業生 (大正六年三月) (二九)
 (三橋改) 東 たか 同 成田
 平野 香根 市原高瀧
 (關川改) 藤崎 鳳 印旛成田
 鈴木 けい 東葛飾明
 × 岩館 かね 印旛遠山
 石原 やす 同 成田
 (小川改) 吉原 晃 同 八生
 萩原 美子 印旛千代田
 渡貫 はる 同 根郷
 (川口改) 森田 コウ 同 佐倉
 (川崎改) 齋藤 よし 同 公津
 吉岡 豊子 同 成田
 高川 綾子 同 成田
 (露崎改) 上原 君子 長生五郷
 (夏海改) 岩井 千代 印旛遠山
 大友 らく 宮城仙臺
 (武藤改) 井口 ミヤ 印旛永治
 × 大木 道子 同 成田
 大野 千代 同 旭
 (國本改) × 佐久間 とし 同 富里

戸板裁縫女學校卒業
 東京女子高等師範學校保育科卒業
 成田幼稚園保母
 (山本改) 鈴木 せき 同 豊住
 山本 米 同 成田
 山崎 たけ 同 阿蘇
 瀧澤 よし 同 成田
 相京 ひな 同 公津
 齋藤 ヨシ 同 遠山
 京須 菊江 同 成田
 水野 しま 印旛成田
 (宮川改) 寺口 きよ 新潟 源
 (篠田改) 石井 喜久 重茨城 江津
 廣瀬 てい 印旛成田
 諸岡 米 同 成田
 (須藤改) 五十嵐 けい 同 六合
 (岩井改) 石野 ふぢ 印旛本埜
 (岩井改) 近藤 こう 同 大森
 (石井改) 杉野 忍い 同 豊住
 石川 てい 同 成田
 土井 きく 千葉大和田
 (土肥改) × 鈴木 はな 印旛公津
 土肥 なつ 同 公津

女子醫學專門學校卒業
 千駄ヶ谷鐵道病院在勤
 第七回卒業生 (大正七年三月) (二七)

小學校教員
 第八回卒業生 (大正八年三月) (三一)

神崎 りん 同 遠山
 加瀬 千代 香取多古
 大徳 三枝 印旛久住
 谷 よし 同 公津
 (玉村改) 三橋 千代 茨城布川
 山口 ふじ 印旛成田
 山田 よし 印旛豊住
 藤崎 いし 同 遠山
 小林 とし 同 阿蘇
 小坂 てる 同 酒々井
 (後藤改) 高橋 とし 同 安食
 (遠藤改) 石井 はる 同 公津
 紡 慶子 同 酒々井
 (深山改) 押尾 とく 同 六合
 (宮内改) 丸 きよ 同 八生
 (宮内改) 石橋 三千江 長生一松
 檜垣 千代 印旛久住
 × 關川 利子 同 成田
 諏訪 原てる 久住
 鈴木 きよ 同 成田

小學校教員

(石上改) 五十嵐 ゆき
石原 つや 印旛 布佐
梶谷 主 海上瀧郷

小學校教員

(山内改) 佐野 泰子 同 成田
(藤崎改) 小倉 三代 千葉更科
福田 とら 印旛成田

(池田改)

北村 喜代 福岡城内
長谷川 よし 埼玉小林
岡部 雪子 三重蒲田

東京共立女子職業學校卒業

(淺井改) 石岡 いし 同 成田
(坂本改) 伊藤 はま 茨城文間
湯淺 達 印旛八生

小學校教員

(小川改)

伊藤 はつ 印旛八生
小川 喜美 東京淺草
小川 きい 印旛八生

前橋高等女學校教諭

島田 惠 同 酒々井
日暮 てい 同 中郷
清宮 いづ 同 八生

東京共立女子職業學校卒業

(中島改)

瀧澤 喜久 同 成田
高川 種子 安房北三原
中村 はる 印旛成田

女子醫學專門學校卒業

(本橋改) 小島 こう 同 本郷
(關川改) 原 郁 同 成田
岩館 やす 印旛成田

女子美術學校卒業

(大川改)

加瀬 清子 長野 四寺尾
上野 なをる 東京麻布
大久保 しげ 印旛本郷

女子醫學專門學校卒業

(石井改) 鶴岡 タケ 同 遠山
伊藤 喜代 同 富里
飯田 敏子 茨城八原

小學校教員

(山田改)

石橋 さい 同 成田
加藤 みつ 同 豊住
山田 満壽 同 安食

女子醫學專門學校卒業

(池田改) 菊地 きよ 印旛富里
(土井改) 小出 とみ 同 公津
土井 とし 同 公津

成田高等女學校教諭

(小川改)

大木 とし 同 成田
小川 きよ 同 公津
小川 かく 印旛公津

第十回卒業生 (大正十年三月) (二六)

杉田 はな 同 安食
石川 婦久 印旛成田
伊東 とも 山武上堺

和洋裁縫女學校卒業

(小川改)

香取 操 同 船穂
川上 きく 同 白井
谷川 はな 同 酒々井

東京共立女子職業學校卒業

(林改) 湯淺 君代 印旛八生
尾崎 サト 山武松尾
根本 てい 印旛公津

小學校教員

(小川改)

竹村 きみ 同 富里
根本 テル 同 豊住
仲山 千代 同 公津

東京女子高等師範學校保育科卒業

(海瀬改) 高田 よしえ 安房稻都
(神崎改) 遠藤 あい 印旛遠山
吉岡 瑛子 同 木下

小學校教員

(小川改)

宇井 幾久 同 成田
山田 喜代 同 八生
山本 こい 山武日向

帝國女子專門學校卒業

(山田改) 岩瀬 布知 印旛八生
(山田改) 藤崎 勢い 同 八生
中野 哲子 香取高岡

小學校教員

(小川改)

山本 しげ 同 和田
山内 貞子 印旛成田
山本 光子 同 酒々井

小學校教員

(古田改) 湯淺 千代 同 公津
丸 松田 さだ 印旛成田
丸 松田 さだ 同 公津

小學校教員

(三須改)

高知 衣 同 川上
宮島 頼子 同 大森
坂田 コウ 同 富里

東京津田英學塾卒業

大阪府立原尾高女教諭

女子醫學專門學校卒業

兒島 愛 茨城金江
後藤 たま 印旛安食
篠田 みつ 同 遠山
(遠藤改) 石井 ゆう 同 公津
(須藤改) 富井 静子 同 六合
(鈴木改) 寺水 好枝 茨城布川
(鈴木改) 佐山 いく 印旛六合
(大正十一年三月) (三八)

(石橋改) 伊藤 喜代 印旛成田
(飯倉改) 片山 ひさ 同 成田
× 秦野 とく 同 公津
堀 千代 東京大久保
(堀内改) 清岡 三鶴 高知津呂
大木 みつ 印旛八生
加藤 くに 同 八生
神崎 やす 印旛遠山
× 川村 長子 同 成田
川島 まつ 同 酒々井
田中 はな 茨城龍崎
高橋 こと 印旛大森
高川 興子 安房北三原

小學校教員

東京女子高等師範學校
専攻科卒業
東京女子職業學校卒業
東京裁縫女學校卒業
千葉女子師範二部卒業
小學校教員
東京女子美術學校卒業

(谷改) 秋山 すい 印旛公津
× 竹村 嘉代 同 富里
× 増淵 才 印旛安食
小倉 松 同 成田
× 黒田 くに 同 成田
山本 たか 同 安食
(山田改) 小倉 てい 同 八生
(矢野改) 二瓶 敬 愛媛久米
藤崎 シン 印旛遠山
藤崎 たい 同 遠山
藤崎 ふみ 同 遠山
小坂 とめ 同 酒々井
寺本 きみ 同 八生
齋藤 たけ 市原八幡
× 齋藤 てい 印旛遠山
佐瀬 より 同 八生
神崎 はな 同 八生
(湯淺改) 宮崎 秀子 長生八積
篠原 芳枝 印旛木下
(日暮改) 西谷 トミ 同 中郷

小學校教員

(泉對改) 石井 ヒロ 千葉豊富
菅 壽美 匝瑛椿海
鈴木 とし 印旛成田
(鈴木改) 松崎 錦 秋田本莊
(大正十二年三月) (三九)

(岩井改) 伊藤 きわ 印旛中郷
瀧田 きく 同 大森
井浦 多美 香取小見前
(石橋改) 荒井 なか 印旛成田
× 飯沼 つね 同 酒々井
石原 とみ 同 富里
東京共立女子職業學校卒業 (林改) 腰川 八千代 同 八生
原 えつ 同 佐倉
細川 喜與 同 遠山
土井 糸い 同 公津
(土井改) 野平 きい 印旛公津
× 土井 よし 同 公津
岡田 はな 茨城布佐
大澤 しけの 印旛本塾
大木 美代 同 八街
× 小野 寺シゲ 同 成田

小學校教員
和洋裁縫速成科卒業

小倉 茂子 同 成田
太田 鹿子 同 公津
勝田 俊 同 八生
海保 けい 茨城金江
吉橋 きん 印旛旭
椿 たき 香取滑川
並木 菊子 印旛遠山
鶴澤 喜代 山武運沼
山本 くに 印旛八生
山本 佐多 同 和田
増田 温子 同 成田
小川 はる 同 酒々井
(京増改) 藤崎 まつ 同 安食
後藤 瑞子 同 八生
小池 よし 同 遠山
安達 靖子 印旛遠山
相京 靖子 同 酒々井
秘山 ツヤ 印旛中郷
櫻井 けい 香取小野門
× 島田 輝代 印旛酒井
平野 江榮 同 八生

京都同志社在學

第十三回卒業生 (大正十三年三月) (四七)

(石川改)

○ 平山 まさ 同 成田
 ○ 平山 はつ 同 成田
 ○ 今井 たけ 同 成田
 ○ 岩田 と美 同 布織
 ○ 石原 登代 同 成田
 ○ 豊田 登代 同 成田
 ○ 土井 てい 同 公津
 ○ 及川 ナカ 同 公津
 ○ 岡田 けい 同 本塾
 ○ 大木 まつ 同 中郷
 ○ 大須賀 ちか 同 本塾
 ○ 小川 貞女 同 八生
 ○ 小川 ふじ 同 八生
 ○ 綿貫 綾子 同 八生
 ○ 片岡 とめ 同 成田
 ○ 吉岡 誠 同 成田
 ○ 玉村 ハナ 同 成田
 ○ 高槻 洋子 同 成田
 ○ 高橋 しのぶ 同 成田
 ○ 瀧澤 喜代 同 成田

小學校教員

小學校教員

日本女子大學家政科卒業

小學校教員

女子職業學校卒業

(藤原改)
 ○ 中島 さき 同 安食
 ○ 仲山 勢い 同 公津
 ○ 野口 とし 同 成田
 ○ 山田 かつ 同 成田
 ○ 山内 總江 同 成田
 ○ 山口 ひで 同 成田
 ○ 松田 ふく 同 成田
 ○ 増田 とし 同 成田
 ○ 居城 せつ 同 小御門
 ○ 船橋 ツネ 同 成田
 ○ 紺谷 満枝 同 成田
 ○ 小泉 繁子 同 成田
 ○ 秋山 みつ 同 成田
 ○ 青野 むつ 同 成田
 ○ 相京 タケ 同 成田
 ○ 齋藤 あい 同 成田
 ○ 齋藤 きよ 同 成田
 ○ 佐伯 とみ 同 成田
 ○ 湯淺 ゆう 同 成田
 ○ 湯淺 つね 同 成田
 ○ 三橋 孝子 同 成田

東京女子大學在學
和洋裁縫學校卒業

(平山改)

○ 宮川 幾子 同 八生
 ○ 宮内 はる 同 八生
 ○ 島田 清 同 八生
 ○ 伊藤 とし 同 成田
 ○ 關川 昭 同 成田
 ○ 鈴木 トシ 同 公津
 ○ 鈴木 つる 同 成田
 ○ 菅谷 とし 同 白鳥

小學校教員

實踐女學校專攻科卒業

小學校教員

第十四回卒業生 (大正十四年三月) (四四)

實踐女學校專攻科在學

○ 石井 かつ 同 成田
 ○ 岩館 はる 同 成田
 ○ 飯田 ちよ 同 成田
 ○ 伊藤 みつ 同 成田
 ○ 石橋 あき 同 成田
 ○ 林 子 同 成田
 ○ 長谷川 のぶ 同 成田
 ○ 大澤 敦 同 成田
 ○ 岡田 喜美 同 成田
 ○ 小倉 治子 同 成田
 ○ 小倉 まさ 同 成田
 ○ 大木 ヤキ 同 成田

櫻井女塾卒業

(文屋改)

○ 大木 ゆき 同 八生
 ○ 小川 春子 同 八生
 ○ 大竹 かね 同 成田
 ○ 竹尾 きよ 同 成田
 ○ 中野 美津子 同 成田
 ○ 永田 順子 同 成田
 ○ 野島 律 同 成田
 ○ 牧野 とし 同 成田
 ○ 丸 よし 同 成田
 ○ 京須 八重 同 成田
 ○ 藤崎 けい 同 成田
 ○ 藤倉 しけ 同 成田
 ○ 吉川 壽 同 成田
 ○ 小林 ハル 同 成田
 ○ 越川 富美子 同 成田
 ○ 後藤 てる 同 成田
 ○ 後藤 歌 同 成田
 ○ 遠藤 ゆき 同 成田
 ○ 手島 せつ 同 成田
 ○ 秋山 ふさ 同 成田
 ○ 相川 とく 同 成田

×青柳のぶ 同 公津
 齋藤きよ 同 公津
 坂田信 同 富里
 木内つね 同 酒々井
 湯浅てい 同 八生
 莊司つる 同 成田
 諸岡ます 同 成田
 諸岡以喜子 同 成田
 關口しげ 同 久住
 鈴木こと 同 富里
 齋藤いと 同 木下
 女子師範專攻科卒業
 高橋さゆり 同 香取滑川
 高橋さだ 同 茨城金吾
 野々宮みつ 同 印旛成田
 葛生ちよ 同 久住
 柳本喜恵子 同 印旛成田
 山崎きく 同 豊住
 淺井壽 同 成田
 麻生菊枝 同 山武千代前
 青木こう 同 印旛本埜
 青山ま津 同 茨城金吾

女子師範第二部卒業小學校教員
 小野寺アイ 同 成田
 小倉とわ 同 成田
 渡邊愛 同 成田
 加藤きん 同 成田
 勝田俊 同 安食
 吉岡たか 同 北須賀
 多田喜代 同 公津
 高橋さゆり 同 香取滑川
 高橋さだ 同 茨城金吾
 野々宮みつ 同 印旛成田
 葛生ちよ 同 久住
 柳本喜恵子 同 印旛成田
 山崎きく 同 豊住
 淺井壽 同 成田
 麻生菊枝 同 山武千代前
 青木こう 同 印旛本埜
 青山ま津 同 茨城金吾

和洋裁縫女學校卒業
 堀江智恵 同 成田
 今井春子 同 印旛成田
 池田頼子 同 山武千代前
 大塚千代 同 白井
 石川せつ 同 富里
 石原せつ 同 印旛富里
 石橋とよ 同 印旛中郷
 石橋つたい 同 香取滑川
 石橋たみ 同 印旛成田
 第十五回卒業生 (大正十五年三月) (四五)
 千葉高女補習科卒業
 土岐裁縫女學校在學
 小學校教員

女子師範專攻科卒業
 高橋さゆり 同 香取滑川
 高橋さだ 同 茨城金吾
 野々宮みつ 同 印旛成田
 葛生ちよ 同 久住
 柳本喜恵子 同 印旛成田
 山崎きく 同 豊住
 淺井壽 同 成田
 麻生菊枝 同 山武千代前
 青木こう 同 印旛本埜
 青山ま津 同 茨城金吾

日本女子大學卒業
 佐伯智恵子 同 成田
 山崎よし 同 香取多古
 木下けい 同 印旛成田
 龍崎しつ 同 遠山
 湯淺公己 同 八生
 湯淺みつ 同 八生
 椎名静 同 大森
 柴崎ゆき 同 大森
 平山いち 同 成田
 檜垣穎 同 印旛久住
 森谷みね 同 成田
 菅谷幾世 同 成田
 鈴木とみ 同 成田
 鈴木喜恵 同 船穂
 家政學院在學
 第十六回卒業生 (昭和二年三月) (四六)
 女子美術學校在學
 小學校教員

和洋裁縫女學校卒業
 佐久間かつ 同 印旛成田
 佐伯智恵子 同 成田
 山崎よし 同 香取多古
 木下けい 同 印旛成田
 龍崎しつ 同 遠山
 湯淺公己 同 八生
 湯淺みつ 同 八生
 椎名静 同 大森
 柴崎ゆき 同 大森
 平山いち 同 成田
 檜垣穎 同 印旛久住
 森谷みね 同 成田
 菅谷幾世 同 成田
 鈴木とみ 同 成田
 鈴木喜恵 同 船穂
 女子高等學院在學
 女子職學學校卒業
 千葉高女家庭科卒業
 千葉高女家庭科卒業
 千葉高女家庭科卒業
 小學校教員
 實踐女學校專門部在學

女子高等學院在學
 女子職學學校卒業
 千葉高女家庭科卒業
 千葉高女家庭科卒業
 千葉高女家庭科卒業
 小學校教員
 實踐女學校專門部在學

女子美術學校在學
 小學校教員
 伊藤登美 同 永治
 岩瀬かつ 同 成田
 岩澤利子 同 遠山
 石原あや子 同 富里
 石井イワ 同 印旛豊住
 女子美術學校在學
 小學校教員
 伊藤登美 同 永治
 岩瀬かつ 同 成田
 岩澤利子 同 遠山
 石原あや子 同 富里
 石井イワ 同 印旛豊住

女子美術學校在學
 小學校教員
 伊藤登美 同 永治
 岩瀬かつ 同 成田
 岩澤利子 同 遠山
 石原あや子 同 富里
 石井イワ 同 印旛豊住

林田まさ 同 成田
 豊田喜美 同 成田
 大竹さと 同 富里
 大久原節 同 成田
 勝田よし 同 八生
 梶谷みつ 同 安食
 吉岡薫 同 香取滑川
 高橋あゑ 同 印旛公津
 高橋よね 同 成田
 瀧澤山子 同 成田
 中島こう 同 印旛成田
 中野雪子 同 香取大前
 桑原米 同 印旛豊住
 古矢春子 同 成田
 藤倉さだ 同 成田
 荻原あい 同 豊住
 小倉みち 同 八生
 小倉タケ子 同 成田
 渡邊すま 同 成田
 渡邊よし 同 成田
 渡邊ゆき 同 成田

大妻裁縫女學校在學

土岐裁縫女學校卒業

土岐裁縫女學校卒業

女子美術學校卒業

千葉高女家庭科卒業

第十七回卒業生 (昭和三年三月) (四九)

(諸岡改)。藤倉貞子 香取多古 印旛成田 諸岡琴子 同成田

山脇高女、家政科卒業

障蔭女學校在學

大阪女子藥學校在學

渡邊裁縫學校在學

石川 ちか 同 遠山 石川 文枝 同 成田 伊藤 ハル 同 遠山 飯塚 まつ 同 成田 林 花子 同 成田 土肥 みさほ 同 成田 鳥居 薫 同 成田 小川 のぶ 同 成田 小川 豊 同 成田 小倉 えい 同 成田 太田 愛知 夫 同 成田 大島 春江 同 成田 荻原 とみ 同 成田 渡邊 つる 同 成田 神戶 光子 同 成田 加藤 カツエ 同 成田 加瀬 な美 同 成田 海保 富美代 同 成田 多田 光子 同 成田

成田新更會館

小學校教員

小學校教員

幼稚園保姆見習

弘前和洋裁縫女學校

小學校教員

大徳 愛子 同 成田 竹尾 ます 同 酒々井 長竹 勅子 同 成田 野口 七五三 同 豊住 葛生 つる 同 安食 久保庭 菊江 同 成田 郡司 和歌子 同 遠田 矢村 仁枝 同 公津 矢村 美都江 同 公津 山田 とよ 同 印旛八生 山本 雅子 同 成田 山本 幸 同 安食 丸 千代 同 公津 増淵 英子 同 成田 藤江 和子 同 安食 藤崎 コト 同 遠山 圓城寺 つわ 同 公津 青木 トク 同 本埜 秋山 弘 同 富里 佐久間 ふみ 同 成田 木内 しげ 同 成田

小學校教員

第十八回卒業生 (昭和四年三月) (四七)

佐倉大石裁縫女學校在學

湯淺 ちい 同 八生 湯淺 つる 同 八生 清水 文代 同 遠山 島田 治子 同 成田 鈴木 志津 同 成田 鈴木 隆子 同 木下 鈴木 木きん 同 茨城布川 池田 いく 同 印旛安食 石橋 はつ 同 成田 伊藤 千代 同 八生 稻葉 文子 同 公津 遠藤 くみ 同 公津 細川 喜美 同 遠山 本多 ちよ 同 遠山 堀井 正子 同 成田 小野 寺キク 同 成田 小山 マス 同 六合 大木 貞子 同 成田 渡邊 もと 同 成田 勝田 まさ 同 安食

私立成田高等女學校一覽

小學校教員

和洋裁縫女學校在學

大妻技藝學校高等家庭科
佐倉伊藤裁縫女學校卒業

日本女子大學校在學
小學校教員

勝又千代	同 遠山	吉岡きみ	同 公津	高久繁	同 安食	高川春野	同 成田	谷本敏子	同 公津	根本敏子	同 豊住	成島きい	同 大森	宇島みさを	同 夷隅國吉	郡司秀	同 香取日吉	黒川喬	同 印旛成田	山田包	同 印旛公津	山口精	同 公津	藤崎さく	同 成田	藤崎のぶ	同 安食	藤崎千代	同 成田	越川春江	同 遠山	小林富子	同 成田	安達有年子	同 遠山	荒井たまほ	同 布録	秋山節	同 中郷	坂本富美代	同 香取滑河
------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	--------	-----	--------	-----	--------	-----	--------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	-----	------	-------	--------

戸板裁縫女學校在學

佐倉伊藤裁縫女學校在學

佐倉高等女學校補習科

第十九回卒業生 (昭和五年三月) (四七名)

坂田米	同 印旛富里	菊地喜代	同 印旛公津	木内とよ	同 香取滑河	湯淺きよ	同 印旛公津	三橋壽子	同 公津	新橋千代	同 成田	白田キヲ	同 山形大谷	日暮環	同 印旛成田	瀬尾ふく	同 安食	鈴木きい	同 印旛公津	鈴木秋江	同 公津	鈴木ふち	同 成田	鈴木君江	同 公津	石井八千代	同 印旛布録	船垣シゲ	同 成田	伊藤久子	同 成田	伊藤清子	同 木下	池田百子	同 遠山	五十嵐はる	同 木下	飯岡文	同 豊住
-----	--------	------	--------	------	--------	------	--------	------	------	------	------	------	--------	-----	--------	------	------	------	--------	------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-----	------

女子職業師範科

私立成田高等女學校一覽

土井しづ	同 公津	士肥こう	同 公津	加藤きよ子	同 中郷	勝田すま	同 安食	吉岡九重	同 香取滑河	瀧澤ひさ	同 印旛成田	武田まさ	同 八生	根本せつ	同 香取滑河	根本ふで	同 印旛成田	成毛喜美枝	同 豊住	宇佐見智意	同 中郷	小川志津江	同 公津	小川あい	同 成田	小川きくえ	同 成田	小川けい	同 遠山	小倉とし	同 八生	小高ふよ	同 公津	桑原あい	同 布録	山田きん	同 豊住	山田はる子	同 成田	藤崎貞子	同 遠山
------	------	------	------	-------	------	------	------	------	--------	------	--------	------	------	------	--------	------	--------	-------	------	-------	------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------

藤田好	同 八生	後藤よね	同 八生	後藤正子	同 八生	相京サタ	同 公津	浅野ふみ	同 中郷	佐久間やす	同 成田	木内よね	同 成田	湯淺孝子	同 八生	湯淺きみ	同 同	宮内たけ	同 同	水野鶴子	同 成田	下村妙	同 八生	新橋美子	同 成田	平山はな	同 香取多古	平間きみ	同 同	廣瀬はみ	同 同	泉しん	同 印旛公津	鈴木美江	同 公津	鈴木かつ	同 成田
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	------	-----	------	------	------	------	--------	------	-----	------	-----	-----	--------	------	------	------	------

經費概表 (昭和四年度決算)

俸給	雜給	校費	修繕費	退職給與金	合計
一四七五〇、六〇	四七八四、八八	三二九六、八五	六九八、五四	一三九〇、〇〇	二四九二〇、八七

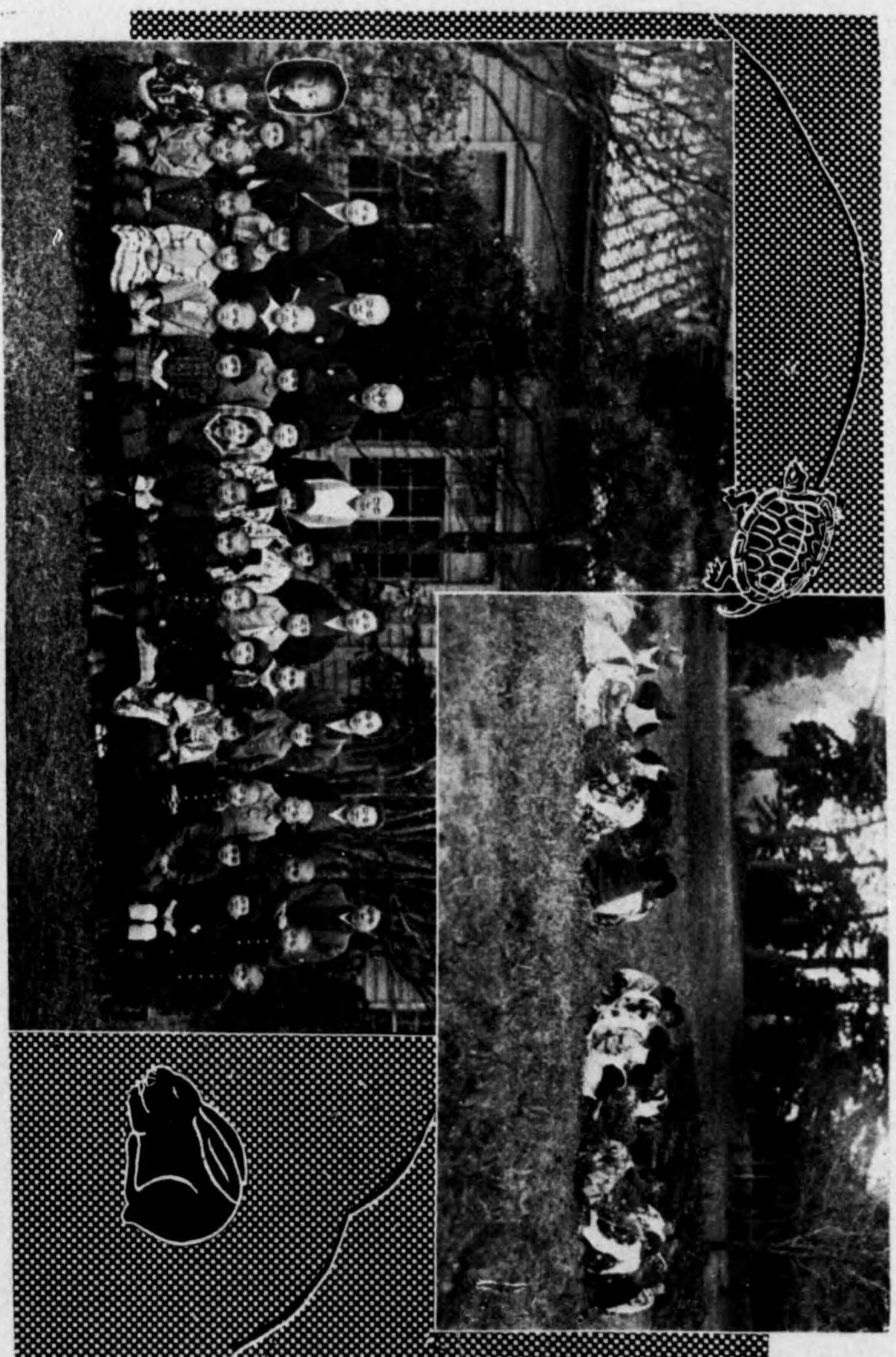
成田幼稚園一覽

園歌	七三
沿革略	七五
設備の状況	七五
經費	七五
職員	七六
年中行事	七六
保育修了幼兒數	七六
入退園及年度末現員調	七七
保育の状況	七八
規則	七九
保育料	八〇
保護者の心得	八一



東京女子大学

園児の落花生搾り



職員及第二十五回保育了者

園歌

大和田 建樹氏作歌
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあげ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

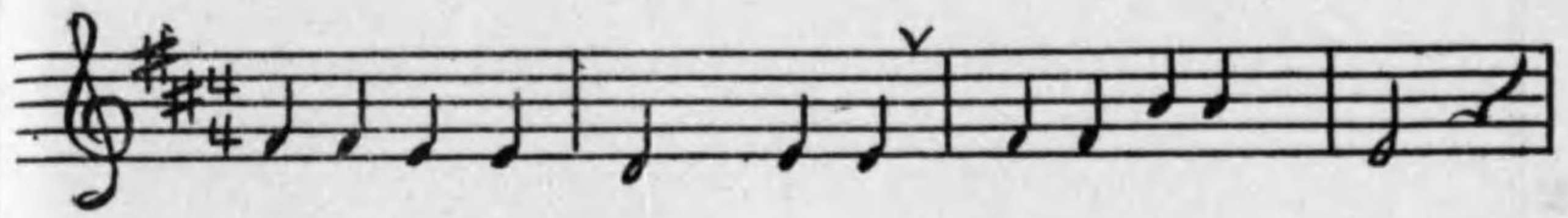
花にめくみの露しけし

我等も日々に集りて

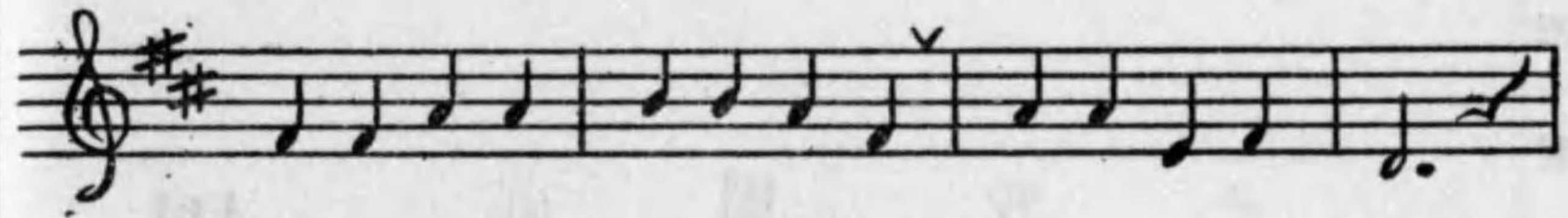
雲雀となりて謠はまし

そのゝ恵の嬉しさを

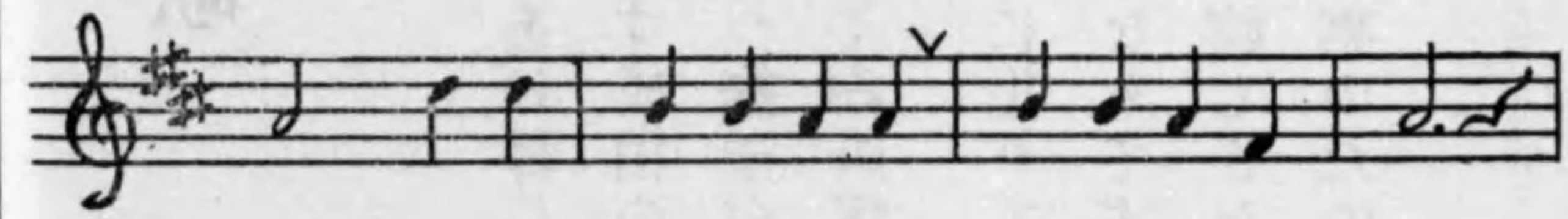
御世の恵のたのしさを



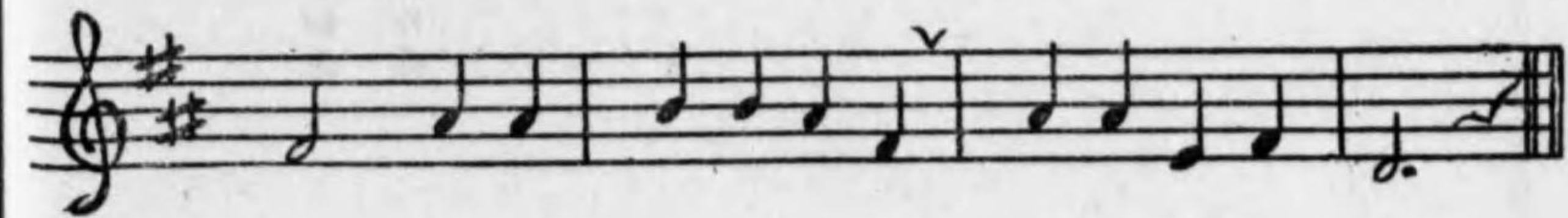
ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ
われらも ひ びに あつまり て



ミワタス アリタノ ヨーチエ ン
ひばりと なーりて うたはま し



ソ ノニ オヒタツ ナデシコ ノ
そ のの めぐみの うれしさを



ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ
み よの めぐみの たのしさを

私立成田幼稚園一覽

沿革略

一創立 明治三十八年五月成田小學校内に假保育を開始し同三十九年六月現在の新築園舎に移轉す
 一位置 成田町小字向臺と稱し成田驛より東へ約三丁緑の森に包まれた高燥な地域にして四方の眺望又四季の風光に富む
 一設備 本園の總坪數參千八百八拾九坪内遊園に屬するもの貳千八百餘坪建坪貳百五拾餘坪とす

- 一昇降口拾貳坪 一保育室三各拾參坪半
- 一園長室兼圖書室參坪 一職員室九坪
- 一遊嬉室四拾八坪 一應接室四坪
- 一玩具室六坪 一廊下便所六拾四坪五合
- 一職員住宅貳參拾四坪 一幼兒寢室及電話室參坪
- 一小使室附屬建物等貳、拾七坪二合五勺

經費

- 一金壹萬四百七拾壹圓八拾五錢
 - 敷地買入及新築費、落成式費
 - 一金壹千八百八圓拾七錢
- (自三十八年六月至四十年三月)

- 一金壹千八百八圓拾七錢 (四十年年度)
- 一金壹千九百四拾圓四拾錢 (四十一年度)
- 一金壹千七百貳拾五圓四拾參錢 (四十二年度)
- 一金壹千九百參拾五圓七拾錢 (四十三年度)
- 一金壹千九百貳圓九拾五錢 (四十四年度)
- 一金貳千參百四拾壹圓拾五錢 (大正參年度)
- 一金參千四百拾六圓五拾壹錢 (大正四年度)
- 一金壹千九百九拾壹圓參拾五錢 (大正五年度)
- 一金壹千九百五拾四圓七拾九錢 (大正六年度)
- 一金貳千四百九拾九圓七拾參錢 (大正七年度)
- 一金參千四百九拾五圓九拾七錢 (大正八年度)
- 一金參千六百九拾五圓貳拾六錢 (大正九年度)
- 一金四千九百四拾九圓九拾錢 (大正十年度)
- 一金六千六拾九圓九拾八錢 (大正十一年度)
- 一金五千五百五拾壹圓八拾錢 (大正十二年度)
- 一金五千六百五拾八圓貳拾四錢 (大正十三年度)
- 一金五千參百九拾八圓八拾九錢 (大正十四年度)

一金五千八百參拾貳圓九錢 (昭和元年度)
 一金五千七百六拾貳圓參拾七錢 (昭和二年度)
 一金六千八百參拾貳圓參拾壹錢 (昭和三年度)
 一金六千四百八拾圓四拾八錢 (昭和四年度)
 合計九萬八千八百八拾壹圓參拾五錢
 最近參個年間經費平均額
 金六千參百五拾八圓參拾九錢
 一園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして理事石川甚兵衛、關川博道、淺井儀助の三理事之を補佐し淺井儀助專務理事兼會計主任關川博道園醫を兼ね

職員

職名	姓名	原籍	就職年月
園主兼園長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
主任	山口政子	德島縣	大正三年十月
保母	若命喜美	神奈川縣	大正十年三月
保母	瀧澤よし	千葉縣	大正七年十一月
保母	高田よしゑ	千葉縣	大正十年五月
代保	山本雅子	千葉縣	昭和三年四月
見習	今井たけみ	千葉縣	昭和四年九月
園醫	關川博道	千葉縣	明治三十八年五月

一年中の行事
 一月八日 新年始業式
 三月三日 雛の節句
 四月七日 入園式
 五月五日 端午の節句
 二月十一日 紀元節
 三月二十日 保育修了式
 四月廿九日 天長節
 六月一日 創立記念日

昭和四年度入退園及年度末現員

年度	入園		卒業		中途退園		死亡		年度末現員	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
昭和四年度	二七	二七	一五	一五	一〇	七	一	〇	二八	三二

右の外昭和五年四月末日現在園兒數

昭和四年度保育修了幼兒數

保育期間	修了兒姓名		保育期間	修了兒姓名		保育期間	修了兒姓名	
	男	女		男	女		男	女
參年	大野のふ子	同	石橋	徳子	同	椿	丑太郎	
同	伊能	静子	飯田	禮子	同	吉岡	正江	
同	諸岡	壽一	宮田	照	同	山田	あさ	
同	關川	正誼	瀧澤	滋子	同	長谷川	行勇	
同	齋藤	徳代	出口	澄子	同	鈴木	壽美枝	

入退園及年末現員調

年	入園		卒業		中途退園		死亡		年度末現員	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
明治三十八年度	四二	一三	九	六	〇	一	〇	一	二二	二五
明治三十九年度	三〇	二二	一五	九	七	〇	一	〇	二二	二四
明治四十年度	二六	二二	二〇	一〇	四	〇	〇	〇	一八	二二
明治四十一年度	二六	二二	二〇	一〇	四	〇	〇	〇	一八	二二
明治四十二年度	二四	一五	一五	七	六	〇	〇	〇	二六	二六
明治四十三年度	三一	二〇	一九	一一	五	〇	〇	〇	二五	三三

年 度	大正八年度		大正九年度		大正十年度		大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		大正十四年度		大正十五年度		昭和元年度	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
入園	二六	二二	一九	二二	三一	二六	二五	一九	四〇	三二	二八	二一	三〇	二一	三二	二五	二五	二七
卒業	二二	二四	二一	一六	二三	一九	二〇	一二	一八	一七	二六	二四	二一	二〇	一七	一七	一七	一七
中途退園	四	六	二	七	七	七	一	四	一六	九	七	三	六	〇	七	〇	七	五
死亡	〇	一	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	三	〇	〇	〇	一
年度末現員	三七	二九	三四	二七	三四	二七	二九	二九	三五	三四	三〇	二八	三二	二五	三七	二七	二七	二七

保育の状況

一 幼児の年齢
 幼児は満参歳より學齡迄とし滿貳ケ年以上在園するものを收容参年保育とす

一 收容定員及組數
 幼兒は九拾名を定員とし之を四組に編成す

一 保育時間
 保育時間は季節に依り長きは四時間短きは二時間とし入園最初の最年少幼兒は一時間又は一時間半とし夏季休暇迄繼續九月より漸次他の組と同様に進む

一 保育課目
 保育課目として唱歌、遊嬉、談話、觀察、手技とす

一 庭園の應川

昭 和 年 度	昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度	
	女	男	女	男	女	男
入園	一九	二二	一八	一八	二七	二七
卒業	二八	一六	二三	一八	一五	一〇
中途退園	二	七	二	一	〇	一
死亡	〇	〇	〇	〇	〇	〇
年度末現員	二八	二七	二七	三一	二八	二八

大自然に恵まれた當園は緑の森に包まれ園内又年経たる樹木繁茂し貳千八百餘坪の廣庭は全部芝生にして空氣は清くほみ數へきれぬ雜草は密生して色とりどりの花美しく庭園を飾り幼兒は此花の中に埋まれて自然物の應川も廣く行はれ放たれた自由の小鳥虫などの可愛ゆき姿も十二分に味ふて幼兒は日々無限の喜びと教へに導かる

一 幼兒用畑

幼兒用として園の一隅に拾坪程の畑地を作り年々長幼兒自から落花生の種を蒔き其收穫迄の移りゆく生育を觀察資料とし年長幼兒之を收穫全園兒樂しくお手傳ひをして園主親下へ幼なきものよりして年々賀の節幼兒の手より之を捧ぐる事とし又甘薯の畑は幼兒に依つて堀り取り家庭へのお土産ともし又園内で試食會を催す事もあり何れも幼兒の最も嬉しいものであります

一 幼兒の遊園坪數

幼兒の遊園は幼兒一人に付き參拾壹坪強に當る

一 體育運動

體育運動として屋内にては毬投げ輪廻し又は舞踊等に依り活動を進め庭園にては數多く移動式運動具を備へ幼兒を健康と元氣に導く

一 入園志望者の選擇

入園志望者は簡易な考査をなし保育修了者の補充として同數の幼兒の入園を許す

一 保育料及入園料
 明治三十八年開園當時より數年前迄全額五拾錢(一人通園)半額貳拾五錢(二人以上通園)なりしも其後全額壹圓半額五拾錢に變更し昭和四年四月より全額貳圓半額壹圓に改む入園料は徴收しない

私立成田幼稚園規則

- 第一條 本園は滿参年より學齡までの幼兒を收容し滿二年以上在園の者に限り入園を許す
- 第二條 入園は四月九月の兩度とす
- 第三條 保育課目は唱歌遊嬉觀察談話手技とす
- 第四條 保育時間は四時間以内とす
- 第五條 本園收容幼兒の定員は九拾名とし年少の組は二拾名を限度とし他を三組に編成す
- 第六條 休業日を左の如く定む
 - 一 祝日 大祭日及日曜日
 - 一 皇后陛下御誕日
 - 一 春季休業 自三月二十一日至三十一日

一 記念日 六月一日

一 夏季休業 自八月一日至三十一日

一 冬期休業 自十二月二十五日至一月七日

第七條 入園希望のものは本園規定の書式に依り其旨申出簡易な考査を行ひ合格のものに入園を許可す

(但書式は本園より交付す)

第八條 退園は其理由を申出づべし入園後二ヶ月無届缺席の場合退園者と認め名簿より除く

第九條 二年以上在園の幼児にして保育修了證書を與ふ(但二年以内にも轉園其他特に入園を許可されし者にも證書を與ふ)

第十條 幼児及保護者の轉居の場合届出つべし

第十一條 保育料は一人一ヶ月金二圓とし一家族にして二人以上なるときは一名を二圓とし其他を半減し缺席全月に亘る時は徴收せず保育料は毎月五日迄に納付すべし

入園證書

何 某

右は今般貴園に入園御許可相成候に付ては本人に關する一切の事件拙者引受可申候也

右幼児保護者

昭和 年 月 日

私立成田幼稚園御中

私立成田幼稚園幼児保護者心得

一 家庭と幼稚園の連絡に關する事

家庭と幼児保育の連絡に付ては相互に協力するにあらざれば効果を得る事能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應して保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關し當園の冀望を掲ぐ

一 家庭より當園の事に付き疑義あるか又は幼児の事に關して擔任保姆に問合せ又は協議せられたき事あらば遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし

一 父母兄弟並世に直接に幼児の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭保育の参考にせられん事當園の最も冀望する所也又春秋の頃子供の會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり是は一は實地保育の模様を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼児の保育に關し相互に懇和せんが爲なり日時其都度通知すべければ成るべく來會ありたし
一 幼児付添人に關する事

千葉縣印旛郡成田町大字何番地
昭和 年 月 日 何 某
私立成田幼稚園長 荒木照定殿

經歷書項目

生父健否	年齢
生母健否	年齢
兄弟	姉 人 妹 人
生母ノ乳	乳母ノ乳
牛乳	里 子
生來重病ニ	
カ、リタルコトノ有無	
性質習慣ノ	
著シキモノ	

右御報告申上候也

幼児保護者

當園に於ては幼児の付添を斷る

但往復途中の送迎は隨意たるべし

一 幼児の遊嬉に關する事

遊嬉は實に幼児の仕事にして心身の發達一に之によるものなれば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付きても亦能く其良否を選定し繪本の如きは色彩の良否説明せる字の如何に依り幼児を害する事は恐るべき事なれば其内容を充分に取調べられて幼児に與へられる様注意せられたし

一 幼児服装に關する事

幼児の服装は成るべく質素にして遊嬉運動等に便利なるものを用ひ可成洋服又は和服は筒袖に仕立られたし

一 幼児の携帶品に關する事

幼児在園中に用ふべき器具其他總て園のものを使用する事なれば手拭鼻紙等必要なるもの、外は幼児に携帶せしめざる様致したし

一 帽子辨當傘の携帶品マントクツ等にも必ず氏名を記されたし

一 幼児の往復に關する事
幼児の往復は近來自働車其他の爲に故障生じ易ければ風雨其他注意保護せられたし格別の事情なき限り必ず徒歩せしめられたし

一 幼児の缺席並に家庭の疾病等に關する事
 幼児の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事
 由を届出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すに
 あらざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族
 に傳染病者ある時は直に其病名を記して届出られたし
 但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘猩紅熱腸窒扶斯發疹窒
 扶斯、虎列刺、赤痢、ジフテリア、ペスト等を云ふ
 一 保護者の異動に關する事
 保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ち
 に届出でられたし

千葉縣保育會第一回相互視察會

一 千葉縣保育會は昭和四年三月孤々の聲を擧げて漸く半歲餘の
 四年十一月二十六日會自相互の親睦と保育の向上を圖る爲會
 員の魂意に基き本園を會場として第一回相互視察會を開いた
 視察會の前日二十五日は夕刻より暗雲低く垂れ遂に風雨を交
 へ而も暴風雨に變つた二十六日の會合不可能とあきらめたが
 二十六日朝七時頃より風雨は去つて雲間に陽光を見出し出發
 を見合せた人も高下駄で出席された人も多く總數五十三名の
 多數に上つた
 午前十一時まで保育の實際を視察され十一時より協議會を開
 き保育會提出の「保育事業の改善發達に關し保育會のとりへ

き方法」を議題として提案各意見を吐露して協議す又千葉女
 子師範學校附屬幼稚園提出の「園に備へつけの玩具を有効に
 使用する方案」に付ても種々意見を交換した十二時會議終了
 園より會員一同を蓬萊閣ホテルに招待して晝食を饗應し後隨
 意成田山參拜分園の秋色を賞し午後二時半から再び園で懇談
 會を開いた

お茶をのみながら隔てのない意見の交換又次回相互視察候補
 地は鴻の臺幼稚園に滿場一致決定この會合を閉ぢた

當日縣社會課より

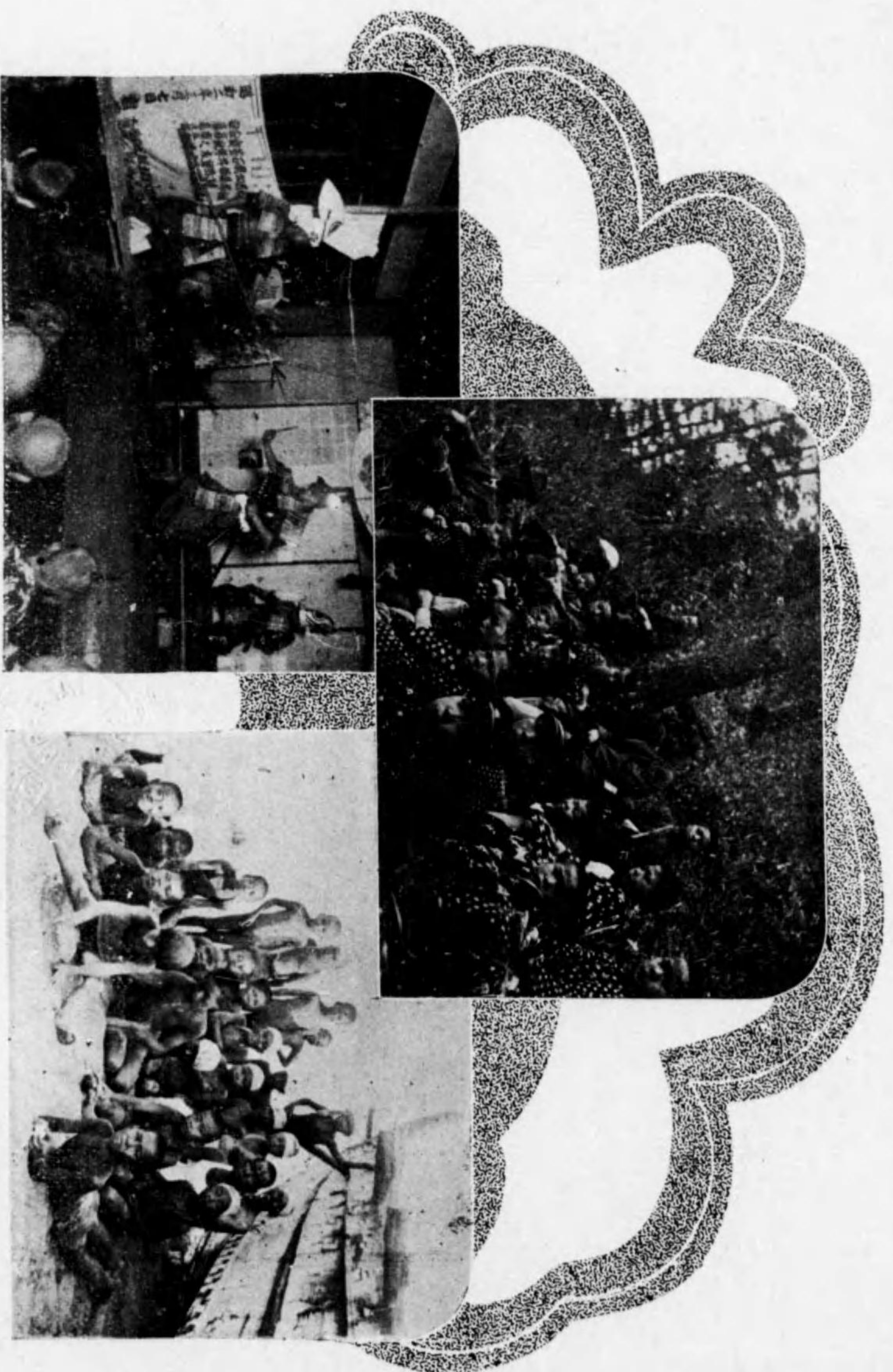
安田社會課主事を始め船本高木の諸氏、武田千葉女子師範附
 屬主事木村佐倉幼稚園長、楠本船橋幼稚園長、篠田幕張幼稚
 園長、椎名日本赤十字社富浦海濱學校長、大塚鴨川保育園長
 久保寺東葛保育學校長、石井松戸保育園長、香取郡より臨時
 出席の小學校長共々幼稚園保母諸氏であつた

成田學園一覽

今日一日ノ務	八三
平面圖	八三
沿革要項	八四
位置	八五
建物	八五
職員	八五
主要事項	八六
生活	八九
入園	九三
退園	九三
成績	九四
經費	九六
基本金ノ蓄積	九七
感謝錄	九七

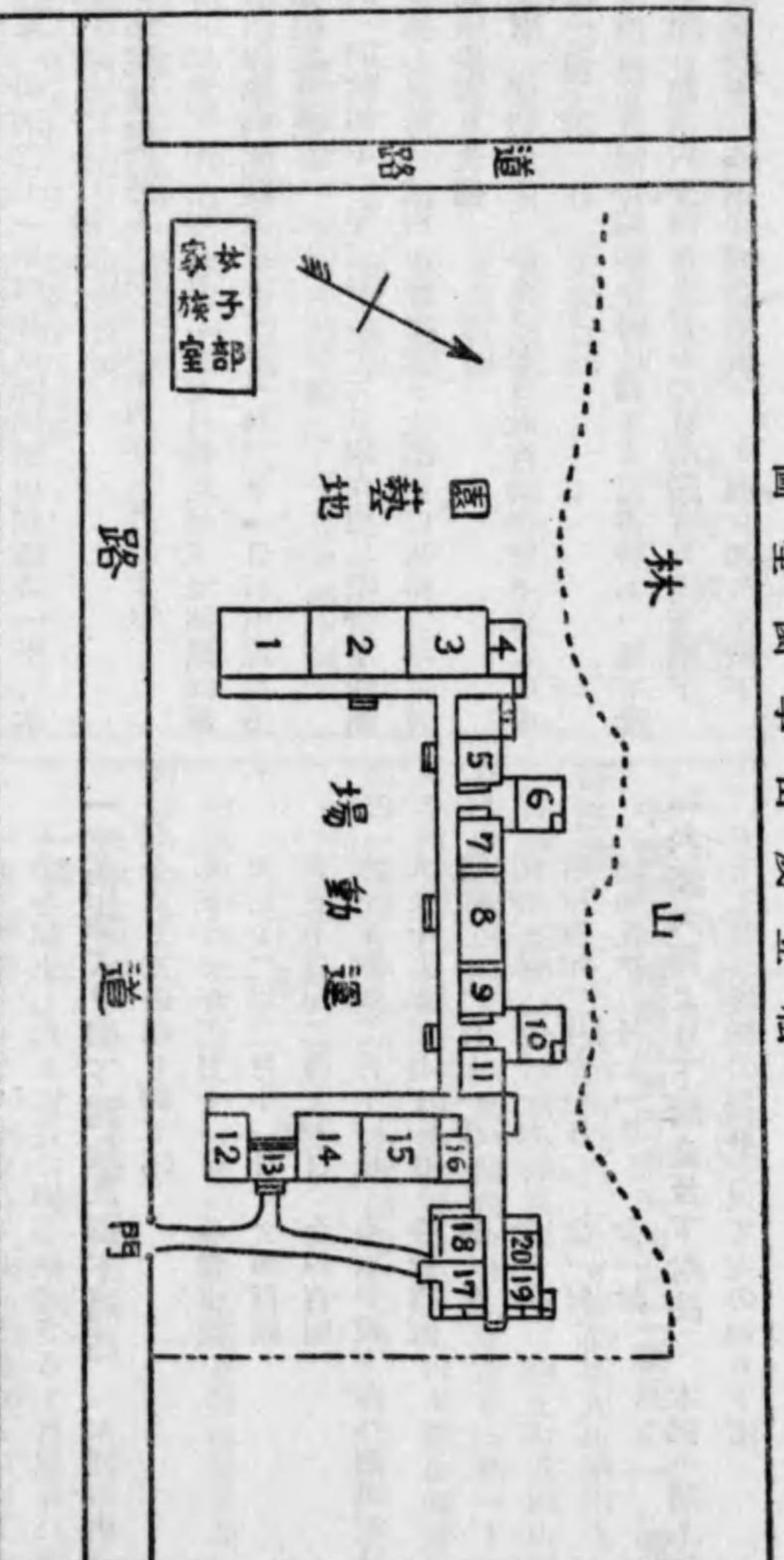
今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
 - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
 - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
 - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
 - 五、今日一日常に正直を旨とし決して虚偽を言はぬ事
 - 六、今日一日能く勉學し仕事を働く事
 - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
 - 八、今日一日人より受けた恩を忘れぬ事
 - 九、今日一日腹を立てぬ事
 - 十、今日一日仕事に倦まない事
 - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くら事
 - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
 - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
 - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
 - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし



(面方取香) 行旅學修
興餘の生園日念記浴水海るけ於に濱里九十九

私立成田學園全圖



1	講堂	面積千二百二十五坪
2	圖書室	
3	教室	
4	生徒室	
5	生徒室	
6	教師室	
7	生徒室	
8	手工場	
9	生徒室	
10	教師室	
11	生徒室	
12	事務室	
13	昇降口	
14	食堂	
15	炊事場	
16	洗風呂場	
17	主任室	
18	同家旅室	
19	病室	
20	新入生徒室	
21	物置	總建坪二百坪

私立成田學園一覽

(昭和五年三月三十一日現在)

◎沿革要項

- 一 創立 明治十九年十一月二十八日千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設
- 一 組織の變更 明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更
- 一 舊千葉感化院建築竣工 明治二十四年八月三十日
- 一 園長更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現院長就職
- 一 移轉改稱 明治四十一年三月二十五日現在地に院舎を新築して之に移轉し同時に成田山感化院と改稱更に昭和三年三月二十五日成田學園と改稱
- 一 御膳本下附 明治四十三年九月七日教育勅語膳本並に成申詔書膳本各一通下附
- 一 皇族御來園 明治四十四年十月十七日山階宮芳齋王殿下久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下

山階宮藤齋王殿下本園へ御成り被遊尙同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫君安子女王殿下を御伴はせられ本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本園よりは生徒製作に係る竹籠の中に三里塚名産の初芽を入れたるものを献上したるに直に御嘉納遊さるゝ旨恩命に浴したり

- 一 宮内省より御下賜金及御下賜品 本園事業御獎勵の思召を以て左の通り御下賜
 - 大正十一年二月十一日 金參百圓
 - 大正十二年二月十一日 金四百圓
 - 大正十三年二月十一日 金四百圓
 - 大正十四年二月十一日 皇太子殿下海外御巡遊日誌一部
 - 大正十五年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和二年二月十一日 金一封
 - 昭和三年二月十一日 金一封
 - 昭和四年二月十一日 金一封
 - 昭和五年二月十一日 金一封
- 一 内務大臣より下附金及下附品 本園事業上從來功績ありとし且つ獎勵の趣旨を以て左の通り下附

◎位 置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一(電話成田百三番)にして成田山境内に在り前面成田町幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約九町成田山不神尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約一丁にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白聖の一家屋を見るべし、本園即是れなり

◎建 物

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

- 一 敷地面積 一千二百二十五坪
- 一 建 坪 二 百 坪
- 一 建築費 一萬八千九百九十九圓

但し別に女子部家族室を有するも此中に算入せず敷地建物明細圖は前頁に掲ぐ

◎職 員

- 一 園主兼園長 成田山新勝寺住職 荒 木 照 定

一本縣知事より獎勵金 本園事業獎勵として左の通下附

- 大正十一年一月十三日 金壹百圓
 - 大正十二年三月九日 金壹百圓
 - 大正十三年三月二十五日 金壹百圓
 - 大正十四年三月二十七日 金壹百圓
 - 大正十五年三月三十一日 金壹百五十圓
 - 昭和二年二月三十一日 金壹百五十圓
 - 昭和三年三月三十一日 金壹百九拾圓
 - 昭和四年三月三十一日 金壹百九拾圓
 - 昭和五年三月三十一日 金壹百圓
- 一 平和記念東京博覽會より銅牌受領 大正十一年七月十日 先に出陳したる本園一覽に對し銅牌を贈らる

明治四十二年二月十一日 金壹百圓
 大正四年二月十一日 花瓶壹對(市岡素雲作) 青銅製松上ノ鐘模樣

一主	任	正八位大友	惟誠
一會計主任		淺井照次	
一教諭	師	寺西茂樹	
一教諭兼保母	師	大澤弘吉	
一保母見習	習	波川あき	
一篤志園醫		關川博道	
一篤志齒科園醫		久保田章	
一篤志整骨園醫		小倉桂	
職員中國内常住のもの左の如し			
一主 任		大友惟誠	
一教諭	師	寺西茂樹	
一教諭兼保母	師	大澤弘吉	
一保母見習	習	波川あき	

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論能く園長の精神と感化院職員たるの自覺とにより職務に従ふの外現在としては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし而かも此範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり

凡そ斯種事業に於て最も困難を感じる所のものは職員其人を得るにあり就中醫的方面に於ては何れも苦心しつゝあるの實情なるに當園は殆んど各科とも而かも篤志を以てせらるゝ高德の士を有す何たる幸福ぞや

關川博道氏は本園の當地に移轉以來引續き其職に在り其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を小倉整骨醫院小倉氏兄弟は整骨外科を擔任し下さる事となれりされば入園し來る兒童は精神状態薄弱なると共に身體亦強健ならざるもの多きにも係らず日を経るに従て健康状態良好となり稀に疾病負傷あるも後害を遺せし者なきは本園の最も欣幸とし最も誇りとする所にして前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所以なり

昭和四年度本園關係事項概要

- 一、園生入退園の狀況
 - 前年度繰越園生 二十名
 - 新入園生 十一名
 - 退園生 九名
 - 現在生 二十三名
- 二、園生の疾病

稱號	病名	治療日	稱號	病名	治療日
謹爾	ムトラホー	自四月八日	侃如	齒痛	六月二十三日
恂如	凍傷	自四月廿六日	時哉	齒痛	十月二十一日
不惑	腹痛	自四月廿九日	關如	頰腫レ	十月二十五日
間如	腹痛	自五月廿三日	卓爾	寒胃	一月二十八日
有中	脚氣	自八月廿七日	時哉	齒痛	一月三十一日
行之	耳疾	自九月五日	恂如	腹痛	二月一日
共學	手指裂傷	自十月九日	德行	凍傷	二月十一日
時哉	齒痛	自十月十七日	改貴	寒胃	二月十八日
德行	足部切創	自十月二十日	改貴	齒痛	二月二十七日
關如	脚氣	自十月廿三日	爲學	凍傷	自二月二十六日
成樂	脚氣	自十月十五日	進之	口唇裂傷	自三月十二日
不憂	脚氣	自十月廿五日	時哉	齒痛	三月十七日
卓爾	手刺傷	自十一月廿六日	改貴	齒痛	三月十七日
弘儀	耳腫レ	自一月二十八日	篤莊	齒痛	三月二十一日

本年度に於ける疾病は割合に多く誠に恐懼する所なり特に内一名は關川先生の御熱心なる御治療ありしにも關はらず脚氣衝心のため死亡せり園内に於て園生の死亡は之が最初なり

尚ほ本年は前表の外新に入園したる生徒のもち來りたる疥癬のため全員之れに侵され之れがため薬湯をたてること實に數週間其の浴劑は總て關川先生の篤志に仰ぎ幸に全治するを得たり

三、御下賜金及獎勵金等拜受

- 一、宮内省より御下賜金一封
 - 一、内務省より獎勵金壹百圓
 - 一、千葉縣知事より獎勵金壹百圓
- 右の外諸方よりの本年度寄附金合計四拾八圓なり

四、特殊事項

一、玄米食(三分搗)の斷行
前記疾病表に掲げたるが如く昨夏來頻々脚氣患者の續出するあり強ち食物の爲めのみにはあらざるべけれ共玄米食は殆んど完全食に近きものなるを聞き及び昨秋十一月より從來の麥飯を廢して玄米食に更へたり

二、御祝旅行

四月二十八日は園長の誕生日にして毎年園一同より御祝をなし園長よりは御菓子料を賜はるを例とせり本年は其の御菓子料をもとに職員生徒一同千葉市へ旅行をなし午前は袖ヶ浦に船を浮べ午後歩兵學校の運動會を見物し一同を悦ばしめ祝意を表せり

八、臨海生活

八月四日より同月二十五日まで、匝瑳郡白濱村尾垂に於て同所伊藤貞吉氏の篤志により同氏所有の家屋一棟を拜借してこゝに生活を移し愉快の中に心身の鍛練を計り少からざる好果を得たり

ニ、園葬執行

十月九日 前掲の如く昨秋十月八日脚氣衝心のため死亡せる園生あり誠に不幸なる兒童にして殆んど身内とともなきため園長の思召により墓地を隣地に撰定し翌九日さゝやかながら園葬を以て埋葬せり

ホ、印刷部の發達

昨年三月呱呱の聲を上げたる當園印刷部は其後順調なる發達をなし今や全く職人の手を煩はすことなく職員生徒のみにより相當の成績を挙げ其成績品も好評を博しつゝあり、目下の設備としては動力ロール印刷機(菊四頁)一臺、手フット印刷機一臺、斷裁機一臺活字類見積約七百圓(目下毎月四十圓位宛購入)等の外に穴あけミシン、針金綴機其他を有し追々擴張を計り居れりかゝる實科の常として最も困難を感ずるは教材の不足なるが當園に於ては成田山關係の事業多く又當園縁故者も多く夫等よりまわし來る印刷物のみにて十分な

昭和五年三月二十五日現在生狀況一覽

Table with columns for student names (イ, ロ, ハ, ニ, ホ, ト, チ, リ, ヌ, カ, フ, ナ, ル, ヌ, リ, チ, ト, ヘ, ホ, ニ, ハ, ロ, イ), birth dates, and family status.

るを以て其憂なく從て市井の印刷業者に影響を及ぼすと少く誠に愉快の中に進捗しつゝあり

昭和四年度 本園退園生狀況

Table showing student status for the 4th year of the Meiji 30 era, including names, birth dates, and reasons for leaving.

現在良成績の者 六名 成績普通の者 二名 死亡 一名 以上

園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躰をなすと共に信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神と爲すが故に此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居り其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雑放肆に流れざる様最も注意せり然れ共本園家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらず常

に便宜を主とし温き家風自然の慣例等により之を訓練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

日課及其説明を擧ぐれば左の如し

午前五時 起床二十分間の自強術を終りて直に掃除
午前七時 朝拜式

一、皇室の萬歳を奉祝す 二、大廟遙拜

三、成田山不動尊禮拜 四、各自先祖敬拜

午前八時 朝食

自午前九時至正午 學科

正午 晝食

自午後一時至四時 實科

午後五時 夕食

自午後六時至同七時三十分 自習

自午後七時三十分至同八時 自強術

午後八時 就寢

以上の如く定むると雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更することあり

起床 朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

切に徹底的に訓話をなす

食事 常に兒童の營養状態に留意し滋養に富める物を選び居るを以て中流家庭に劣る事なし而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本院の生活は總てに於て「共に」といふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

學科 概ね小學校令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後及びぶ事あり)の授業をなす但特に重きを讀方書方算術珠算等の實用學科に置き尋常科を卒業せし後猶ほ向上の見込ある兒童にして且品行最早差支なしと認めらるゝ時は中學へ通學せしむる事あり然らざる者には園内に於て高等科及補習科教育を授く又特に進歩の見込あるものには午前の學科とは別に夜間特殊の學科を授く例へば其兒童の將來に於ける職業を見込み論語英語實業講習録等を教ゆる是なり

實科 農業を主として外に活版印刷及簡易なる手工を課す但冬期は農業を行はず耕地は目下三段歩を有し追々擴張の見込なり印刷部は前掲の如く昨年度の創設にかゝり未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し主として新勝寺關係の印刷物を以て其實習材料に充て生徒中嗜好性能之に適せる者二三を撰びて習得せしめつゝあり園内に於ける實科に對しては生産的職業的技

自強術 自強術なる一種の體操は健康増進上甚良好なるを聞き職員先之が實地研究を試むる事數月前後大正九年十二月一日より從來の徒手體操に更へ朝夕二回之を行ふ事として今日に及べり確に効果を認む

清潔 清潔は本園の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を檢査す

衣類 普通の衣類を用ゆ會ては制服ありしも今は之を定めず

朝拜式 毎朝講堂に於て之を行ひ兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員先特に敬虔的態度を持し最も嚴肅を旨とし之を行ふ

本園修身教育の大本として教育勅語戊申詔書並に國民精神作興に關する詔書の聖旨を奉戴する事勿論にして之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信す本園の特色として成田山不動尊を信仰せしむる所以即是なり

訓話 一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就寢前不動尊禮拜の時之をなせ其平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何となれば職員は生徒と起臥を同らし行住座臥の間之が師たり父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなりされど個人に對しては機會を捕へ之に投じて其兒童に適

能を與へ實社會に出で直に夫に依て自活し得るものを選びざる可らずと論ずる者あり本園向より考量したる事にして今回印刷部の創設の如きも其一端なるが三四の業務を設備したりと到底全生徒の個性嗜好に悉く適合せしむる事至難にして強て職業を狭き範圍に押込む嫌あり殊に感化院に適する授業師たる人物を得る事困難にして施設繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり依て本院は教育終局の目的を主眼とし身體の鍛鍊精神の訓練特に勤勞性の養成を目的とし單に以上の三課を設くるのみ尤も年齢其他の關係よりして在園中職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み之に委託して本園より通勤其職業を見習はしむることあり

娛樂 兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に教化の目的を遂げんとし娛樂には相當の意を用ふ

一、家庭フットボール及少年野球 娛樂に供する外體力の養成にも資せんと之等を設けたるに一同は喜びて之を遊び晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり

一、圓球盤 ビンボン、カラム雨天の日には之にて遊ぶ

一、蓄音機 ラヂオ 祝祭日及日曜日の夜間又は談話會其他の會の際に之をなさしむラヂオはその子供の時間を生徒の時間となしをれり

一、生徒圖書室 此所に有益なるお伽噺雜誌、寫眞、繪畫等

を置き兒童の閱覽に供す

一、自由園藝 一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、箱庭作り等自由に園藝の樂を味はしむ

一、散歩、遠足及旅行 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜をなさしめ同時に散歩せしむ又附近神社佛閣の參拜水泳船遊魚釣蕨狩野栗拾或は單なる山遊び等にて數々山野を跋涉し郊外に遠足し娛樂に兼て體力の養成をはかり或は臨時に汽車電車等に乗りにて遠方への修學旅行をなす

一、三大節及本園記念日 當日は祝賀式後種々なる餘興をなして一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂となし居わり

一、角力 園内に土俵を設け夏期は殊に盛にとらしむ尙毎年九月に於て成田素人大角力あり生徒も出場せしむるを習とす

一、誕生祝 園長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團樂し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ早朝先不動尊に參詣其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又特に御馳走を供す

一、五月節句 講堂に幟を飾り柏餅にて茶話會を開く

一、降誕會及義士祭 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行いたる後園生の相談になる趣向によりて餘興をなす

するは本人の改善上一種の大きいなる暗示の力あるものと認めたるに由れり

一、問食 初は日曜日及毎月一日のみ之を與ふるの定めなりしも特志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せらるゝことあり又園長手許より生徒を慰めよて特に珍菓水菓子等送り來ること數々なるのみならず園教師へ他より贈られたる菓子等を總て生徒に分與するを以て實際に於ては問食の度數割合に多き方にして是等の方法は總て一般家庭の兒童生活と異なることなし

◎入園

一、年齢 滿七歳以上十五歳未滿(何れの地何れの家庭より依頼せらるゝも差支なし)

一、謝絶 一、白痴 二、不具者 三、非常に不健康なる者 四、不良程度のあまりに深き者

一、手續 本園の教育を依頼せんとするときは學校の通信簿を携へ保護者來園のこと 但し遠隔の地に在る方は郵送相談するも差支なし而して愈々入園の節は當園所定の書式(別に印刷せる用紙あり、それに記入のこと)による書類と戸籍謄本を差出さるべし

一、在園費 在園中は食費として左記の通り毎月三日までに

右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戯例へは輪廻し獨樂歌留多双六陣取鬼事將棊五目(其他種々)等は大概自由に任かし徒に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常とす

賞罰 總て普通の家庭生活と状態を同うせしむる希望なるが故に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本園の記念日にして當日は多くの賞與を與ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場合の外賞與を實行せず

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員の見を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

雜件 一、祭日 生徒中若し父母死したる者ある時は勿論其他最も近き先祖の命日に於て特に祭壇を設け香花供物を献じ一日の休暇を與へ祖先に敬拜の意を表せしめ終日謹慎せしむ

一、稱號 生徒在園中は特殊の稱號を用ひ本名は嚴に之を秘して呼ばしめず例へば志道サン爲徳さん好學サンと稱するが如し生徒よりして園長は御前様主任は先生主任妻女は奥サン他の職員は誰だれ先生と其姓を頭にして先生と呼べり生徒に稱號を用ふるは其依頼者に於て自己の住所氏名及其子供の氏名とは公然世上に發表せらるゝを好まざるの希望あるを知ると共に本園としては生徒入園の際に於て改めて新なる道德的名稱を附

前納するを要す

但し家計の都合上左記の金額を納め得ざる方には其一部若しくは全部を本園に於て補助す

- 一金拾圓 滿七歳より十歳まで
 - 一金拾貳圓 滿十一歳より十三歳まで
 - 一金拾參圓 滿十四歳より十六歳まで
- 以上

一備考 入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり又前記の書類と雖も依頼人の希望によりては本園に於て代書するも差支なし 入園の際は書籍 文具 衣類 夜具 等現に所有するものを持參の事 保證人は戸主にして身元確實なるものを撰定せられたし而して可成親戚中より撰ぶ方よし

新に入園生ある時は先づ入園前の非行に對し懇篤訓誡を加へたる後本園生活の要項を知らしめ最早不動明王の恵により全く生れ更りたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを諭し講堂に於て命名式を行ひ本園生活の人とならしむ

◎退園

生徒の改善を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり第一不

年 齡	期 間						計
	九歲以下	十	十一	十二	十三	十四	
一年未滿	1	3	2	4	6	9	31
二年未滿		3	1		6	9	31
三年未滿			3		6	9	31
四年未滿		1	2	3	6	9	31
五年未滿			3	2	6	9	31
五年以上	1			3	6	9	31
計	7	10	9	12	20	19	115

◎經費

本園には嚴密なる豫算なしと云ふ事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし嚴に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況んや厘錢に拘泥するが如きことなきは無論なりとて必要なき費を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信頼を與へて濫りに細小の

監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は儘に豫算を限定する以上において更に頗る便利を極め居れり左に記載するは本園移轉後の決算なり

金千六百十圓九十錢 明治四十一年度
 金千九百五十九圓四十八錢 明治四十二年度
 金二千八百八十五圓四錢 明治四十三年度
 金二千三百二十一圓八錢 明治四十四年度
 金二千六百七十五圓六十七錢 大正元年度
 金二千三百四十五圓六十三錢 大正二年度
 金二千三百三十二圓七十四錢 大正三年度
 金二千八百三十一圓五十七錢 大正四年度
 金二千七百八十六圓五十九錢 大正五年度
 金三千〇二十五圓八十八錢 大正六年度
 金二千六百〇八圓三十四錢 大正七年度
 金三千六百四十圓三十七錢 大正八年度
 金四千三百九十四圓十三錢 大正九年度
 金三千九百三十九圓一錢 大正十年度
 金四千六百八十七圓八十七錢 大正十一年度
 金四千七百二十一圓四十八錢 大正十二年度
 金五千五百四十七圓二十七錢 大正十三年度

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す(但し各團體より寄附せらるる雜誌等は之を略せり)

- 一金五圓也 福田眞四郎殿(成田)
 - 一金拾圓也 河合勇殿(成田)
 - 一金貳圓也 吉岡福太郎殿(成田)
 - 一金拾圓也 成瀬金太郎殿(成田)
 - 一金參圓也 石井フミ殿(成田)
 - 一金五圓也 佐瀬升之助殿(成田)
 - 一金五圓也 行方喜一殿(成田)
 - 一金五圓也 伊藤末吉殿(成田)
 - 一金五圓也 海瀬健示殿(成田)
 - 一金五圓也 若松分店殿(成田)
 - 一御菓子澤山 藤本三郎殿(成田)
 - 一理髮(毎月一回以上) 平澤晃殿(成田)
- 以上

◎本園基本金の蓄積

金六千九百二圓三十八錢 大正十四年度
 金五千九百九十一圓二十錢 昭和元年度
 金五千五百〇九圓二十五錢 昭和二年度
 金六千〇五十三圓〇五錢 昭和三年度
 金六千五百四十四圓九十一錢 昭和四年度
 合計金八萬四千五百八十一圓八十四錢

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金九千三十一圓三十三錢と勸業債券十圓券六十七枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるることなり

成田圖書館一覽

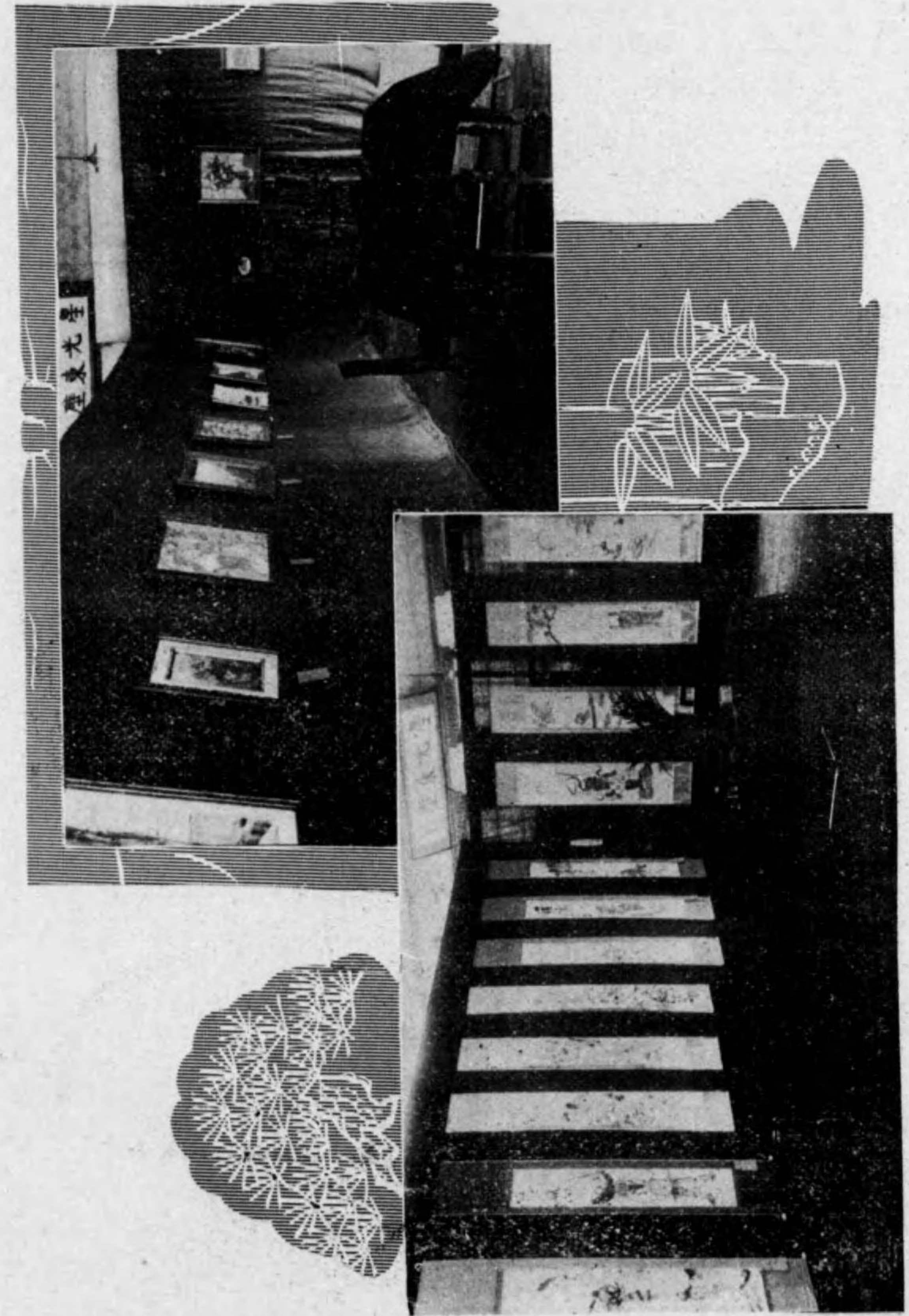
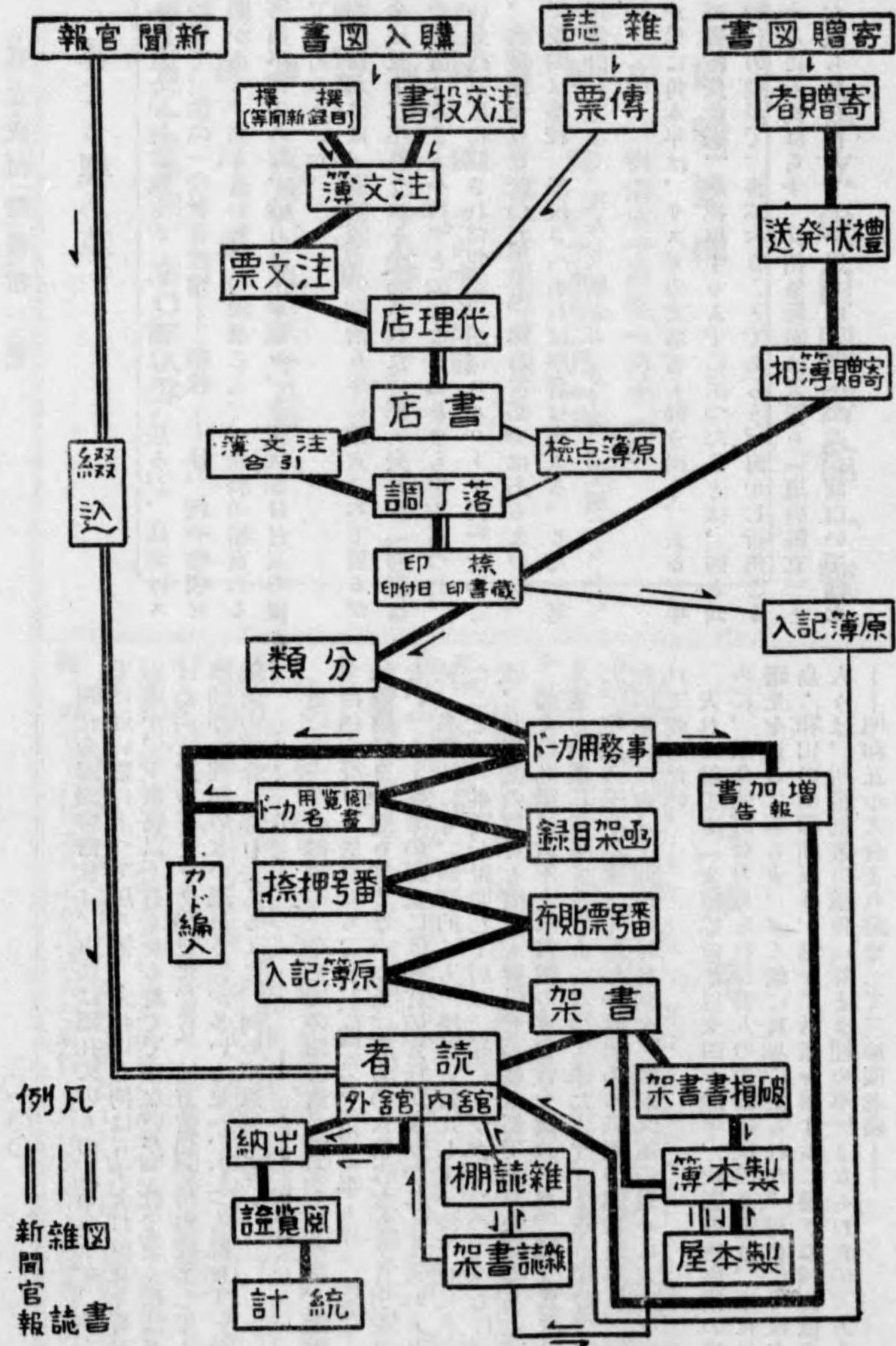
圖書館事務體系	九
尊き埋め草	一〇〇
館勢要綱	一〇一
沿革略	一〇一
本館と小學校との連絡	一〇二
圖書館講習會	一〇二
漫畫展覽會	一〇三
北總洋書展覽會	一〇三
建物及敷地	一〇四
經費	一〇五
藏書	一〇五
職員	一〇六
閱覽統計	一〇六
規則	一〇八
館外帶出規則	一〇九
圖書寄贈者芳名	一一一
雜誌新聞寄贈者芳名	一一三



成田圖書館

成田圖書館





北總洋書展慢書展

尊とさ埋め草

古來『教育と植林は氣ながに』と謂はれて居るが、此頃はス
 ビード時代で、他の一般教育設備——學校——は、稍や整頓せ
 られた觀がある。然も眞の教育の深泉にして、最終の結實たる
 べき圖書館事業のみは、餘りに牛歩遅々、武陵桃源日月長の優
 長ぶりではあるまいか。

國立圖書館だけは、學制頒布の明治五年に創立されて居るが
 圖書館令は三十二年にヤット公布された。然も夫れが『府縣は
 圖書館を設置することを得』と云ふなまぬるきものであつた。
 久しい封建制度に馴された我國民が、『スルトヲ得』位のこ
 とでは、其發達を見なかつたとも、寧ろ當然ではあるまいか。
 さうして學問は學校、學校さへあれば學者は出来る。こんな考
 は一般民衆計りでなく、役人も、學者も、さう考へて居たらしい。

夫れが兎に角本年は、サスガの文部省も動き出し、去る三年
 『全國圖書館長會議』を招集するまでに至つたことは、何と云
 ふても時代の進歩で、喜ぶべきことであらう。爾かし折角こゝ
 まで進めるにも拘はらず、其招集範圍は矢張り『道府縣立』と
 云ふ様な限られた役人で、平民共はと考へた處が面白いではな
 いか。

現在全國圖書館数は、中には標札丈のものもあらうが、約六
 千に近い數に上つて居る筈。夫れにも拘はらずまだ縣立を有せ
 ぬ處が、十數縣以上あるから驚くではないが、敢て驚くには及
 ばぬ。設立スルトヲ得』だから、地方當局が折角提案しても
 學問杯に理解のない議員さんが多いと見へ、いつも縣會で一筆
 鉤斷の運命に葬り去らるゝに、何の不思議もない。

更に今一つの御難は、今までの圖書館が親なし兒同然、無援
 の冷遇を受けて居たから、之れが擔當者を得る事も稍々困難で、
 餘程物好きの變り者でない以上、有力の人物はなか／＼引受け
 ない。——從來の縣立には縣官の官任が多かつた——夫れも其
 筈、名譽的にも、物質的にも、學校と對比して一段下位にあつ
 たことは、事實が證明して居る。好い人が多くなつて來なけれ
 ば、其事業の尊貴も權威も發揚せぬは當然であらねばならぬ。
 然るに此頃は追々と圖書館の重要性を認められ、隨て立派な
 人達が斯業に従事することになつて來た。ヤツと夜が明けて來
 た。宅嗣の芸亭以來一千餘年の歴史ある我國の圖書館界も、昭
 和の聖世に會ふて開花の時節到來、國家文運の爲めに大白を舉
 げて祝したい。

夫れに就ても『文庫協會』以來四十餘年、我圖書館事業の爲
 めに、献身的に努力せられた吾人の先輩諸氏の多數は、未だ此
 曙光を見るに至らず、多く既に冥界に去られた。現在にては市
 島・和田の兩顧問以外、僅かに數指を屈するに過ぎぬ。其他の
 人々は、所謂創業の犠牲『尊とさ埋め草』となられたのである
 —昭和五年大會より歸來して三柿園老猿—

私立成田圖書館一覽

館勢要綱

創立 明治三十四年一月十一日
 開館 同 三十五年二月一日
 位置 千葉縣成田町成田
 建物坪數 延 三百十九坪餘
 敷地 千二十八坪
 經費(豫算) 一萬四千圓
 藏書 九萬八千九百八十八冊
 職員 八名
 閱覽人員(一日平均) 百〇三人半

沿革略

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認
 可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す、現在地は本堂の東
 に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑は
 ず、されど茲に遺憾とするは、もと／＼本館閱覽室は圖書館と
 して建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水
 産物品評會開催に際し、其會場に貸與されたものにして、其
 後故石川貫首の歐米より歸朝せらるゝや僧正の發意に依り、斷
 然圖書館を開設するに決し、茲に洋行記念として本館は生れた
 り。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書
 齋のもの約七千餘、合計一萬五千冊を移して兎も角開館。當時
 は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閱覽室の四圍に書架を羅
 列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閱覽人の増加と共
 に職員も増し三十五年六月には和漢書分類假目錄完成、爾來年
 を逐ふて藏書増嵩愈々書庫の必要を痛感し三十九年三月書庫新
 築、四十年六月九日之が落成式を舉行し此日を以て本館永遠の

記念日となすに至る。

次いで三十八年二月より館外貸出を開始、蔵書も四十一年に及んで四萬冊を越えたれば茲に印刷目錄の切要を感じ四十三年十月和漢書分類目錄第一編を刊行し、更に大正三年三月第二編の印刷目錄を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閱覽人の便宜を圖る、降つて大正十三年館長石川僧正物故するに及び同年八月遺文庫約一萬四千冊を本館に移管せしを以て一躍蔵書十萬に垂んとするに至り従つて隣村への團體貸出及小學校學級出張閱覽其他各般の活動をも逐次實行するに至り現在では全國主要圖書館の一に數へらる。

行事

◎本館と小學校との連絡

讀書の鼓吹といふ點については、成人間に之を力むるよりも寧ろ幼少年の時代より書物に親しむの慣習と精神を胚胎せしむるの要あるは、今更言を俟たない事柄である。それについては、先づ圖書館と小學校との連絡を第一に考へなければならぬ。この點を本館は深く考慮し、先年來小學校と協定の結果、差當

◎臨海圖書館用圖書

昨夏、房總避暑地保田町に於て開催したる新更會主催臨海圖書館用圖書として、命に依り本館蔵書中より主として軽い讀物一千冊撰定の上開催地へ發送したり。

◎夏期大學參考書

昨夏、新更會主催にて同會に於て夏期大學開催の砌、命に依り參考用として本館蔵書中より約百餘冊撰定の上發送す。

◎漫畫展覽會

昨年九月六日より八日迄、成田としては空前の漫畫展覽會を開催す。漫畫は美術の一端として見るも面白く、また時事世態の百姿を通じて人情の機微を穿つところ無量のユーモアを感じるものである。

圖書館は強ち肩の凝るものゝみを喫せしむる處ではない。時に斯うした一掬の清涼劑を供給するも亦大衆教育の範疇であらねばならぬ。

各出品畫の作家は、斯界の巾幗である日本漫畫會々員の諸畫伯で、岡本一平氏をはじめ、池部鈞、水島爾保布、池田永一路、

り五年級以上の學童を、各級交替にて、殆んど隔日位に登館せしめ、約二時間自由讀書の良習を養成し、一方智識を涵養する傍ら、圖書館の實際智識を體得せしむるの方法を講じつゝあるが、其結果成績頗る良好である。

歐米諸國にては、既に實行し居る處も多々ある模様なるが、我國としては未だその例罕にして、小學校圖書館の極めて幼弱なる現今、大いに各地通俗圖書館の進んで實行すべき性質のものであらうと思ふ。

◎圖書館講習會

昨七月廿六日より廿八日迄三日間、本縣主催第三回圖書館講習會を本館に開く。盛夏の候にも拘はらず縣下斯道關係者悉く出席し、而も連日午前九時より午後四時まで講師はじめ講習員諸賢の營々啾々たる精勵振は蓋し講習會中の白眉といふも過言ではない。これ一に各位の熱誠に基くものなるべきも、亦之を側面より見るときは、本縣圖書館勃興の新氣運と見ることも能きやう。

因に講師及講習要目は左の如くである。

圖書館經營の眞髓 東京京橋圖書館主任 秋岡梧郎氏
町村圖書館の施設經營 山口縣明木圖書館司書 伊藤新一氏

田中比左良、細木原青起、清水對岳坊、宮尾しげを、前川千帆、森山三郎氏等及其他お馴染の大家で人氣を喚びたるも決して偶然のことではない。

殊に前記森山畫伯は連日會場に於て似顔畫の希望に應じたる爲め、場内一段の興趣を添へて、來觀者を喜ばしむる處大なるものがあつた。

◎北總洋畫展覽會

讀書週間の恒例行事として、昨年は十一月廿二、廿三、廿四の三日間北總洋畫展を開催した。

この展覽會の出品作家は、成田を中心に千葉、佐原、佐倉、等々北總一圓に亘るもので、言はゞ廣義の郷土藝術展とも見るべきである。隨て、繪畫本來の鑑賞以外に、郷土が生んだ洋畫、或は郷土人と其作品といった方面から見ても面白く、また此れが齎らす藝術趣味の涵養とか斯道の開發といふ意味から云つても意義深いものである。

この作品の大半は、謂はゆるアマチュアに依るものであるが、中に現在帝展推薦の富田温一郎畫伯をはじめ二三の尤物をあしらひたれば、一段の光彩を添へて觀衆に満足と與へる事が出来た。

出品點數は、油繪、水彩、パステルを通じて約六十點に達し

會場の狹隘をさへ感ずる状態であつた。この三日間を通じての來觀者は約二千に達し、開館中のことゝて相當の殷賑を極む。更に、この展覽會が齎した最も具象的効果として特筆すべきは、この洋書展を動機として、これに出品した作家有志の會同團結を見、新たに『郷陽會』と稱する成田中心の洋書團體が生れた事である。

この團體は本館をバックとして前記富田氏等を顧問とする少壯有爲のグループで、斯道の向上並に存在の確立上毎年一回當館で作品展を開催し、更に毎月一回同人の作品合評會をも開催するといふ確固たる面目を持つたものである。

この團體の將來は兎も角、この成立の因をなした展覽會の力こそ實に豫測し難きものではあるまいか。

○故木村泰賢文庫の入藏

先般惜しくも物故された文學博士木村泰賢氏は、印度哲學の權威者として最近まで東京帝國大學教授の要職にあり、令名ありたることは一般の知るところである。

従つて、同氏の研究に終始助力の功勤くなかつた愛藏の文庫約一千冊（主として洋書）は單に木村文庫としても、また其内容に於ても貴重なコレクションと云はねばならぬ。

この文庫が、散佚を免れて、奇しくも今回本館の藏書となり

たる事は、洵に同慶に堪えない次第である。やがて、これが整理の曉、多少なりと研究學徒に裨益する處があればこの上ない喜びである。

本館概要

○建物及敷地

本館	木造	延百十五坪餘
書庫	煉瓦造	延九十坪
附屬建物	木造、煉瓦造	延百十四坪餘
敷地		千二十八坪

建物は沿革中に述べた如く、所謂舊物利用のものなれば、決して誇り得べき態のものではない。勿論、改造を要する時機に到達してゐるものであるが、圖書館は學校と異り、年々定員の壓迫を感ずるといつた如く、目に見えての現實難といふことはない。然しながら圖書館と雖もその至寶である書庫に至つては寧ろ學校に於ける教室のそれよりも遙かに増加率の甚しいものである。學校に於ける學生生徒の應募率は、時に多少の消長はあるけれども、圖書館に於ける藏書の増加に至つては、古往今來消長のあり得べき筈はない。随つて本館の如きも、比較的

き閱覽室よりも、より新しき書庫の方が現實に困難を感じつゝあると云ふも、つまり如上の理由に基く所以である。

今回、この應急の緩和策として臨時書庫を設けたのである。頭記の「本館」と稱するは、主として一二階閱覽室及事務席をいふのであつて、「附屬建物」とあるは、應接室、閱覽人休憩所使丁室、及宿直室、住宅三棟等を指すものである。

尙、敷地は相當廣く、而も樹木鬱蒼稍々暗きに失する程であるが、實に庭園的美觀を保つに充分である。

○經費

○昭和四年度決算額

(一) 職員給、雜給	五、九七八、三〇
(二) 需用費其他	一、五二七、四〇
(三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等)	四、一二三、五五
(四) 營繕費	七四一、〇九
(五) 臨時費	一、二〇〇、〇〇
計	一三、五七〇、四四〇
昭和五年度豫算額	
(一) 職員給、雜給	六、七〇〇、〇〇
(二) 需用費其他	一、七五〇、〇〇
(三) 圖書費	四、〇〇〇、〇〇

○藏書

○昭和參年度増加書

和書	壹千八十冊
洋書	十二冊
計	壹千九十二冊

○昭和四年三月末日現在圖書數

和書	九萬貳千五百七十一冊
洋書	四千九百二十三冊
合計	九萬七千四百九十四冊

全世界に於ても、日本の出版率は依然四角を抜き、けに洪水の觀を呈し、なほ底止する所を知らざる状態にある。剩へ近時圓本の流行は特筆すべきもので、これ等の叢書の殆んど凡てが編輯物であり、單に裝釘を更めて出したに過ぎない程度のもの

であるか、これとて大衆に歓迎される以上は、或程度まで圖書館としても購入せねばならない。随つてこの洪水は波及して我書庫の洪水ともなる。加ふるに、年々雑誌の保存上、合冊製本の上入蔵するのであるから、その増加率は想像しても思ひ餘るものがある。この圓本は、何處でも以上の圖書館では、既刊書とダブる關係上相當厄介視するものであるが、翻つて小圖書館の立場から見れば、これ程都合のいいものはない。つまり小額の購入費を以て古來の名著を一通り揃へる事が能るからである。

本館は、斯うした通俗的のキワ物も置く必要があると同時に悠久性を有つた所謂學術書も購入せねばならぬ立場にある。随つて、藏書加重の速なるは、寧ろ當然の歸趨である。加ふるに、この間大小蒐書の寄贈あり、各冊の寄贈ある爲め、進行極めて早く、遂に今日では、藏書概約十萬と呼ぶに至つたのである。

職員

館主兼館長	荒木
顧問	高津
主任	高井
司書	成田
同	田善
	定吉

凡そ事業といふ事業に於て、その管理上分業とか、事務分掌とかいふことは、能率の増進上からいつても、また責任上からいつても、最も合法的であつて、敢へて謂はゆる近代のスピート時代でなくとも自明の眞理である。

この點から見て、本館も現在は各職員の仕事分掌を明確にし各々責任を以て能率を上げ得るやう事務の合理化を圖りつゝある。

昭和四年度 閱覽統計

種別	館内	館外	合計	百分比
事書	八〇八四	八三	八一九七	一五・九
隨筆	三九〇	一四二	五三二	六・六
神學	八五三	九六三	一八二五	三・九
哲學	二七〇八	一六二	四四九	九・六
文學	一四七	二四三	三九〇	四・六
地誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
法計	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
統制	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	四・六
地理	一四七	二四三	三九〇	四・六
統計	一四七	二四三	三九〇	四・六
數理	一四七	二四三	三九〇	四・六
醫學	一四七	二四三	三九〇	四・六
社會	一四七	二四三	三九〇	四・六
經濟	一四七	二四三	三九〇	四・六
行記	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜書	一四七	二四三	三九〇	四・六
叢書	一四七	二四三	三九〇	四・六
雜誌	一四七	二四三	三九〇	四・六
傳記	一四七	二四三	三九〇	四・六
歷史	一四七	二四三	三九〇	

積極的に讀書せしむると云ふ精神の下に、之を減少する事が一年制と相俟つて洵に妥當の方法であると信するのである。尙保證金を帶出料と改めたる理由は、勿論詳細なる收入を認めただけではなく、従来の保證金制度は、結局無料の如く考へらるれども、金五圓を即納すると云ふ事は、一圓のそれよりは稍億劫に感ずるもので、決して民衆的な簡易方法とは言はれない。然るに、例へ料として支拂ふにしても、僅か一圓ならば、比較的易々として、何人も加入する事が出来るといふものである。尙一圓制の一層有意義なるは料金となつて見れば、例へ低額とはいへ無料と異つて、其處に圖書を借りたと云ふ觀念に『時は金なり』といふ氣分が湧かないでもない。ならば一日でも本を遊ばせずに活用しやうといふ氣にもなる。即ち圖書館からいへば積極的に讀書せしむるといふ方針にもなるのである。而して年々此方法で新たな形式を踏むのであるから、活用しない帶出者といふのは殆んどなく、有権者の九割迄は活用し得る者といつて差支へない。例へ、改正後數に於て多少減少するとしても、質に於て意義あらしめる事が能るのである。この成果の如何については、やがて近く實行の上發表し得る相當の確信を有するものである。終りに附記いたし度いことは、この新制度は決して珍しいものでも新しいことでもない。幾多の圖書館で實行してゐる事

はあるが、只本館としては今までの永い因襲上誤解を招くおそれがある爲め、茲に一言加へて以て大方の諒承を願ふといふのみ。(別項貸出規則参照)

◎私立成田圖書館規則

第一條 本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智徳啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス

第二條 何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得

第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時	午後九時
午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時	午後八時

第四條 本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス
自一月一日 館内掃除 毎 月 末 日
至同 七日

紀元節 二月十一日 天長節 四月廿九日

記念日 六月九日 明治節 十一月三日

曝書期 九、十月、中 末 自十二月廿八日 至同 三十一日

第五條 本館ノ圖書閱覽ハ總テ無料トス

第六條 圖書閱覽希望者ハ圖書閱覽證(求書ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所へ提出シテ書冊ヲ借受クベシ)

第七條 貸附圖書ノ員數ハ求覽人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其中數ニ過ケルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス

第八條 借受ノ圖書ハ閱覽室外へ携帶スルコトヲ得ズ

第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ賠償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ本館臨時ノ揭示ニ從ハズ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ一ヶ月乃至一ヶ年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條 閱覽席チ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席チ侵スベカラズ

第十二條 閱覽所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ

第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラレトキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自

辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ之ヲ支辨ス

第十四條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館へ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ

委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ
委託ノ圖書ハ厚ク保護スト雖モ不幸火難盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任セズ

第十五條 館外圖書貸出特許規則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

◎成田圖書館圖書貸出規則

第一條 本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ

一、圖書帶出願書ヲ差出スベシ(用紙ハ本館交附)

二、圖書帶出願書ニハ本館ノ承認セル保證人ヲ要ス

三、帶出料金壹圓豫納スベシ

四、成田中學校、成田高等女學校、成田幼稚園、成田學園、新更會ノ教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス

五、新勝寺徒弟詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同校長ノ保證ニ依リ出ヲ許可ス

六、四、五項ノ場合ニハ帶出料ヲ要セズ

第二條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス

第三條 帶出期間ハ一ヶ年トス

第四條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ二冊以内洋裝ハ一冊トス

私立成田圖書館一覽

- 第五條 貸出期間ハ一週間以上三週間以内ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
- 第六條 期限ニ至リ尙續借セントフルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
- 但他ニ同書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第七條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ
- 第八條 帶出權ヲ得タルモノニシテ他所ヘ轉居シタル場合又ハ改名シタル場合ハ其都度届出ヅベシ
- 第九條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ
- 第十條 左記ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
- 一、大部ノ圖書
 - 二、各學科ノ事彙、辭書、類書、書目、新聞
 - 三、館内閱覽人ノ請求多キ圖書
 - 四、貴重高價ナル圖書
 - 五、新刊圖書ハ二ヶ月乃至三ヶ月後定期刊行書雜誌類ハ裝釘ノ上ニアラサレバ貸出セズ
- 第十一條 借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニ依リ再ビ之ヲ許可セザルベシ此場合ニ於テハ帶出圖書ノ代金ハ保證人ニ辨償セシムベシ

- 第十二條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ
- 第十三條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
- 第十四條 圖書帶出ヲ中止セントスル時ハ其旨届出ヅベシ
- 但帶出料ハ返戻セズ
- 第十五條 圖書帶出有効期間滿期トナリ引續キ希望ノモノハ再ビ帶出願書ヲ差出スベシ
- 以上

昭和四年 圖書寄贈者芳名

青森通俗圖書館	木村莊太	堺市役所	臺北帝國大學
淺井儀助	協調會	坂本慶治	大連圖書館
天野德三	京都帝國大學圖書館	佐田總重	臺灣總督府圖書館
育德財團	京都府立圖書館	澤田保勝會	高田芳枝
石川甚兵衛	桐島像一	島田保勝會	高田加奈
石崎直矢	金融研究會	神宮皇學館	高野照典
伊藤總平	久米武夫	神宮文庫	高松宮家
宇佐美景堂	啓明會	神宮文庫	高安文庫
塊國領事館	請川健藏	新宮文庫	高安文庫
大橋圖書館	光丘文庫	杉田正巳	田代秀德
小川保	光慶圖書館	關川博道	田中清一
海軍協會	侯爵前田家	關根智三郎	智山派宗務所
樺太商店	交詢社	關根智三郎	千葉縣學務部
川口橋	神戶市立圖書館	全國無盡集會所	千葉縣圖書館
川邊五助	故大住舜氏遺稿出版委員	泉水よし	千葉縣農會
川村昌助	互尊文庫	淺草寺教學部	千葉縣聯合產婆會
簡易保險局	故辰野博士記念事業實行委員	大通民論社	千葉地方裁判所
觀光社	故成田敬二	臺北高等學校	中央大學學員會
木內喜右衛門	金光教本部	臺北高等商業學校	朝鮮總督府
北村正信	近藤記念海事財團		

私立成田圖書館一覽

時金局	五	日露協會	一	松山青年聯合會	一
帝國水難救濟會	一	日本興業銀行	一	滿鐵社員會	一
帝國圖書館	一	日本交通協會	一	宮內正之助	一
帝國博物院	一	日本赤十字社	一	宮城縣圖書館	一
逓信省郵務局	一	日本圖書館協會	四	武藤元信遺著刊行會	一
鐵道新報社	一	わかご社	一	明治大學圖書館	一
東亞研究會	一	農林省農務局	一	本橋清	一
東京商工會議所	一	野崎末吉	一	諸岡薫	三
東京天文臺	一	萩原村次	二	文部省社會教育局	八
東京日日新聞社	一	函館圖書館	四	山縣公傳傳記編纂會	二
東北帝國大學	一	早川朝吉	二	山口圖書館	二
東洋協會	二	火比谷圖書社	一	山中文庫	一
東洋文庫	一	日比谷圖書館	三	愛國一無名氏	一
富山市立圖書館	一	平澤照章	一	養正時評社	一
富山藥學專門學校	二	藤山工業圖書館	一	養命坊執事	二
長崎縣立圖書館	一	古谷みつ	一	橫濱市圖書館	二
中山文化研究所	一	米國ワオルサム時計會社	一	龍谷大學圖書館	二
名古屋市役所	一	平路社	一	林業試驗場	三
奈良女子高等師範學校	一	辨理士會	一	渡邊寬五郎	一
奈良圖書館	二	寶文堂書店	一		
成田中學校	一	輔成會	一		
南奏音樂圖書館	一	前橋市立圖書館	一		
新潟縣立圖書館	二	松坂屋	四		

昭和五年 雜誌新聞寄贈者芳名

(每號寄贈者のみを掲ぐ)

荒木 照定	南 柯	關西藝術社	詩神社
アサヒ・グラフ	湖田 健二	露	詩 神
大阪日日新聞	土 上	熊谷町立圖書館	史談會
ジャパン・タイムス	牛込新報社	熊谷町立圖書館報	史談會速記録
房總日々新聞	牛込新報	公民教育會	十善會
石川縣立圖書館	英語青年社	公民	十善寶窟
石川縣立圖書館報	大阪出版社	高野山時報社	淨化會
石川甚兵衛	英文大阪毎日學習號	高野山時報	淨 化
外交時報	大阪商船株式會社	國民精神社	新興社
國家學會雜誌	海	國民精神	新 興
實 業	大竹又次郎	高野山大學密教研究會	清 觀
昭和日々新聞	新開及新聞記者	密教研究	新勝寺收納方
新歷史派	萬朝報	金剛社	日本觀業銀行報
內 觀	海防義會	金 剛	新變社
日本及日本人	海 防	佐倉中學校	新 變
三田評論	鐵田共濟會	校友會雜誌	須田寬治
三 越	河村泰太郎	時事新報成田專賣所	週間朝日
上原 綠葉	禪 宗	時事新報	砂丘社
女子の友		而眞會	砂 丘
新國民		密宗學報	生活社

私立成田圖書館一覽

凡人の力

正民新報社

正民新報

關川博道

結核

細菌學雜誌

兒科雜誌

社會醫學雜誌

千葉醫學會雜誌

東京醫學新誌

日本消化器病學會雜誌

皮膚科及泌尿器科雜誌

全國無靈集會所

無靈通信

淺草寺

淺草寺時報

大雄閣

佛典研究

大連圖書館

書香

臺灣總督府鐵道部

統計月報

高田定吉

東京毎夕新聞

高田好枝

婦人俱樂部

智山派宗務所

智山派宗報

千葉縣教育會

千葉教育

千葉縣社會課

千葉縣方面委員時報

千葉縣統計協會

統計

千葉縣農會

愛土

千葉高等女學校

松籟

千葉毎日新聞社

千葉毎日新聞

千葉民友新聞社

千葉民友新聞

帝國軍人後援會千葉友會

後援

帝國在郷軍人會本部

昭和公論

帝國水難救濟會

海

帝國圖書館

帝國圖書館報

鐵道省運輸局

外國鐵道調查資料

主要貨物情報

東京朝日新聞社調查部

讀書標

東京金物新報社

東京金物新報

東京市政調査會

圖書室月報

東京市養育院

東京市養育院月報

東京堂

東京堂月報

同人社

同人

東洋協會

東洋

特許局

特許公報

內閣統計局

統計時報

行方喜一

經濟知識

奈良縣立圖書館

奈良縣立圖書館報

成田高等女學校

校友會雜誌

成田中學校

校友會雜誌

日新時報社

日新時報

日本弘道會

弘道

日本赤十字社

博愛

野村教育研究會

教育パンフレット

博物館事業促進會

博物館研究

ばんだれ社

ばんだれ

日比谷圖書館

市立圖書館と其事業

藤崎公道

實驗治療

治療及處方

治療藥報

日本婦人科學會雜誌

ミュンヘンヘルメツチニツ

シエナツヘンシユリフ

臨床醫學

奉公會

奉公

法華會

法華

前橋市立圖書館

前橋市立圖書館報

松戸高等女學校

校友會雜誌

丸善株式會社

學燈

マルゼンス

アナウンスマンツ

滿鐵社員會

協和

宮内榮正

若草

無水庵

日本思想

森江書店

三寶

論曲界發行所

論曲界

よろこび會

よろこび

隣人の友社

隣人の友

早稻田大學校友會

早稻田學報

新更會

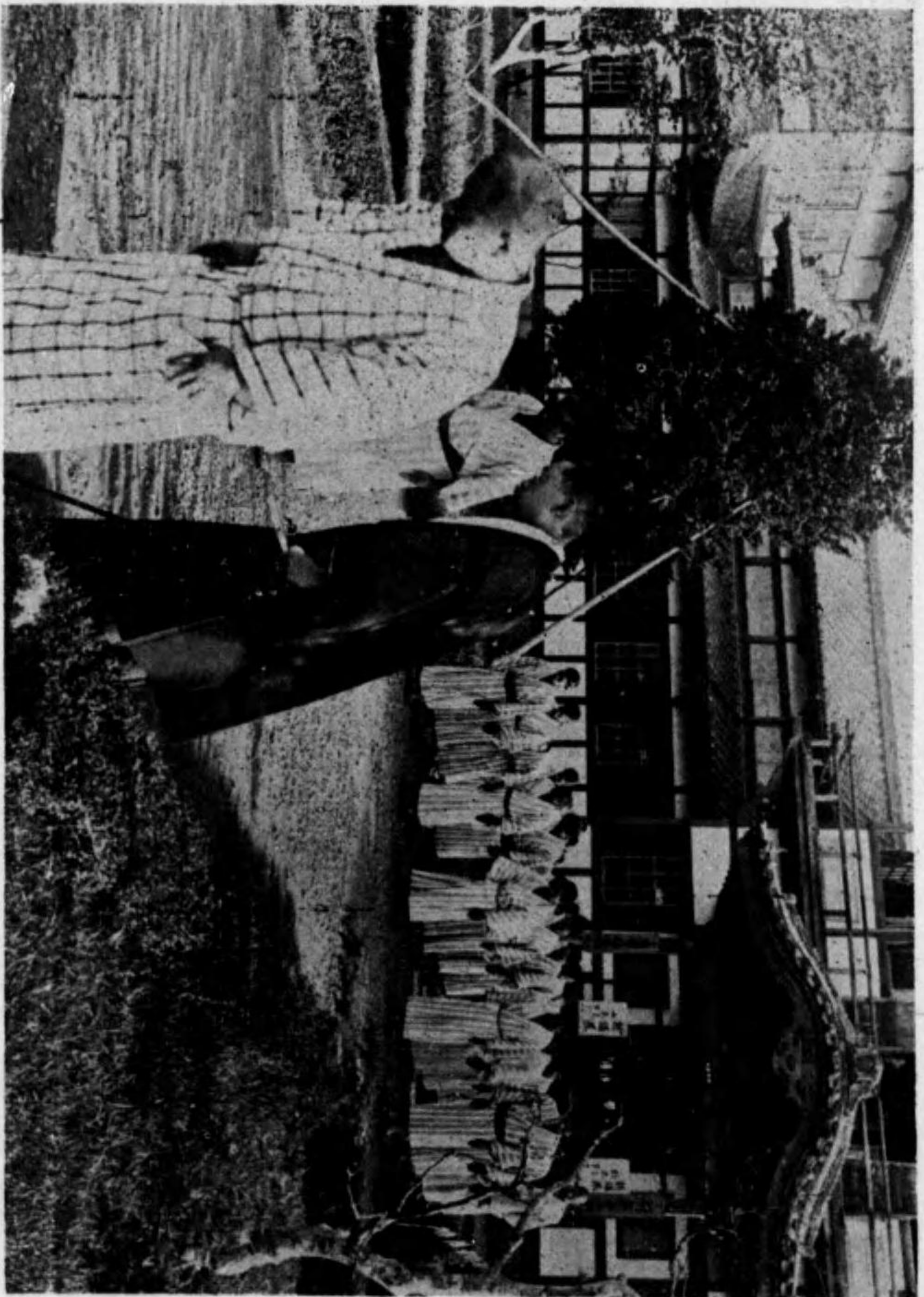
新更雜誌

私立成田圖書館一覽

新更會館一覽

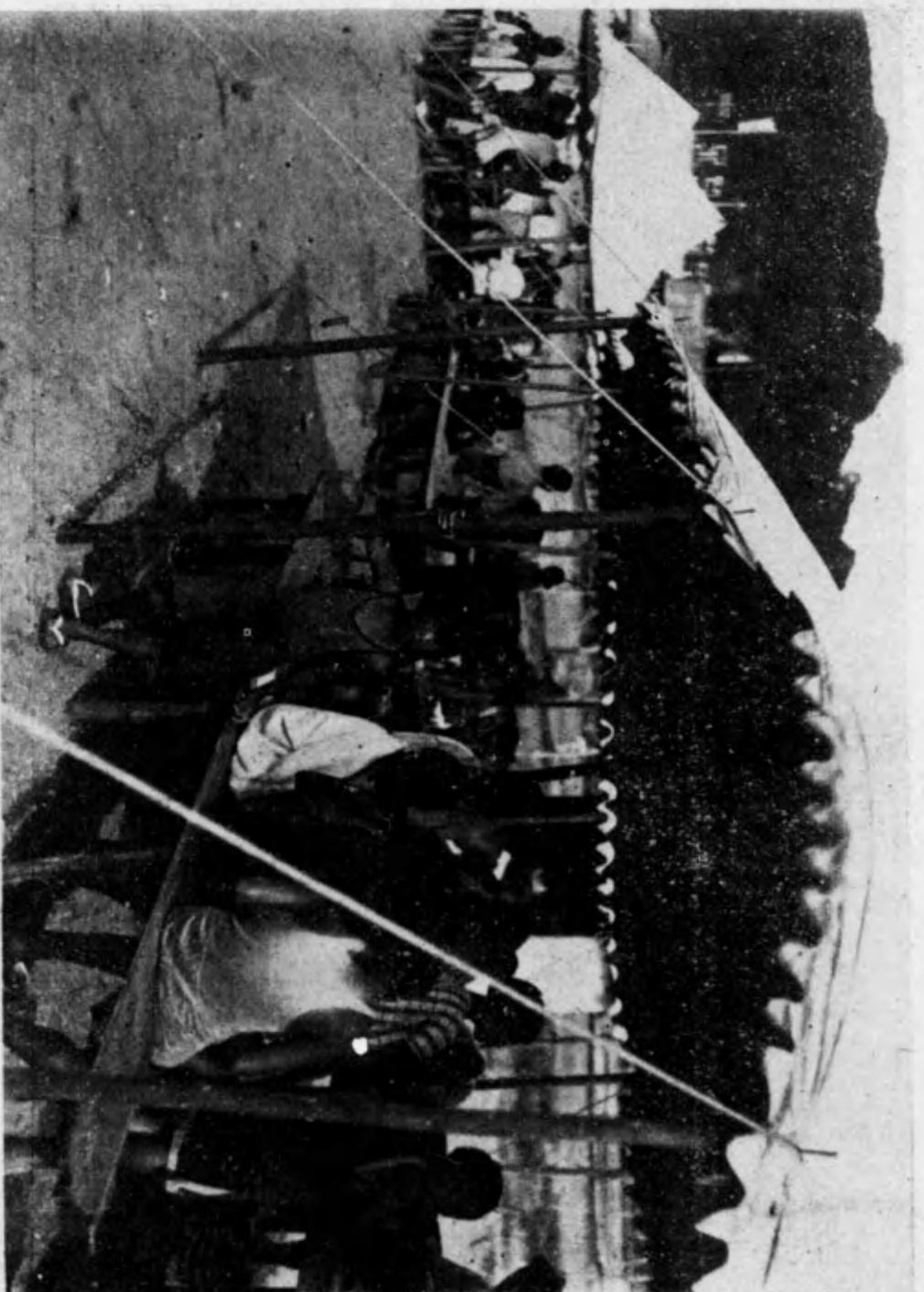
綱領	
新更會設立趣意	一一七
會則	
事業報告	一二二
職員	一三二

孫更會館一覽



生習講るす勝黙てひ向に城宮

深呼を吸する講習生



海臨圖書館の實況(於田保)



(見所習講期冬) 習實のイバトIオるけ於に前館會更新



(見所習講期冬) 習實の車動自るけ於に館會更新

綱 領

- 一、尊 皇 奉 佛
- 一、會員相互の親密連絡

新更會設立趣意

新更會は、成田山現貫主の純意を體して、昭和三年六月成立した處の修養團體である。

凡そ、現代の社會に視線を投ずる時、社會相は常に動搖變化止むことなし。勿論。宇宙間に存在するものは夫れが物質的と精神的のいづれを問はず、常に流轉變化するは毫も不思議とする所に非ざれども、一步は、一步より、より、よき方へと秩序共同的に進化せしめ、以て理想的社會を設定する様努力するところが、人類の使命である。

然るに、日本人現下の状態を見るに、誠に緊張を缺いてゐる。此の日本の地緩状態は、何時頃から始まりしやを、究明するに、そは日露戦後に始まり、歐洲大戰の好景氣時代に至つて、最絶頂に達し、然も全く慢性的になつてしまつた。夫れ故、大正九年の恐慌、十二年の大震災、昭和二年の銀行の大破綻等打續く

大事件に遭遇しても國民の間には、一向に緊張の様子は見られないで、今日に至つてをる。

國民の此弊風を今にして、一新更始せずんば、國家の前途實に憂慮に堪へないのである。總裁荒木照定氏が本會を起したるも、全く倦怠し切つた、此の人心に注射を施し、更始一新を計り民心を復興せんが爲である。

然し本會の更始一新は徒らに時流を追ふものではなくして、飽迄も人心の改造、忠孝無比の國民性の復活である。孔子の所謂『溫故知新』で舊文明の美點は何處迄も之れを保持し、更に是れより長所を調和融合して、新日本文明を創造せんとするものである。

更に換言すると書經にある所の『徳日新萬邦惟懷』といふ意味で一日一日と舊道徳より、新道徳を創造し、時勢に適したる新道徳により自分を律し、社會全體の發展、向上を計るのである。

吾人は此の人心刻々の改造、國民精神の更始一新の實を、廣義の教育に依て達成せんとするのである。教育の定義は色々あるが、要は人間二人以上寄りて、導き導かれ、又研き研かれる作用であると言ふてよい。それ故、教育は學校に於てのみ、行はるゝものではない。人間の接觸に依りて行はれて居る。

社會一切の現象は研き研かれる關係にあるので廣義に於ける教育と見て差支はない。只それに關係する人々に明確に意識す

る人が至つて乏しいのであるから本會は社會一切の運行を、教育關係と意識し、以て何事も教育的に取扱ふ様に世人の注意を喚起したい。本會の人心の更始一新とは此の點を指すのである。此の様な意味の教育を、在來の學校教育と區別する爲に、特に成人教育と呼ぶこととする。

本會の目的とする成人教育は上述の意味で行ふのであるから此の教育に於ては社會に發生する、凡百の人爲の現象、並に自然現象を自由に捕へて、教材となし、人々相互が、師となり、弟子となり、人々の知識を増し、考へ方を豊にし、趣味を向上せしめ、品性陶冶をなすのである。

斯様にして、刻々に個人完成を期すると共に、社會成員相互の理解を深くし、以て國家社會全體の向上、充實發展を計り、吾々の生存する社會を此の儘の樂土に化するが本會の使命である

新更會々則

目的

第一條 本會は會員相互の連絡親密を圖り皇國傳統の精神に基き國民精神を作興するを以て目的とす

名稱

第二條 本會は新更會と稱す

經營主體

第三條 成田山新勝寺住職荒木照定

位置

第四條 本會の本部を千葉縣成田町成田山公園内新更會館内に置く

事業

第五條 本會は第一條の目的を貫徹せんが爲に成人教育事業をなす。總裁は此れが専任主事一名、事務員、書記若干名を置き主事は總裁の指揮命令の許に事業を遂行す。但し總裁に事故あるときは理事會の決議を経て事業を遂行す。事務員、書記は主事の指揮命令の許に本會の事務に従事す

第六條

本會の事業種目左の如し
一、合宿講習の開設、會品相互の親密連絡を計る爲に、指導者と會員とは寢食を共にしての講習會を随時開設す
二、成人講座の開設 會員の希望要求に應じ研究と修養との機會を與ふる爲に名士を招して隨時講義を行ふことあるべし
三、修養講演會開催 會員及び一般社會人の爲に

時々名士を招して思想講演會を開催す

四、郷土史料の陳列 史料中文書に屬するもの又は歴史技藝に關するものを努めて蒐集し新更會館に陳列して會員及公衆の閱覽に供す

五、機關雜誌の發行 本會は雜誌『新更』を毎月發行し會員に限り之を配布す。其の他第一條の目的遂行の爲に臨時に事業を畫策經營することあるべし

六、圖書閱覽及貸出 日進の知識吸収に資すべき圖書の閱覽及貸出

七、會館の貸與 本會の目的に反せざる事業、集合、談話等に對し會館を貸與す

第七條 本會は一般特志家より郷土史料又は一般的教育參考品等の寄附を得たる場合、寄附者の住所芳名を附して是れを館内陳列場に永久に保存し以て寄附者の芳志を廣く一般の參觀人に知らしむること

第八條 本會の費用は寄附金を以て之に當つ

役員

第九條 本會に左の役員を置く

- 一、總裁 一名
- 一、主事 一名

第十條

一、理事 若干名
一、評議員 若干名
一、顧問 若干名
總裁は成田山現貫主を推戴す
理事は評議員中より互選し、評議員は總會に於て第六條の資格者中より選舉す。顧問及會計は總裁之れを囑託す

第十一條

但し理事評議員の任期は二ヶ年とし再選する事を得
本會の理事、評議員、顧問は左記資格を有する者たること

一、成田山に相當縁故ある者たること

一、本會に功勞ある者にして且本會々員たること
理事に缺員を生じたる時は其の都度補缺選舉を行ひ評議員に缺員を生じたる時は其の年度に於ける總會に於て補缺選舉を行ふ。但し緊急必要を生じたる場合は理事會の決議を経て總裁之を指名補缺することを得

第十三條

本會の役員は正當の事由なくして辭任することを得ず。但し止むを得ざる事故ある時は評議員にありては理事會の協議を経て是れを承認し、理事にありては評議員の決議に依り是れを決定す。若も評議員定

員の半数以上辭任の場合は評議員全員の改選を行ふものとす

第十四條 總裁は本會を統率し、會務を審理し、理事評議員は重大會務の諮問に應じ、顧問は總裁の諮問に應ず

第十五條 本會は毎年一回理事會の承認を経て通常總會を開く。但し評議員の半数以上會員百名以上の請求にして理事會に於て必要と認めたる場合は理事會承認の日より一週間以内に總裁の名に於て臨時總會を開くことあるべし。而して定期の總會に於ては事業の經過報告をなす

會員

第十六條 本會會員は滿十七歳以上の男女成人たること會員に正會員と普通會員との二種あり

第十七條 本會會員にして本會の體面を汚損し、又は本會の目的に違背したるものは理事會の決議を経て除名する

支部

ことあるべし

第十八條 本會本部は各地方との連絡を圖る爲に支部を置き會員二十名以上に達したる時は、支部長を置き會務を處理せしむ、支部長の任免は總裁これに任ず

第十九條 支部長の職務権限は本會評議員に準すべきものなり

第二十條 年一回以上總裁の名に於て全國各支部の支部長及會員を招集し大會を開催す。本大會は第十五條の日程と合致する様大會十日前に公示す故に第十五條、第二十條の大會は會員及支部長の合同大會なるを以て原則とす。地方支部の規則は別に定む

第二十一條 本會に功勞ありたるものは總裁之を褒賞す

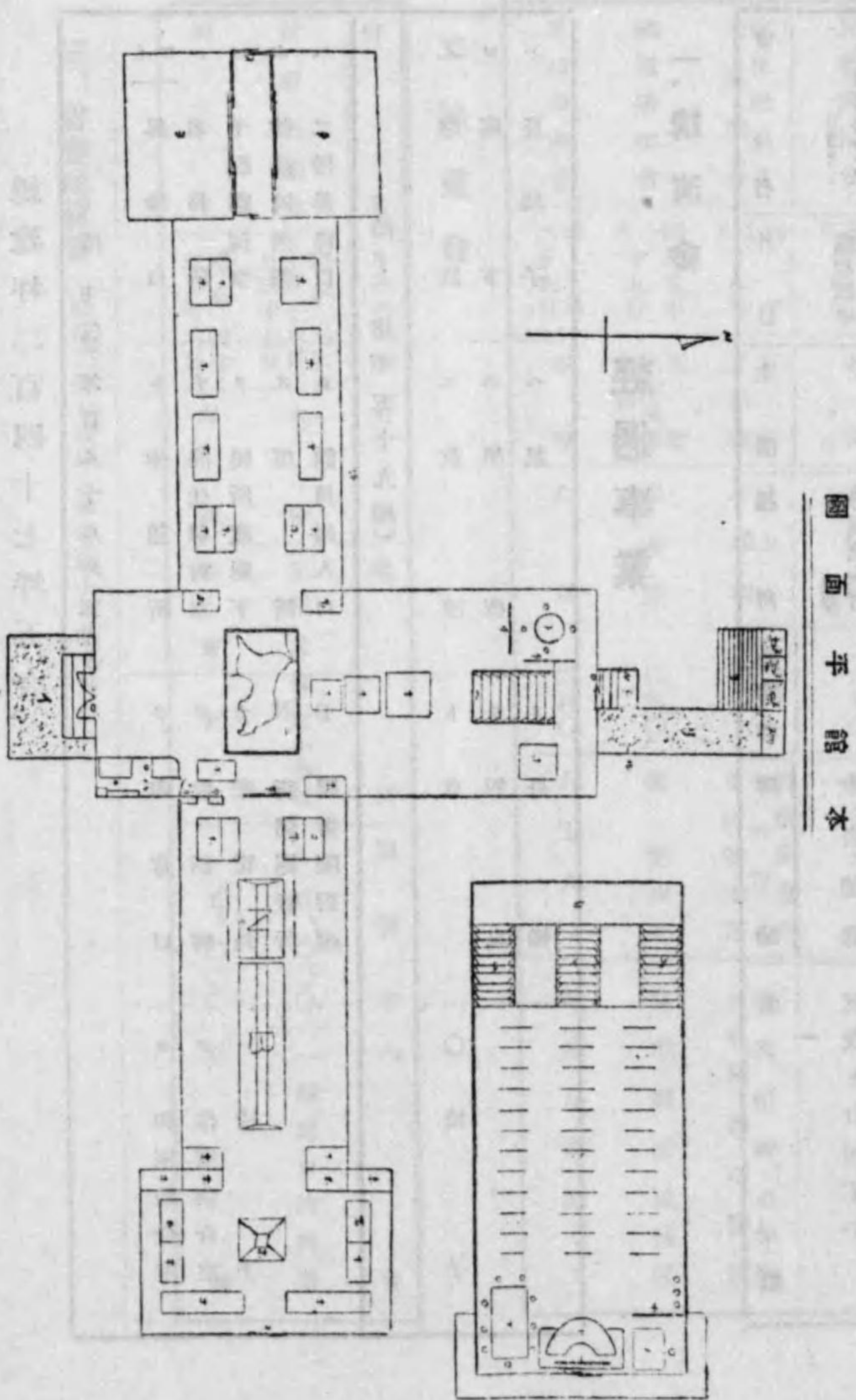
第二十二條 本會は専任主事、事務員、書記の外總て無報酬とす

第二十三條 本會々則の改正又は變更をなさんとするときは評議員四分の三以上の協賛を経通常大會の承認を経て更に總裁の認可を得て之を實施す

第二十四條 本會員にして轉居、轉動其他移動ありたる時は本部に通知するものとす

附則

本會則は公示の日より之を實施す



總建坪二百四十七坪五合

階下(建坪百八十八坪五合)

イ 昇降口	ト 休憩所	ヲ 非常口	ヨ 和室談合室
ハ 事務所	チ 問仕切對立	カ 配電箱	タ 洋室談合室
ニ 千縣縣模型	リ 便所渡廊下	N 新聞閱覽所	レ 椅子
ホ 物品陳列棚	ル 便所出入口	B 圖書陳列棚	
ヘ 二階昇降口			

階上(建坪五十九坪)

イ 階下段	ニ 教壇	ト 卓立	○ 椅子
ロ 廊下	ホ 黑板	チ 對外	
ハ 長椅子	メ 机	リ 外	

經過事業

一、講演會

會名	月日	主催	場所	聽講者	講師	演題
思想大講演會	昭和三年七月廿六日	本會	房州北條町小學校	二四〇	中島米峰 高島德藏 兒玉九十九	眞我とは何ぞや 婦人問題及婦人運動の意義 極東問題に對する史的考察

二、映畫會

會名	月日	主催	場所	所觀覽者	內容
思想講演會	昭和四年五月廿六日	本會	本會館	六五〇	新渡戸稻造 人類の第一要求に就て
教化總動員大會	同 年 月十八日	千葉縣會	小成學町校	二〇〇〇	後藤多喜藏 水野常吉 吉田敬太郎 國民精神の作興 公私經濟の緊縮
鐵道講演會	昭和五年一月十九日	千葉運輸事務所	本會館	二五〇	菅健次郎 歐米鐵道視察談
思想講演會	同 年 二月九日	本會	右同	二五〇	歐米を視察して

三、書畫展覽會

(特種ノ催シ以外ハ平常郷土資料ヲ陳列ス)

會名	月日	主催	場所	所觀覽者	內容
教育映畫會	昭和三年七月二十七日	本會	房州北條町小學校	八、〇〇〇	一般教育的映畫
同	昭和四年五月廿六日	右同	本會館前	五、〇〇〇	右同

會名	月日	主催	場所	聴講者	講師	内容	出品
現代名士書畫展覽會	昭和四年 自四月十六日 至六月十日	本會	本會館	一八、四四一	富田温一郎氏ノ 紙本		二八七
新日本書畫展覽會	自五月廿三日 至同月末日	右	同	三、二五六	富田温一郎氏ノ 紙本		三五
海外學生圖畫展覽會	昭和五年 自一月十五日 至二月十五日	右	同	五、五三〇	英米佛伊露等各 國小學生圖畫		七三三

四、講習會並に研究會

(▲印ハ寢食ヲ共ニシテノ指導者)

會名	月日	主催	場所	参加者	講師・指導者	科目
印旛郡青年團幹部講習會	昭和四年 自八月二日 至同月八日	本會	本會館	四五	▲兒玉九 ▲佐々木祖門十	青年指導
冬期町村青年講習會	昭和五年 自二月十二日 至同月二十三日	右	同	三八	▲高大山南榎山武島増佐 ▲佐々木祖門十 ▲佐々木觀 ▲井友口井田内田藤 ▲觀惟政榮正仙正國 ▲祖門海誠子助己貞嶺香榮二	青年指導 佛化教育ノ實際ト理想ノ問題 幼童教育ノ實際ト理想ノ問題 劍柔美英生哲國 理・術 衛生學史

五、夏期大學

會名	月日	主催	場所	聴講者	講師	講座
新夏期大學	昭和四年 自八月二日 至同月八日	本會	本會館	四〇〇〇	關川博道 ▲佐々木祖門	オノ村改ノ實習 農ノ村改ノ實習 手私經濟緊縮實行ノ方法
大夏期講習會	昭和四年 自八月二日 至同月八日	本會	本會館	四〇〇〇	▲佐々木祖門	青 年 指 導
新夏期講習會	昭和五年 自八月二日 至同月八日	本會	本會館	五〇〇〇	▲佐々木祖門	青 年 指 導

六、臨海圖書館

會名	月日	主備	場所	閱覽人	圖書冊數	內容
臨海圖書館	昭和三年七月廿日 至昭和四年七月廿日	新更會	房北條海岸	五、二九二	六〇〇	主トシテ文學、傳記、兒童等ノ通俗的ナモノ外ニ新聞、雜誌等
同	昭和四年七月廿日 至昭和五年八月廿日	同	房保田海岸	八、〇二三	一、〇〇〇	哲學、文學、傳記、社會等廣ク一般ニ涉ツテ撰ブ外ニ新聞、雜誌等

七、出版物、雜誌ノ部

誌名	名發行日	發行所部	數	發行責任者	法定種類
新更	每月十日	新更會	二、四〇〇	佐々木祖門	學術
靈光	同	同	三〇、〇〇〇	同	同
成田山詣	同	同	三〇、〇〇〇	同	同

圖書ノ部

書名	刊年	發行所部	數	次編	者	法定種類
現代の要求と國民の教養	昭和四年十二月廿日	新更會	一〇〇〇	初版	新更會	學術

外ニ時々教化ニュース、教化ポスター等ヲ發行ス。

各町村會員分布現在數

新更會支部所在地	支部	會長	會員數	設立年
豐住村	北羽	野平吉	五十八名	昭和五年二月
久住村	大室	小倉侃	三十三名	同
編富村	阪戸	押木平	三十五名	同
布鎌村	請方	鈴木龍	二十二名	同
久住村(西久住)	幡谷	赤坂龍	三十七名	同
中郷村	赤坂	寺内靜	三十七名	同
船穂村	戸神	伊藤忠	二十二名	同
根郷村	太田	宮野龍	七十七名	同

千代田村	八里村	富里村	和上村	川上村	遠山村	公津村	酒井村	旭井村
二名	三名	三名	三名	三名	四名	五名	一名	一名
內郷村	八街村	永治村	大森村	千葉郡睦村	君津郡金田村	東葛飾郡高木村	東葛飾郡高木村	成田郡土村
三十一名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名
昭和五年三月	同	同	同	同	同	同	同	同

第三回講習會出席者

住所	職業	氏名	年齢
彌富村内田二二	農	栗生保	二三
富里村中澤	"	菅沼昉	二五
彌富村坂戸	"	押尾平八郎	二五
富里村七榮五七六	"	宮本要治	二〇
中郷村野毛平五一	"	澤田博	二〇
同村赤萩一〇五〇	"	大徳富昌	二〇
同所一一八三	"	寺内泰治	二〇
同村野毛平五四五	"	澤田春雄	一八
同所一五二六	"	澤田勝雄	二〇
豊住村北羽鳥二〇三〇	商	野平吉衛	二四
和田村瓜坪五四	農	栗山芳重	二五
中郷村赤萩一〇三八	"	山倉爲次	二〇
船穂村戸神二二一	"	伊藤忠雄	二二
布録村請方六六八	"	鈴木光雄	二二
根郷村太出一〇六八	"	宮野龍作	二五
川上村勢田一四七	"	中島登喜雄	二〇
同所四四一	"	石井眞壽夫	二一
遠山村天神峯	"	根本明義	一八
同所	"	關根信義	二三

中郷村赤萩一一八三	"	寺内静	二四
久住村大室六六四	"	木内勘一	二二
豊住村興津七二	"	大野幸雄	二二
久住村大室六六六	"	小倉三代治	一九
八生村公津新田一八〇	"	後藤愛	二一
酒々井町馬橋四五六	"	齋藤俊雄	二一
同町中川三三七	"	岡田林作	二二
同町中川三四五	"	岡田勝海	二四
富里村七榮六三九	"	清水毅一	二六
富里村中澤一三五五	"	篠原潔	二三
彌富村内田五二	"	山本正美	二六
富里村七榮三	"	前原美喜雄	二三
同所二二八	"	水貝正夫	二一
同村大和五九九	"	並木武	一九
八生村松崎三四〇	"	湯淺又平	二〇
和田村瓜坪五〇	"	栗山竹司	二〇
同所六八	"	吉井貢	一九
久住村大室	"	木内正男	一八
川上村勢田	"	中島明	二〇

▲右ノ〇印ハ受講回数ヲ示ス

第三回冬期青年講習會概要

- 一、期間……昭和五年 自二月三日(十日間) 至二月十二日
- 一、場所……新更會館 (成田町成田山公園内) (電話成田二三四番)
- 一、宿所……新更會寄宿舍
- 一、人員……六十名迄(内傍聴者二十名を含む)
- 一、講習生ノ入所資格
 - 本講習會に参加せんとするものは
 - 既に新更會員たる者、又は年齢十八歳以上の者にして新更會地方支

一、講習の概要

- 朝の行事
 - 一、年前六時(起床)
 - 二、掃除
 - 三、洗面
 - 四、不動尊に参拜
- 畫の行事
 - 外國語
 - 生理衛生
 - 青年指導
 - 自動車實習
 - オートバイ實習
 - 美術

一、經費

- 一、參考書
- 一、參集ノ心得
 - 部長、又は地方青年團長等の推薦に依るものとす。
 - 講習生各自は講習費として白米三升に金壹圓を添へ當日持参のこと
 - 講習生が講習中用ひる參考書籍は全部本會より貸與す。
 - 講習生の參集時間は當日午前十時迄とす。其他の心得及携帶品に關しては毎回開催の夫れと異ならず
 - (詳細ヲ知りタキ者ハ參錢切手封入ノ上本會ニ付キテ聞クテ便トス)

夜の行事

- 一、課外講話
- 一、音楽
- 一、讀書會
- 一、座談會

- 五、默 禱
- 六、體 操
- 七、午前七時三十分(朝食)

思想問題
武 道(劍道、柔道)
感化事業の理論と實際
幼兒教育の理論と實際
佛 教

- 一、討論會
- 一、擬念(十五分)
- 一、體 操
- 一、十時就床

一、科 目……………と……………受持責任教師

外國史	成田高等女學校
生理衛生	成田中學校
哲學	成田幼稚園
柔道	成田學園
幼兒教育の理論と實際	新更會
感化事業の理論と實際	
自動車の實習(隨意)	
オートバイの實習(隨意)	
思想問題	
青年指導	

佛 教

備 考

成田圖書館

- 一、本講習ノ目的ハ國民精神ノ作興ト相俟テ町村青年ニ一般高等常識ノ通念ヲ注入シ、以テ町村ヲシテ
- 一ニ、青年ノ修養力ニ依リ合理化セントスルニアリ。
- 一、講習中ハ新更會佐々木主事常時青年ト起居ヲ共ニシ以テ責任アル指導ノ下ニ萬遺策ヲキナ期ス。
- 一、入所希望ノ士ハ同封官製葉書又ハ本人出頭ノ上本會事務所ニ申込マレタシ。

日 時	學 習 時 間 表
三 日	八時 十時 十時 十二時 十二時 二時 二時 四時
月 日	總 裁 の 教 示 國 史 (佐藤)
	生理衛生 (島田)

日 時	學 習 時 間 表
四 日	八時 十時 十時 十二時 十二時 二時 二時 四時
火 日	國語 (佐藤)
五 日	外語 (武)
六 日	外語 (武)
七 日	幼兒教育の理論と實際 (山口)
八 日	感化事業の理論と實際 (大友)
九 日	休
十 月	佛 教 (高井)
十 日	自動車の實習
十 日	オートバイの實習

職員

總裁兼館長
主事
事務員

荒木照定
佐々木祖門
杉山建樹
石橋敬一
中路

圖書資料 寄贈者芳名

寺院門前町としての成田の發達に就て	石川甚兵衛殿	香取文書纂外寫真一枚	香取神宮殿
昔清水後集草稿外四一點	三橋重郎兵衛殿	文貞公歌集外一點	小御門神社殿
成田山繪圖外三點	須田寬治殿	桑の作り方	印旛郡農會殿
成田山靈場實記	石井唯助殿	千葉縣青年處女旅行案内外十種	海保龍殿
謎の蒙古	山内平次郎殿	毎日常鑑	成田驛殿
歐米教育の批判	西山哲治殿	週間朝日(每週)	東京日日新聞社殿
下總國輿地全圖	潮田健二殿		重田兼殿

右之書籍、郷土資料を研究用として、御惠贈に預り御芳志辱く奉謝候。當館にありては長く保存し以て一般人の資料に供し候條こゝに厚く御禮申上候

昭和五年五月

昭和五年七月二十五日印刷
昭和五年八月一日發行

(非賣品)

編輯兼發行人 新更會代表

佐々木祖門

千葉縣成田町壹番地成田山公園内

印刷人 逸見五男

東京府下日暮里谷中本九七四番地

印刷所 新光堂印刷所

電話下谷一〇三八番

發行所 新更會館

電話成田二三四

258
別冊
101

終